講義要綱

2019 年度

経営学部

イベントプロデュース学科

2019・2018・2017 年度入学生用

＜１年生・２年生・３年生用＞

東京富士大学

TOKYO FUJI UNIVERSITY

SYLLABUS 2019

講　義　要　綱

SYLLABUS

2019年度

経営学部イベントプロデュース学科

＜１年生・２年生・３年生用＞

東京富士大学

― シラバスの利用について ―

このシラバスは、2019年度の春学期・秋学期に経営学部イベントプロデュース学科（１年生・２年生・３年生）で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが１年間の学修計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス（syllabus）は、ギリシャ語の sittuba すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目　次

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科＜１～３年生＞

《総合教育科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ	1	2	半期		1
基礎演習Ⅰ（留学生対象）	1	2	半期		3
基礎演習Ⅰ（再履修）	2～3	2	半期		5
基礎演習Ⅱ	1	2	半期		7
基礎演習Ⅱ（留学生対象）	1	2	半期		9
基礎演習Ⅱ（再履修）	2～3	2	半期		11
社会学	1～3	2	半期	宋　　愛	13～16
法学Ⅰ（憲法含む）	1～3	2	半期	坂入　遼 長岐　郁也	17 19
法学Ⅱ	1～3	2	半期	坂入　遼 長岐　郁也	21 23
心理学Ⅰ	1～3	2	半期	浮谷　秀一 松田美登子	25 27
心理学Ⅱ	1～3	2	半期	浮谷　秀一 松田美登子	29 31
哲学	1～3	2	半期	隅田　浩司	33
文学	1～3	2	半期	網本　尚子	35～44
文章表現法	1～3	2	半期	網本　尚子	45～52
生命科学	1～3	2	半期	古田　玲子	53
国際関係論	1～3	2	半期	黒澤　愛美	55
統計学	1～3	2	半期	松本　勇樹	57
就職特講	3	2	半期	野沢　牧子 宮地　由夏	59 61
就職特講（留学生対象）	3			塩谷由美子	63
コンピュータ・サイエンス	1～3	2	半期	萩野　弘道	65
コンピュータ概論	1～3	2	半期	休講	－
情報学	2～3	2	半期	鬼木　一直	67
情報処理Ⅰ	2～3	2	半期	休講	－
情報処理Ⅱ	2～3	2	半期	休講	－
多文化理解Ⅰ（留学生対象：指定）	1～3	2	半期	難波　俊樹	69
多文化理解Ⅱ（留学生対象：指定）	1～3	2	半期	難波　俊樹	71
多文化理解Ⅲ	1～3	2	半期	清水　俊樹 藤本　　学	73
多文化理解Ⅳ（留学生対象：指定）	1～3	2	半期	難波　俊樹	75
多文化理解Ⅴ（留学生対象：指定）	1～3	2	半期	難波　俊樹	77

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科＜１～３年生＞

《総合教育科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
多文化理解Ⅵ	１～３	２	半期	休講	－
健康と運動Ⅰ	１～３	１	半期	井上　航人 田島外志美 西村　卓二	79 81 83
健康と運動Ⅱ	１～３	１	半期	井上　航人 田島外志美 西村　卓二	85 87 89
健康と運動Ⅲ	２～３	１	半期	井上　航人 田島外志美	91 93
健康と運動Ⅳ	２～３	１	半期	井上　航人 田島外志美	95 97
日本語Ⅲ（留学生科目）	２～３	２	半期	糸川　　優 小林　寛典 塩谷由美子	99 101 103
日本語Ⅳ（留学生科目）	２～３	２	半期	糸川　　優 小林　寛典 塩谷由美子	105 107 109
日本の社会としくみ（留学生科目）	１～３	２	半期	糸川　　優 小林　寛典	111 113
インターンシップⅠ	１～３	１	認定	高橋　哲也	115
インターンシップⅡ	１～３	１	認定	高橋　哲也	117
インターンシップⅢ	２～３	１	認定	高橋　哲也	119
インターンシップⅣ	２～３	１	認定	高橋　哲也	121
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	１～３	各１	認定	高橋　哲也	123

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科＜１～３年生＞

《外国語科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
英会話Ⅰ	1	1	半期	木村　直樹	125
				Janet Johnson	127
				Brent Fialka	129
				渡邉きみ代	131
英会話Ⅰ（留学生対象）	2～3	1	半期	木村　直樹	133
英会話Ⅰ（再履修）	2～3	1	半期	木村　直樹	135
英会話Ⅱ	1	1	半期	木村　直樹	137
				Janet Johnson	139
				Brent Fialka	141
				渡邉きみ代	143
英会話Ⅱ（留学生対象）	2～3	1	半期	木村　直樹	145
英会話Ⅱ（再履修）	2～3	1	半期	木村　直樹	147
基礎英語Ⅰ	2	2	半期	阿部　牧子	149
				木村　直樹	151～154
				宍戸カール	155
				髙畑　一路	157
				渡邉きみ代	159
基礎英語Ⅰ（再履修）	2～3	2	半期	阿部　牧子	161
基礎英語Ⅱ	2	2	半期	阿部　牧子	163
				木村　直樹	165～168
				宍戸カール	169
				髙畑　一路	171
				渡邉きみ代	173
基礎英語Ⅱ（再履修）	2～3	2	半期	阿部　牧子	175
日本語Ⅰ（留学生科目）	1～3	2	半期	糸川　　優	177
				小林　寛典	179
				塩谷由美子	181
英語Ⅰ（初級読解／作文①）	1～3	1	半期	阿部　牧子	183
英語Ⅱ（初級読解／作文②）	1～3	1	半期	阿部　牧子	185
英語Ⅲ（中級読解／作文①）	2～3	1	半期	阿部　牧子	187
英語Ⅳ（中級読解／作文②）	2～3	1	半期	阿部　牧子	189
TOEIC Ⅰ	1～3	2	半期	宍戸カール	191
TOEIC Ⅱ	1～3	2	半期	宍戸カール	193
フランス語Ⅰ	1～3	1	半期	野口　恵子	195
				三冨　祐子	197
フランス語Ⅱ	1～3	1	半期	野口　恵子	199
				三冨　祐子	201

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科＜１～３年生＞

《外国語科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
中国語Ⅰ	１～３	1	半期	井上　良雄	203
中国語Ⅱ	１～３	1	半期	井上　良雄	205
ビジネス英語Ⅰ	２～３	2	半期	宍戸カール	207
ビジネス英語Ⅱ	２～３	2	半期	宍戸カール	209
日本語Ⅱ（留学生科目）	１～３	2	半期	糸川　　優 小林　寛典 塩谷由美子	211 213 215

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科＜１～３年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学	１～３	４	通年	石川　勝 円城寺敬浩 藤森　大祐 山口　善昭	219 221 223 225
経営学（留学生対象） 経営学（留学生_再履修対象）	１～３ ２～３	４ ４	通年 通年	小川　達也 小川　達也	227 229
経済学Ⅰ	１～３	２	半期	清水　良樹 松田　岳	231 233
経済学Ⅱ	１～３	２	半期	清水　良樹 松田　岳	235 237
イベント学Ⅰ	１～３	２	半期	奥　正孝	239
イベント学Ⅱ	１～３	２	半期	奥　正孝	241
サービス産業論Ⅰ	１～３	２	半期	日野　隆生	243
サービス産業論Ⅱ	１～３	２	半期	日野　隆生	245
イベントプロデュース論Ⅰ	１～３	２	半期	大山　利栄	247
イベントプロデュース論Ⅱ	１～３	２	半期	大山　利栄	249
入門簿記Ⅰ	１～３	２	半期	北井不二男 土井　充 福山　倫基 光澤　美芽 村上　翔一	251 253 255 257 259
入門簿記Ⅱ	１～３	２	半期	北井不二男 土井　充 福山　倫基 光澤　美芽 村上　翔一	261 263 265 267 269
マーケティングⅠ	２～３	２	半期	花尾由香里 日野　隆生 広瀬　盛一	271 273 275
マーケテイングⅡ	２～３	２	半期	花尾由香里 日野　隆生 広瀬　盛一	277 279 281
会計学Ⅰ	２～３	２	半期	石塚　一彌 土井　充 福山　倫基 光澤　美芽	283 285 287 289
会計学Ⅱ	２～３	２	半期	石塚　一彌	291

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科＜１～３年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
会計学Ⅱ	２～３	２	半期	土井　充 福山　倫基 光澤　美芽	293 295 297
企業論	２～３	２	半期	円城寺敬浩 清水　太陽	299 301
経営戦略論Ⅰ	２～３	２	半期	小川　達也	303
経営戦略論Ⅱ	２～３	２	半期	小川　達也	305
経営組織論Ⅰ	２～３	２	半期	山口　善昭 渡辺　泰宏	307 309
経営組織論Ⅱ	２～３	２	半期	山口　善昭 渡辺　泰宏	311 313
広告論Ⅰ	２～３	２	半期	荒井　誠 広瀬　盛一	315 317
広告論Ⅱ	２～３	２	半期	広瀬　盛一	319
会社法Ⅰ	２～３	２	半期	休講	－
会社法Ⅱ	２～３	２	半期	休講	－
民法Ⅰ	２～３	２	半期	隅田　浩司	321
民法Ⅱ	２～３	２	半期	隅田　浩司	323
経済法	２～３	２	半期	隅田　浩司	325
消費者法	２～３	２	半期	隅田　浩司	327
経営倫理	２～３	２	半期	休講	－
社会心理学Ⅰ	２～３	２	半期	佐藤　恵美	329
社会心理学Ⅱ	２～３	２	半期	佐藤　恵美	331
リスク・マネジメント論	２～３	２	半期	三好　陽介	333
イベントマネジメント	２～３	２	半期	休講	－
イベント企画・演出	２～３	２	半期	大山　利栄	335
イベント実施運営	２～３	２	半期	大山　利栄	337
イベントキャリア	２～３	１	半期	北原　隆	339
イベント実習Ⅰ	２～３	１	集中	大山　利栄 奥　正孝 志塚　昌紀	341 343 345
イベント実習Ⅱ	２～３	１	集中	大山　利栄 奥　正孝 志塚　昌紀	347 349 351
イベント実習Ⅲ	２～３	１	集中	大山　利栄 奥　正孝 志塚　昌紀	353 355 357

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科＜１～３年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
イベント実習Ⅳ	２～３	４	集中	大山　利栄 奥　　正孝 志塚　昌紀	359 361 363
専門演習Ⅰ	３～４	４	通年	大山　利栄 奥　　正孝 志塚　昌紀	365 367 369
専門演習Ⅱ	４	４	通年	未開講	－
プロフェッショナル・セミナーⅠ	２～３	２	半期	大山　利栄 奥　　正孝 志塚　昌紀	371 373 375
プロフェッショナル・セミナーⅡ	２～３	２	半期	大山　利栄 奥　　正孝 志塚　昌紀	377 379 381
プロフェッショナル・セミナーⅢ	２～３	２	半期	石渡　正人 大山　利栄 岡崎　正一 原　　晶子 三好　陽介	383 385 387 389 391
プロフェッショナル・セミナーⅣ	２～３	２	半期	大山　利栄 神渡　良平 堀口　弘治	393 395 397
プロフェッショナル・セミナーⅤ	３～４	２	半期	緒方　義人	399
プロフェッショナル・セミナーⅥ	３～４	２	半期	卜部　直也 林　　倖史 針谷　和昌	401 403 405
プロフェッショナル・セミナーⅦ	３～４	２	半期	野沢　牧子 宮地　由夏	407 409
プロフェッショナル・セミナーⅧ	３～４	２	半期	宇田川素子	411
流通論Ⅰ	２～３	２	半期	深澤　琢也	413
流通論Ⅱ	２～３	２	半期	深澤　琢也	415
消費者行動論Ⅰ	２～３	２	半期	中嶋　励子 花尾由香里	417 419
消費者行動論Ⅱ	２～３	２	半期	中嶋　励子 花尾由香里	421 423
中小企業論Ⅰ	２～３	２	半期	青山　和正 山岡淳一郎 山川　　悟	425 427 429

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科＜１～３年生＞

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
中小企業論Ⅱ	２～３	２	半期	青山　和正 山岡淳一郎	431 433
ベンチャービジネス論	２～３	２	半期	青山　和正 片山源治郎 金　　弘宗	435 437 439
人的資源管理論Ⅰ	２～３	２	半期	高橋　哲也	441
人的資源管理論Ⅱ	２～３	２	半期	高橋　哲也	443
知的財産法	２～３	２	半期	髙丸　涼太	445
労働法	２～３	２	半期	黒岩　容子	447
キャリア発達心理学	２～３	２	半期	伊波　和恵 松田美登子	449 451
商品論	２～３	２	半期	田口　冬樹	453
環境経営学	２～３	２	半期	藤森　大祐	455
管理会計論Ⅰ	２～３	２	半期	福山　倫基	457
管理会計論Ⅱ	２～３	２	半期	福山　倫基	459
イベントデザイン	２～３	２	半期	北原　　隆	461
観光イベント	２～３	２	半期	奥　　正孝	463
スポーツイベント	２～３	２	半期	佐藤　　潤	465
ユニバーサルイベント	２～３	２	半期	奥　　正孝	467
セールスプロモーションイベント	２～３	２	半期	清水　一郎	469
コミュニティイベント	２～３	２	半期	志塚　昌紀	471
アミューズメント	２～３	２	半期	志塚　昌紀	473
論文指導（卒業論文）	４	２	通年	未開講	－
簿記技能Ⅰ（日商３級対策講座）	１～３	２	集中	福山　倫基	475
簿記技能Ⅱ（日商２級対策講座）	１～３	２	集中	光澤　美芽	477

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。
　　Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル）。
　　Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

配当年次について

履修することのできる学年を表します。

１：１年生が履修できる科目です。
２：２年生が履修できる科目です。
３：３年生が履修できる科目です。

１～２：１年生・２年生が履修できる科目です。
１～３：１年生・２年生・２年生・３年生が履修できる科目です。
２～３：２年生・３年生が履修できる科目です。
３：３年生が履修できる科目です。

（注）「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本の社会としくみ」は、留学生科目です。

総　合　教　育　科　目

2019年度

経営学部イベントプロデュース学科

＜１年生・２年生・３年生用＞

東京富士大学

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

基礎演習 I	
Foundational Seminar I	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業の受け方や、授業の内容を理解するのに必要なこと、グループワーク、さらにレポートの書き方や、自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

加えてイベントプロデュース学科では、大学入学１年次最初のゼミとして、これから４年間の大学での学修活動、さらにはイベントの現場などで必要とされる、協働力、主体性、コミュニケーション能力、情報収集力、課題発見力、などを伸ばすことを目的としたアクティブ・ラーニングの実践を行います。PBL（Project-Based Learning）形式での課題を通じた問題解決を繰り返すことで、コンピテンシー（行動実践）とよばれる、「人間としての総合力：実務 IQ スキル」を育成します。プログラムには、「河合塾グループ X リアセック社」が開発した、主体性開発メソッド『タクナル』を利用します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える３つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える３つの実務 IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力）、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす２つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす２つの実務 IQ とは「思考力」と『創造性』です。この２つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす２つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす２つの実務 IQ とは、「協働力」と「主張力」です。この２つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組み、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%

評価の方法　課題、レポート、グループワークへの参加姿勢を総合的に評価します。
『学生要覧』記載事項に準拠し、単位習得に必要な授業への出席率は３分の２以上を前提とします（この出席率は「成績を保証する」というものではありません）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・「ギャップの王様」：議論の基本姿勢を身に付ける ・「こわい先生」「無人島」：実際に議論をしてみる ・「LINE で告白はアリ？　ナシ？」：主張と根拠・理由の重要性を学ぶ
3		
4		
5		
6	レポートを書く	・レポート作成の基本である文章の書き方を学ぶ ・アウトラインの作成の仕方を学ぶ ・「ダイエット方法を紹介してみる」：効果的な情報収集のやり方を考える ・「新入生に住む街を薦める」：手に入れた情報を分析する ・「文化祭の動物園」：読み手や聞き手の立場に立って考える
7		
8		
9		
10		
11	プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションとは何か、について学ぶ ・自分の意見を伝える技術について学びます ・「ブラスバンドの憂鬱」：プレゼンその① ・「The Tower」プレゼンその②
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇参考図書：『タクナル』リアセック社、 2015年

【履修条件等】

◇１年生全員履修します（選択必修科目です)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習課題が提示された場合は、次回の授業までに確実に課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

◇テキストの販売場所と販売時間は、通常の教科書販売と異なります。オリエンテーション時の教員の指示を注意して聞いておくようにしてください。

担当者	網　本　尚　子	井　上　航　人	小　川　達　也
	木　村　直　樹	志　塚　昌　紀	清　水　太　陽
	清　水　良　樹	高　橋　哲　也	田　島　外志美
	長　岐　郁　也		

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

基礎演習Ⅰ（留学生対象）	
Foundational Seminar I	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、日本の大学での学び方、たとえば、授業をどのように受ければいいのか、授業の内容を理解するためにはどのようにすればいいのかを理解した上で、日本語のレポートの書き方や口頭発表の方法を身につけます。

とくに、大学では、いろいろな知識を組み合わせ、自分で情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力)」です。今後、生きていく上で最も大切なこの考える力を身につけることがこの授業の目標です。
そのほか、グループで学習する方法も学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える３つの実務ＩＱをどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える３つの実務ＩＱ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力)、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす２つの実務ＩＱをどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす２つの実務ＩＱとは「思考力」と『創造性』です。この２つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす２つの実務ＩＱをどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす２つの実務ＩＱとは、「協働力」と「主張力」です。この２つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組み、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法　課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・適切な思考法として、論理の基礎を学びます
4		・意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・意見を整理する方法について学びます
6	レポートを書く	・レポート作成の基本である文章執筆について学びます
7		・レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・計画的な執筆について学びます
10		・効率的なレポートの書き方について学びます
11	プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションとは何か、について学びます
12		・自分の意見を伝える技術について学びます
13		・プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・プレゼンテーションを体験します
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくになし。教材は授業で指示します。

【履修条件等】

◇１年生の外国人留学生は全員履修します。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題が提示されますので確実に課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

◇入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから講義がスタートします。

◇授業計画は、受講人数や大学行事日程などを勘案して、変更することがあります。

担当者	糸　川　　優	塩　谷　由美子	小　林　寛　典

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

基礎演習Ⅰ（再履修）	浮谷（ウキヤ）　秀一（シユウイチ）
Foundational Seminar I	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業は、高校とは異なる大学での学び方、たとえば、授業をどのように受ければいいのか、そして授業の内容を理解するためにはどのようにすればいいのか、そしてレポートや自分の研究成果を発表するプレゼンテーションの方法等について学びます。

とくに、大学では、いろいろな知識を組み合わせ、自分で情報を整理し、それを分析することが求められます。そこで必要となるのが「考える力（思考力)」です。今後、生きていく上で最も大切なこの考える力を身につけること、これがこの授業の目標です。そして、大学の授業では、一人で勉強するだけでなく、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで一緒に作業するやりかたについても学習します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
心を整える３つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	「心を整える３つの実務 IQ」とは、「突破力」（物事に前向きに取り組む力)、「自制力」（自分をコントロールする力）そして「忍耐力」（失敗してもあきらめず、努力する力）です。 授業では、演習や課題に前向きに取り組む姿勢や、自分をコントロールして難しい課題に対しても簡単にあきらめない姿勢、そして課題でうまくいかないことがあっても、それを学びとして前進する姿勢を評価します。	30%
個性を伸ばす２つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	個性を伸ばす２つの実務 IQ とは「思考力」と『創造性』です。この２つは課題やレポート、そして授業の発言の中で、適切に考え、安易な結論に飛びついていないかどうか、いろいろな情報を整理し、それを組み合わせて新しい発想を生み出しているかどうかを評価します。	30%
仲間や組織で活かす２つの実務 IQ をどの程度、理解し実践できたか？	仲間や組織で活かす２つの実務 IQ とは、「協働力」と「主張力」です。この２つは、グループ学習での学習姿勢を通じて、グループ学習に前向きに取り組み、周囲に良い影響を与えているか、自分の意見が他の人の意見と違っていてもきちんと自己主張できているかどうかを評価します。	30%
社会常識を身につけることができたか？	授業を受けるに際しての最低限のマナー、社会常識を身につけているか、あるいは授業を通じて、そのような社会常識やマナーを身につけることができたかどうかを評価します。	10%
評価の方法　課題、レポート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	大学での学びとは？	入学式後のフレッシュマン・オリエンテーションへ参加
2	学び方、考える力を身につける	・成果の出る学び方（学習方法）について学びます
3		・適切な思考法として、論理の基礎を学びます
4		・意見を述べる際の議論の組み立て方について学びます
5		・意見を整理する方法について学びます
6	レポートを書く	・レポート作成の基本である文章執筆について学びます
7		・レポート作成の基本技術、アウトライン作成を学びます
8		・参考文献リストと文献の活用方法について学びます
9		・計画的な執筆について学びます
10		・効率的なレポートの書き方について学びます
11	プレゼンテーションをする	・プレゼンテーションとは何か、について学びます
12		・自分の意見を伝える技術について学びます
13		・プレゼン資料の作成方法について学びます
14		・プレゼンテーションを体験する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：初回の授業で指示する。

◇参考図書：狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方：根拠に基づく正しい議論のために』慶應義塾大学出版会、2015年（1,944円）

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、予習課題が提示されますので確実に予習課題をこなしてください。

【その他の注意事項】

1)入学式直後に行われるフレッシュマン・オリエンテーションから講義がスタートします。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

基礎演習Ⅱ	
Foundational Seminar II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、４年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え 方について理解をしているか確認するため、自由 記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法　授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。ＰＤＣＡサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要となる企業分析調査
12	就職試験総論	ＳＰＩ試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：４年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

担当者	網　本　尚　子	井　上　航　人	小　川　達　也
	木　村　直　樹	志　塚　昌　紀	清　水　太　陽
	清　水　良　樹	高　橋　哲　也	田　島　外志美
	長　岐　郁　也		

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

基礎演習Ⅱ（留学生対象）	
Basic Seminar II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、自分のキャリア・デザインを意識して大学生活を送ることができるようになるよう指導します。日本の企業慣習、就職活動の流れなどを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかを理解し、大学での学びが深まります。将来への準備に早期に取りかかることができるので、就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際に自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う。自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法　授業時の課題75点(受講態度含む)、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活の目標やスケジュールを考える
3	大学生活を充実させる②	インターンシップについて
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について、アルバイトについて
7	労働と収入	給与・生涯賃金について
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要となる企業分析調査
12	日本の就職活動①	日本の就職活動のしくみと流れ、在留資格について
13	日本の就職活動②	内定者報告会：４年生による内定報告とレポート作成
14	日本の就職活動③	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇授業計画は、受講人数や大学行事日程などを勘案して、変更することがあります。

◇大学生活の重要事項を周知することがあるので、欠席しないようにしてください

担当者	糸　川　　優	塩　谷　由美子	小　林　寛　典

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

基礎演習Ⅱ（再履修）	浮谷（ウキヤ）　秀一（シュウイチ）
Foundational Seminar II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、自分の将来設計、すなわち「キャリア・デザイン」の基本的な考え方について学びます。講義では、キャリアとは何か、そして、職業を選択すること、組織や企業で働くことの意味を考え、その上で、最終的には自分のキャリアをデザインすることができるようになるよう指導します。この講義を受講することによって、自分のキャリア・デザインを踏まえて、大学で何をどのように学ぶべきかがはっきりと理解できるようになり、大学での学びが深まります。そして、さらには、将来への準備に早期に取りかかることができるので、４年生の時の就職活動にも役立ちます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリア・デザインをしていく上で必要になる考え 方について理解をしているか確認するため、自由 記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法　授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	キャリア・デザイン総論	講義の概要について解説
2	大学生活を充実させる①	大学生活に目標やスケジュール。ＰＤＣＡサイクルを考える
3	大学生活を充実させる②	海外留学・インターンシップについて解説
4	ライフプラン	大学卒業後の進路選択、30歳までのライフプラン
5	働くとは何か	できること、やりたいことを基礎に働くことを考える
6	働く人の権利	労働法の基礎について解説
7	労働と収入	給与とは何か。奨学金と生涯賃金について解説
8	自己分析	価値観と雇用のミスマッチについて
9	資格取得	キャリア形成と資格取得の意義について解説
10	大学生活を充実させる③	ゼミ発表大会に参加しレポートを作成
11	企業分析・業界分析	キャリア・デザインに必要となる企業分析調査
12	就職試験総論	ＳＰＩ試験など就職に関する試験について解説と体験
13	就職試験体験	内定者報告会：４年生による内定報告とレポート作成
14	就職試験体験	ビジネスマナー（服装・ビジネス文書など）について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇キャリア・雇用に関する時事問題について指示された内容を新聞・雑誌等で調査する事前課題が出る場合があります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

社会学（春学期開講）	宋（ソウ）　愛（アイ）
Sociology	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

身近な現象を社会学的に解説していく。身の回りの馴染みのあるような現象から、戦後社会の変容に迫り、さらに戦前、そして近代の起源に遡る。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	15%
小レポート	授業の内容についての小レポートを学期中に提出してもらいます（予定では３回)。	45%
期末レポート	授業の内容に関する資料を読み、レポートを作成してもらいます。提出は学期末。	40%
評価の方法　授業内での態度、小レポート、期末レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	社会学とは何か？
2	ロックフェスとは何か	ロックフェスの変容、カルチュラル・スターディズ
3	「かわいい」とは何か(1)	アイドル論、ファン文化論
4	「かわいい」とは何か(2)	盛り女子、インスタ映え、消費社会論
5	グローバル化とは何か(1)	移民、多文化共生
6	グローバル化とは何か(2)	「文明の衝突」、文化帝国主義、
7	情報社会とは何か(1)	地域メディア、インターネットの誕生
8	情報社会とは何か(2)	草の根のコミュニケーションは社会を変えるか
9	情報社会とは何か(3)	デジタル・デバイト、「フェイク・ニュース」
10	性別とは何か(1)	ジェンダー、セクシュアリティ
11	性別とは何か(2)	メディアにおける女性表象
12	家族とは何か(1)	性別役割分業、家族形態の変容、少子高齢化社会
13	家族とは何か(2)	家族内の自己形成
14	若者とは何か	若者論、1968論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要な資料については教員が適宜準備して配布します。

◇教科書を指定しませんが、以下の書籍は参考にすると理解に役立つでしょう。

長谷川公一等（著）『社会学』有斐閣

友枝敏雄（編著）『社会学の力　最重要概念・命題集』有斐閣

見田宗介（著）『現代社会はどこに向かうか　高原のみばらしを切り開くこと』岩波新書

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

社会学（秋学期開講）	宋（ソウ）　愛（アイ）
Sociology	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

前近代社会から近代社会へ、そして近代社会からいわゆる「高度情報化社会」へ変容してきた過程を遡る。＜メディア＞を中心概念として、それぞれの社会形態の特徴を解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	15%
小レポート	授業の内容についての小レポートを学期中に提出してもらいます（予定では３回)。	45%
期末レポート	授業の内容に関する資料を読み、レポートを」作成してもらいます。提出は学期末。	40%
評価の方法　授業内での態度、小レポート、期末レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	「現代社会」とは何か
2	近代とは何か	マルクス、マックス・ウェーバー
3	国民国家とは何か	帝国の解体、ナショナリズムの世紀
4	民族とは何か	「民族という虚構」
5	ホロコーストとは何か	バウマン、ハンナ・アーレント
6	マス・メディアとは何か(1)	近代新聞の誕生、出版資本主義
7	マス・メディアとは何か(2)	映画、ラジオの登場
8	マス・メディアとは何か(3)	戦争宣伝、プロパガンダ
9	記憶とは何か(1)	「八月ジャーナリズム」
10	記憶とは何か(2)	現象学的社会学
11	市民社会とは何か(1)	国家と社会の分離、市民ジャーナリズム
12	市民社会とは何か(2)	デモの社会学
13	民主主義とは何か(1)	「社会の木鐸」としてのメディア、公共圏
14	民主主義とは何か(2)	劇場型政治、ポピュリズム
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要な資料については教員が適宜準備して配布します。

◇教科書を指定しませんが、以下の書籍は参考にすると理解に役立つでしょう。

津田正太郎（著）『メディアは社会を変えるのか　メディア社会論入門』世界思想社

山腰修三（編著）『入門メディア・コミュニケーション』慶應義塾大学出版会

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表します。

【その他の注意事項】

◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

法学Ⅰ（憲法含む）	坂入（サカイリ）　遼（リョウ）
Law Ⅰ	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

法学の基本を理解し、そして身近な社会現象を法的に考える力を磨いてもらう。これが本授業の目的である。具体的に本授業では、まず、社会における法の役割、裁判の位置付け、法の解釈といった基本的な法学の要点を押さえることを目指す。そして、代表的な法分野について、身近な社会現象を法的に捉えていくことを通じて理解を深めていく。

社会には、さまざまな法的問題があふれている。複雑な世の中を自立して生きていく上では、法的思考力は重要であり、この基礎を身につけるための場が本授業となる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)法に関心をもち、法学の基本を理解する	社会における法の位置付け、裁判制度、法の解釈といった法学の基本を理解できているかを、授業中の議論への貢献度や定期試験の結果にもとづき評価する。	30%
2)学習した各法分野の基本事項を説明できるようになる	定期試験において、半期を通じて学んださまざまな法分野に関し基本事項を説明できるかを問い、その結果にもとづいて評価する。授業中の議論での有意義な発言も評価上考慮される。	30%
3)身近な問題を法的に考える	授業では、身近な社会現象を取り上げ、それらを法的に考えるトレーニングも行う。こうした実践への取り組み状況に加え、その到達度を図るための定期試験の結果も評価上考慮される。	30%
4)国内法と国際法の基本的な違いを理解し、説明できるようになる	国内法と国際法の基本的な違いを理解することは、法の可能性と限界を把握することにもつながる。これに関する到達度も、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果により評価する。	10%

評価の方法　成績評価に占める割合は、授業中の議論への貢献度が30%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が70%である。ただし、出席回数が全回数の３分の２以上であることが、成績評価を受ける条件となる。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、成績評価方法に関し説明する
2	法とはなにか	社会における法の役割について学ぶ
3	法と裁判	裁判の役割、裁判制度、訴訟手続に関する原則について学ぶ
4	裁判の基準となるもの	法律、裁判例などの位置付けについて理解する
5	法の解釈	事実の認定と法の解釈、法の解釈の性質・方法について学ぶ
6	法の分類	公法と私法の関係、六法その他の役割について理解する
7	憲法(1)	日本国憲法の特徴、基本的人権に関する規定について学ぶ
8	憲法(2)	統治機構に関する規定について学ぶ
9	犯罪と法	刑法、刑事手続と刑事訴訟法について学ぶ
10	家族生活と法	家族関係に関する民法の規定について学ぶ
11	財産関係と法	財産関係に関する民法の規定について学ぶ
12	労働と法	労働に関する法分野について学ぶ
13	経済活動と法	独占禁止法を中心とした経済法について学ぶ
14	国際法と国内法の違い	国際法が国内法と異なる点、その理由を学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。

◇ただし、自学自習の参考となる文献として次のものを挙げておく。

伊藤正己・加藤一郎編著『現代法学入門』（有斐閣、第４版、2005年）

奥田進一・高橋雅人・長友昭・長島光一編著『法学入門』（成文堂、2018年）

【履修条件等】

◇「法学Ⅰ」では、身近な社会現象を手掛かりにして、法を学ぶ上での基本、憲法を中心とする法の体系を広く理解してもらうことが中心となる。本授業で得た基本的理解をもとに、法学への理解を一層深めたい学生の皆さんには、「法学Ⅱ」をあわせて履修することをおすすめする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業では、身近なニュースなどを素材にして法的思考力を養うトレーニングを行う。事前のアナウンスに応じて新聞などを読み、問題となる社会現象の基本的理解を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

法学Ⅰ（憲法含む）	長岐（ナガキ）　郁也（イクヤ）
Law Ⅰ	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう学生も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	20%
憲法を中心とした法体系を理解すること	定期試験において法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	20%
法に与えられている役割を理解すること	定期試験においてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	20%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができているかを評価する。	40%

評価の方法　定期試験の結果をもって評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	
2	法学	近代社会における法の意義
3	法学	国家による法の規制
4	憲法	憲法の役割と意義、帝国憲法と憲法
5	憲法	基本的人権（平等権、自由権）
6	憲法	基本的人権（社会権、受益権）
7	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
8	憲法	統治機構論（内閣、国会、裁判所）
9	行政法	地方公共団体の法
10	民事法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
11	民事法	会社の組織、取引関係における法の役割
12	刑法	罪刑法定主義
13	刑法	刑罰について
14	訴訟法	裁判所の種類と役割及び裁判の手続き
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。

なお、参考文献は以下のとおりです。

五十嵐清著『法学入門（第３版)』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

法学Ⅱ	坂入（サカイリ）　遼（リョウ）
Law II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

本授業では、法学に関する基本的な理解にもとづき、経済活動と深く関係する法分野を中心に学ぶことを通じて法的思考力を磨いてもらう。

具体的に本授業では、民法（国内の取引の基本ルール)、国際取引法（私的取引に関する国際ルール)、経済法（経済の公法的規制)、国際経済法（国際経済についての公法的規制）を扱う。

ビジネスの世界では法的問題に直面することが常である。本授業を通じて、受講生は、経済活動との関わりがある法への理解を得るとともに、より深い法的思考力を身につけることができる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)学習した法分野に関する基本事項を説明できるようになる	民法、国際取引法、経済法、国際経済法を学習した上で、基本事項を説明できるようになったかどうかを問う。評価は、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづいて行う。	20%
2)ビジネスに関する身近な問題を関連する法との関係で説明することができる	授業では身近なビジネス上の問題を取り上げ、それらを法的に考えるトレーニングも行う。こうした実践への取り組み状況に加え、その到達度を図るための定期試験の結果も評価上考慮される。	30%
3)代表的な法的論点を裁判例などとの関係で理解し、説明することができる	学習した法分野の代表的な論点に対し、裁判例などとの関係を踏まえつつ、整理された説明ができるかを問う。評価は、授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづいて行う。	20%
4)与えられた問題に対し法をどう適用できるかを説明することができる	代表的な裁判例を踏まえ、与えられた問題に対して法をどのように適用できるかを考え、決められた時間内に解答することができるかどうかを問う。授業中の議論への貢献度、定期試験の結果にもとづき評価する。	30%

評価の方法　成績評価に占める割合は、授業中の議論への貢献度が30%、期末の確認テスト（定期試験）の点数が70%である。ただし、出席回数が全回数の３分の２以上であることが、成績評価を受ける条件となる。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、成績評価方法に関し説明する
2	民法(1)	契約をめぐる民法上の論点について学ぶ
3	民法(2)	物権をめぐる民法上の論点について学ぶ
4	民法(3)	不法行為をめぐる民法上の論点について学ぶ
5	国際取引法(1)	国際的な売買の取引条件に関するルールについて学ぶ
6	国際取引法(2)	貿易代金の決済に関するルールについて学ぶ
7	国際取引法(3)	国際取引紛争を解決するための裁判、仲裁の手続を学ぶ
8	経済法(1)	カルテルなど不当な取引制限に関する規制について学ぶ
9	経済法(2)	私的独占に関する規制について学ぶ
10	経済法(3)	企業の買収などに関する規制について学ぶ
11	経済法(4)	不公正な取引方法に関する規制について学ぶ
12	国際経済法(1)	関税、国内規制、数量制限に関する基本ルールを学ぶ
13	国際経済法(2)	貿易救済制度に関する規制について学ぶ
14	国際経済法(3)	世界貿易機関（ＷＴＯ）の紛争解決制度について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、教員が配信する教材にもとづいて授業を進める。

◇ただし、自学自習の参考となる文献については、適宜授業の中で紹介する。

【履修条件等】

◇本授業では、「法学Ｉ」で学んだ基本的な内容にもとづき、より深く法学を理解するための取り組みが行われる。そのため、「法学Ｉ」をあわせて履修することをおすすめする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業では、身近なニュースなどを素材にして法的思考力を養うトレーニングを行う。事前のアナウンスに応じて新聞などを読み、問題となる社会現象の基本的理解を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。その他、授業態度は成績に影響することとなる。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

法学Ⅱ	長岐（ナガキ）　郁也（イクヤ）
Law II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実に当てはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができているかを評価する。	10%

評価の方法　定期試験の結果をもって評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業内容及び授業方針の説明
2	民法の概要	民法典についての説明
3	契約(1)	買った物が壊れていたら
4	契約(2)	スーパーで食品を買ったら
5	契約(3)	ネット通販で靴を買ったら
6	契約(4)	友人に貸した自転車を取り戻したい
7	契約(5)	お金を貸したら
8	不法行為(1)	バイクで人身事故を起こしたら
9	不法行為(2)	ネット上で中傷されたら
10	契約(6)	アパートを貸したら
11	契約(7)	親が家を新築したら
12	婚姻	友人の結婚
13	離婚	親が離婚したら
14	相続	家族が亡くなったら
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。

◇参考文献等については、講義中に適宜案内する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

心理学Ⅰ	浮谷（ウキヤ）　秀一（シユウイチ）
Psychology Ⅰ	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学が、今日まで解明してきた人間の心理と行動の特徴についてわかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことをねらいとしています。そのねらいの実現のために、人間の心理を理解するために必要な基礎的な領域（発達心理・生理心理・認知心理・適応心理・学習心理）を解説します。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達心理とその特徴について理解すること	発達に影響する要因を理解することと発達段階の特徴を理解できているか評価する。	45%
生理心理のメカニズムを理解すること	生理心理のメカニズムを理解できているかで評価する。	10%
認知心理の特徴を理解すること	認知心理に関連する人間の特徴を理解できているかで評価する。	15%
適応心理の特徴を理解すること	適応するということがどのようなことかを理解できているかで評価する。	15%
学習心理の特徴を理解すること	学習するということがどうゆうことかを理解できているかを評価する。	15%

評価の方法　出席は３分の２以上が単位認定の条件。
中間試験またはレポート40%、最終試験60%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	心理学の成立ち	(1)心理学とは
2	発達心理	(1)発達とは　(2)発達の特質
3	発達心理	(3)遺伝と環境[1]
4	発達心理	(3)遺伝と環境[2]
5	発達心理	(4)発達段階の特徴[1]
6	発達心理	(4)発達段階の特徴[2]
7	生理心理	(1)神経系について
8	認知心理	(1)感覚器官　(2)知覚の一般的特徴
9	適応心理	(1)欲求とは？　(2)欲求五階層説　(3)葛藤
10	適応心理	(4)欲求不満（フラストレーション）
11	中間試験	解説を含む
12	適応心理	(5)適応機制
13	学習心理	(1)学習とは (2)学習過程のメカニズム[1]
14	学習心理	(2)学習過程のメカニズム[2]
15	終了試験	解説を含む

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むこと。

【その他の注意事項】

◇必ず出席して積極的に学ぶこと。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

心理学Ⅰ	松田（マツダ）　美登子（ミトコ）
Psychology Ⅰ	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とします。

「心理学Ⅰ」では、人間の心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に授業を進めます。(1)人間の発達の仕組みと発達的変化、(2)心と脳との関係、(3)人間の視知覚の不思議、(4)欲求と適応行動、(5)学習行動と記憶のメカニズムをテーマに学習します。

授業は、主に講義を形式を中心とします。適時に、課題や心理テストを取り入れて、授業の理解を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の発達の仕組みと発達的変化について理解する	レポートおよび試験により評価。人間の誕生から死までの一連の発達プロセスや発達段階のトピックスについて理解し設問に回答できること。	25%
心と脳との関連性を理解する	試験により評価。人間の心と行動に大きく関連する神経系や脳の構造や機能について知り得たことを回答できること。	15%
人間の視知覚の不思議について理解する	課題および試験により評価。知覚の中の視知覚を中心とする。視覚における錯覚（錯視）や人間の経験や環境が影響を及ぼす社会的知覚、運動視等について講義と課題を通じて学習した内容を説明できる。	20%
人間の欲求と適応行動について理解する	レポートおよび試験により評価。欲求と葛藤および欲求不満について正しく理解し、環境との適応について考察し答えることができる。	20%
学習行動と記憶のメカニズムについて理解する	課題および試験により評価。学習理論について学び、神経症や問題行動の理解に繋げる。記憶と忘却について課題を通じて理解し説明できる。	20%

評価の方法　①平常点：10%（リアクションペーパー・課題の提出、出席状況）
②レポートおよび宿題提出：30%
③定期試験60%（教科書・プリント類等、一切持込不可）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方、成績評価基準等の説明 科学としての心理学とは？
2	発達心理	(1)発達とは？　(2)発達のしくみ
3	発達心理	(3)発達段階の特徴[1]乳児期～思春期
4	発達心理	(3)発達段階の特徴[2]青年期～老年期
5	生理心理	(1)神経系のはたらき　(2)脳の構造
6	生理心理	(3)情動　(4)心身症
7	知覚心理	(1)知覚の成立 モノの見え方の不思議
8	知覚心理	(2)知覚の全体性 知覚におよぼす欲求や価値
9	知覚心理	(3)運動の知覚　動いていないのに動いて見える？
10	認知心理	(1)欲求とは？ (2)欲求５階層説 (3)葛藤と欲求不満
11	認知心理	(4)適応機制　(5)適応と不適応行動
12	学習心理	(1)学習とは？ (2)学習過程のメカニズム[1]
13	学習心理	(3)学習過程のメカニズム[2]　(4)無気力は学習される？
14	学習心理	(5)記憶と忘却
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。

◇「心理学Ⅱ」も併せて受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇課題やレポートは期限内に、必ず仕上げ提出すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

心理学Ⅱ	浮谷（ウキヤ）　秀一（シユウイチ）
Psychology II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、基礎的な分野を学んだ「心理学Ｉ」を踏まえて応用的な分野を中心に学ぶことになります。解説する分野は、性格心理・臨床心理・社会心理・産業組織心理などです。主に講義形式で授業を進め、適切な時期に、必要に応じて各種心理検査などを紹介する実習などを組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
性格心理の特徴を理解すること	性格を理解できているか、性格を知るためにはどうしたらよいかを理解できているかで評価する。	40%
臨床心理の特徴を理解すること	心の病が理解できているか、心の病を治療する心理療法について理解できているかで評価する。	20%
社会心理の特徴について理解すること	社会生活での人間活動の特徴を理解できているかで評価する。	20%
産業組織心理の特徴を理解すること	職場における人間関係に関連する事柄について理解できているかで評価する。	20%
評価の方法　出席は３分の２以上が単位認定の条件。 レポート40%、最終試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	性格心理	(1)性格とは
2	性格心理	(2)性格の見方
3	性格心理	(3)性格の測定法[1]
4	性格心理	＊性格検査実習
5	性格心理	(3)性格の測定法[2]
6	臨床心理	(1)心の病の理解
7	臨床心理	(2)心理療法[1]
8	臨床心理	(2)心理療法[2]
9	社会心理	(1)対人認知
10	社会心理	(2)対人関係の認知
11	社会心理	(3)社会的影響
12	社会心理	(3)流言　(4)流行
13	産業組織心理	(1)モチベーション
14	産業組織心理	(2)リーダーシップ
15	終了試験	解説を含む

【使用教材】

◇岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

◇「心理学Ⅰ」を履修済であることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次週に取り上げることを提示するので、教科書の該当箇所を読むなどすること。

【その他の注意事項】

◇出席し前向きに自ら学ぶこと。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

心理学Ⅱ	松田（マツダ）　美登子（ミトコ）
Psychology II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、基礎的な分野を学んだ「心理学Ｉ」をベースに応用的な分野を中心に学びます。

「心理学Ⅱ」では、パーソナリティ（性格）について理解を深めた後に、心理テスト等を使って自分の性格や心の状態を探っていきます。次に、ストレスが心身と行動に与える影響および心理治療について、心理テストやワークシートを使って実習することで自己理解を深めます。社会心理学では、他者との関わりの中で生きるために必要な対人認知や印象形成、さらに、集団心理の影響や怖さについて学習します。

主に講義形式で授業を進め、適時、心理テストやワークシートを用いた実習を組み込んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
性格と知能 －パーソナリティの心理学－	試験による評価。人間のパーソナリティ（性格）について、さまざまな観点で学習する。パーソナリティ）の一側面である知能について正しく理解し、自己理解に繋げる。	30%
人間理解の方法 －アセスメントについて－	レポートおよび試験による評価。パーソナリティを理解するためのアセスメント（心理査定）として、心理テストの特徴と守備範囲を理解する。また、実際に心理テストを施行し、レポートにまとめる。	20%
心の病と心理療法 －臨床心理学－	課題および試験による評価。自分のストレスの状態をワークシート課題によって理解する。精神障害について正しく理解し、治療法についても学ぶ。	30%
人間の社会・集団行動 ―社会心理学－	試験による評価。社会で生きるために必要とされる、対人認知や社会行動、援助行動について理解する。さらに、集団心理と行動について学ぶことで、人間理解に繋げる。	20%
評価の方法　①平常点：10%（リアクションペーパー・課題の提出、出席状況） ②レポートおよび宿題提出：30% ③定期試験60%（教科書・プリント類等、一切持込不可）		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	性格心理	(1)性格とは
2	性格心理	(2)性格の見方
3	性格心理	(3)性格の理解[1]
4	性格心理	(4)性格の理解[2]
5	人間理解の方法	(1)心理アセスメント[1]（質問紙法・作業検査法）
6	人間理解の方法	(2)心理アセスメント[2]（投影法検査・知能検査）
7	人間理解の方法	(3)心理アセスメント[3]（面接法・観察法）
8	臨床心理学	(1)現代がかかえる心の病
9	臨床心理学	(2)ストレスとストレス・コーピング
10	臨床心理学	(3)心理療法
11	社会心理	(1)対人認知　対人魅力
12	社会心理	(2)自己開示と自己呈示
13	社会心理	(3)集合行動と群衆行動
14	社会心理	(4)流言と流行
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学―行動の科学―』東京教学社

【履修条件等】

◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。

◇「心理学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇課題やレポートは期限内に、必ず仕上げ提出すること

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

哲学	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Philosophy	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業は、「考えることを考える」授業です。したがって、哲学の歴史を学ぶものではなく、哲学者の思想のキーワードだけ暗記させるようなことも行いません。この授業では、皆さんが、本格的な哲学的思考を身につけるための前提となる思考力、とくに論理的な思考力を鍛えることを最優先しています。論理的に考える思考こそ、人生を生き抜く上での最大の武器です。この武器を身につけるのがこの授業の目的です。従って、講義では、受講生の皆さんの思考を鍛えるため、ディスカッション形式による対話型の授業を取り入れます。対話型という以上は、学生は、授業で常に意見を求められます。座っているだけで単位が取れると思っている人はこの授業には向いていません。しかし、この授業を履修し、しっかり議論に参加するならば、必ず、今までとは違う世界が開けるはずです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
論理の構造をつかむ	文章のつながりから、論理を見いだし、正確に文章の意味を読み取ることができるかどうかについて授業中の発言、期末試験の中で評価します。	20%
論証の基礎を学ぶ	自分の意見を論証することができるか、あるいは、他人の論証を構造的に理解し、その上で、その論証の問題点を指摘できるかについて授業中の発言、期末試験の中で評価します。	30%
演繹法	演繹法について、その正確な運用、基本パターンを身につけることができているかどうかについて、授業中の発言、期末試験の中で評価します。	30%
文章構成力	論理的に一貫した論文、レポートなどを書くことができるかどうかについて、授業中の発言、期末試験の中で評価します。	20%
評価の方法　授業中の授業態度や対話型授業への参加姿勢を70%、定期試験の成績評価30%の比率で成績評価を行います。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	導入講義を行います
2	論理とはなにか？	論理的思考の基礎理論を学びます
3	考えるとはなにか？	きちんと考えるための方法論を学びます
4	安易な出口のわな	すぐに結論に飛びつく思考を回避する方法を学びます
5	論証の基礎	論証の重要性について学びます
6	演繹法基礎	演繹法、特に三段論法について学びます
7	演繹法の実践	演繹法について条件構造について学びます
8	演繹法の応用	演繹法を使用した論理的な主張の構築について学びます
9	逆・裏・対偶	逆・裏・対偶について学びます
10	否定	否定の正確な活用について学びます
11	推論の基礎	推論の基礎理論について学びます
12	先入観	先入観、バイアスの与える影響について学びます
13	反証	反証について学びます
14	仮説・検証	仮説と検証について学びます
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しません。

◇授業の教材はすべて CoursePower からダウンロードできます。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義の中で、適宜、予習事項を指示します。

【その他の注意事項】

◇この授業は、日本語で文章の論理を分析することになります。そのため、かなり大量の日本語の文章を読むことになります。履修する際は、この点について、注意してください。

◇対話型の授業となりますので、参加意欲が乏しい場合は履修停止になります。

◇私語は厳禁です。違反者は履修停止となります。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

文学（現代文学）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%

評価の方法　３分の２以上出席し、感想文などの課題を提出すること。
試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
4	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
5	芥川龍之介の文学	
6	芥川龍之介の文学	
7	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
8	太宰治の文学	
9	太宰治の文学	
10	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
11	村上春樹の文学	
12	村上春樹の文学	
13	私の薦める作家・作品	他の人に薦めたい作家や作品について、お互い紹介し合い、意見を交換する。
14	私の薦める作家・作品	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

文学（源氏物語）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
評価の方法　３分の２以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。 光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	紫の上に関する記述をピックアップして読み、紫の上を造形した作者の紫式部の意図を考察する。平安時代の結婚形態について解説し、女三の宮の悲劇が生じた原因を考察する。
13	紫の上	
14	紫の上と女三の宮	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔他編『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

◇日本語のテキストを音読する能力があること。
◇日本の伝統や歴史に興味があること。
◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読めるようにしておくこと。

【その他の注意事項】

◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

文学（歌舞伎）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%

評価の方法　３分の２以上出席し、感想文などの課題を提出すること。
試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	時代物と荒事	
10	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
11	世話物	
12	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

総合教育科目　　イ ベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

文学（古典文学）	網本（アミモト） 尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%

評価の方法　３分の２以上出席し、レポートを提出すること。
レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。和歌を題材に作られた漫画や歌など、現代に与える影響について考える。
4	百人一首の恋歌	
5	百人一首の恋歌	
6	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
7	今昔物語集	
8	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
9	今昔と芥川龍之介	
10	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
11	平家物語	
12	平家物語	
13	曽根崎心中	『曽根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曽根崎心中」をビデオで鑑賞する。
14	曽根崎心中	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

文学（能・狂言）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Literature	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%

評価の方法　３分の２以上出席し、感想文などの課題を提出すること。
試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能の楽器	能の楽器の種類と特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子訳『角川ビギナーズクラシックス　謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』三省堂
野村萬斎著・網本尚子監修『What is 狂言？』檜書店
『能って何？』新書館

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

文章表現法（基礎）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法　３分の２以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数30%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの基本的な日本語の知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
7	日本語の知識	
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
10	敬語の使い方	
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の３分の２に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

文章表現法（実践）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%
評価の方法　３分の２以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験30%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の３分の２に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

文章表現法（総合）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%

評価の方法　３分の２以上出席し、宿題をすべて提出すること。
試験50%、レポート・手紙などの課題の評価30%、受講態度20%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
6	日本語の基礎知識	
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の３分の２に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

文章表現法（漢検）	網本（アミモト）　尚子（ナオコ）
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。そのためには、日常的に使う漢字に関する知識は絶対に必要なものと考えられる。本講義では、漢字検定２級の問題に取り組むことにより、大学生にとって必要な漢字の知識を身につけ、それを使いこなせるようになることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
準２級、２級に配当された漢字の読みを覚える	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
出題予想漢字を分野別に学び、正しい知識を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
特殊な読みや当て字など、難読漢字について学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	20%
模擬試験に取り組み、出題形式に慣れる	間違えた問題は何度も繰り返し復習し、知識が定着するよう努力すること。試験で評価。	20%

評価の方法　３分の２以上出席し、宿題をすべて提出すること。
試験70%、小テストの点数、受講態度30%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	漢字の読み	漢字の音読みを中心に練習問題に取り組む。
3	漢字の読み	漢字の訓読みを中心に練習問題に取り組む。
4	漢字の部首	練習問題を解くことで、主な漢字の部首を覚える。
5	熟語の構成	熟語の構成のしかたを理解する。
6	熟語の構成	与えられた漢字を用いて、熟語を作れるようになる。
7	対義語・類義語	対義語、類義語の関係を理解する。
8	四字熟語	四字熟語の組み立てを理解する。
9	四字熟語	練習問題を解くことで、主な四字熟語を覚える。
10	送り仮名	送り仮名のルールを理解する。
11	同音同訓異字	練習問題を解くことで、同音同訓異字を覚える。
12	書き取り	正確に漢字が書けるようになる。
13	書き取り	誤字訂正ができるようになる。
14	模擬試験	本番の形式で模擬問題を解き、自分の弱点を理解する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇留学生向けの日本語の授業ではなく、日本人向けの「日本漢字能力検定（漢検)」２級合格を目指す授業なので、留学生にはかなり難しい内容である。自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の３分の２に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に漢字を覚えることが勉強である。練習問題や宿題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

生命科学	古田（フルタ）　玲子（レイコ）
Life Science	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

ヒトと他の生物との共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection （ＳＴＩ：性感染症)、人畜共通感染症、有害物質、生物毒、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究成果や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学的および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、ＳＴＩ、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試験で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学について、基礎的な知識を習得した上で、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について、考えることができていること。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解した上で、自分の意見を述べることができる	レポートで評価する。生命科学に関する興味のあるテーマについて、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができていること。	20%
評価の方法　70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法について学ぶ
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について学ぶ
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒトとイヌ、マウスなどの哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他の生物との共通点と相違点について学ぶ
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防および検査法について学ぶ
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後について学ぶ
6	各臓器のがんⅠ	肺がんについて学ぶ
7	各臓器のがんⅡ	胃がん、大腸がんなどの消化器がんについて学ぶ
8	各臓器のがんⅢ	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）について学ぶ
9	各臓器のがんⅣ	皮膚がんなど、その他のがんについて学ぶ
10	ＳＴＩについてⅠ	エイズについて学ぶ
11	ＳＴＩについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）感染症、梅毒、クラミジア感染症など、ＳＴＩの原因、症状、予防および治療について学ぶ
12	ＳＴＩについてⅢ	ＳＴＩについて重要なポイントを確認する
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベストなどの有害物質と毒のある生物について学ぶ
14	人畜共通感染症・動物が媒介する感染症	ＢＳＥ、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなどの人畜共通感染症や動物が媒介する感染症について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料と用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

国際関係論	黒澤（クロサワ）　愛美（アイミ）
International Relations	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

まず、国際関係とは何かというところから始めて、国際関係論の基礎知識を身につけます。そして、その基礎知識を元に、現代の国際社会が抱える諸問題を議論します。現代の国際社会には数多くの問題がありますが、この授業は、日本で活動する国際人として知っておくべき問題を優先して扱います。問題の現状理解にとどまらず、経緯や今後の課題まで追究します。また、関連する時事ニュースも積極的に取り上げます。基本的に講義形式で進みますが、国際問題について自分なりに考える機会が頻繁に与えられます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係論の基礎知識がある	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、指定された用語を用いながら論理的に記述できること。	10%
国際関係史の大きな流れを理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した内容について、重要事項を押さえながら簡潔に記述できること。	20%
国際問題の概要を理解している	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、重要事項を押さえながら論理的に記述できること。	20%
国際問題を議論することができる	設問に対する回答によって評価。 授業で学習した国際問題について、自分の主張を論理的かつ説得的に記述できること。	50%
評価の方法　３分の２以上の出席を前提として授業中の課題50%、期末試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業ガイダンス、国際関係とは何か
2	国際関係論の基礎知識	国際関係の主体、グローバリゼーション
3	国際関係史	第一次世界大戦、第二次世界大戦
4	国際関係史	冷戦期の国際社会
5	国際関係史	国共内戦、朝鮮戦争
6	国際関係史	冷戦後の国際社会
7	国際問題	歴史問題
8	国際問題	日韓歴史問題
9	国際問題	領土問題
10	国際問題	安全保障、軍事
11	国際問題	経済、貿易
12	国際問題	環境、エネルギー
13	国際問題	人権
14	国際問題	そのほかの国際問題、授業の補足
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用します。

【履修条件等】

◇初回に必ず出席してください。

◇受講マナーを守り、ほかの受講者に迷惑を掛ける行動は慎んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段からインターネットやテレビで国際ニュースを見るように心掛けましょう。

【その他の注意事項】

◇国際情勢に鑑みて、授業計画を変更することがあります。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

統計学	松本（マツモト）　勇樹（ユウキ）
Statistics	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

人間が生きていくうえではあらゆる局面で意思決定をしなければならない。経験やカンのみに頼って意思決定を行うと誤った意思決定を行う場合が多い。そこで客観的に測定された数値を用いることによって正しい意思決定を行うことができるようになる。本講義ではビジネスで使用する数字や統計の感覚を養うことを持徳的とする。概算や四捨五入などの基本から初めて、割合や変化の仕組みを学ぶ。その後、記述統計学と多変量解析の中から、身近なデータを使用して、統計の考え方について理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
数字の感覚を養う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して正しい計算ができるかを評価する。	30%
データを整理する	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して決められた基準に従って、データを正しく分類することができるかを評価する。	20%
統計計算を行う	設問に対する回答によって評価する。与えられた問題に対して、正しい計算を行い、その結果からどのようなことが分かるかを評価する。	50%
評価の方法　50%以上の出席を前提として、授業内課題15%、小テスト15%、期末試験70%の合計点で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	本講義のテーマ、目的・概要、講義方針等を確認する 併せて、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する
2	概算と電卓の操作方法	電卓の操作方法を確認するとともに、データを概算で扱う感覚を養う
3	比率	数値を比較するための手法として比率の考え方を習得する
4	変化(1)	指数と倍率について理解する
5	変化(2)	変化率について理解する
6	度数分布	収集したデータを分類し、度数分布表とヒストグラムを作成する
7	代表値	平均とメディアンについて理解する
8	散らばりの代表値(1)	偏差の概念から、標準偏差について理解する
9	小テスト(1)	標準偏差の演習を行い、小テストを実施する
10	標準化・変動係数	平均・標準偏差が異なる２つの分布に属するデータを比較する
11	散布図	２つの変数にどのような関係があるのか散布図を用いて把握する
12	相関係数	２つの変数の関係を１つの数値で表す
13	小テスト(2)	相関係数の復習を行い、小テストを実施する
14	正規分布	代表的な分布である正規分布の性質とその利用法について学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解度は高まらないので、休まず出席すること。

√機能がついている12桁以上の電卓を必ず持参すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配布資料に記載されている問題を必ず解くこと。

【その他の注意事項】

◇繰り返し解説を行うので、数学や計算に対しての過度な恐怖心や思い込みをしないで講義に参加してほしい。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

就職特講	野沢（ノザワ）　牧子（マキコ）
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%

評価の方法　職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	自己分析Ⅰ	自分史の作成、ＳＰＩについて
3	自己分析Ⅱ	自分の志向と適正を考える、学生時代に頑張ったこと
4	自己ＰＲのしかたⅠ	社会人基礎力から強みを考える、自己ＰＲ
5	自己ＰＲのしかたⅡ	自己紹介書の完成
6	キャリア情報交流会	ＯＢＯＧの話から、仕事のやりがいや職業を知る
7	志望先の選定Ⅰ	就職の軸
8	志望先の選定Ⅱ	業界、職種理解
9	志望先の選定Ⅲ	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について、 求人票の見方
10	合同企業説明会	合同企業説明会
11	志望動機の完成	想定業界、企業での作成
12	選考への対策Ⅰ	多様なＥＳへの対応
13	選考への対策Ⅱ	面接対策、マナー
14	選考への対策Ⅲ	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇３年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、１度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

就職特講	宮地（ミヤジ）　由夏（ユカ）
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職に直接役立つ知識の習得と演習を進めていきます。業界研究セミナーや内定者報告会等も実施し、臨場感ある準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くある選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対応する力を身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%

評価の方法　職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	就職活動の現状の理解	就職活動を始めるにあたって考えるべきこと（雇用環境とデータで見る学卒者就職の現状、正規・非正規雇用の生涯賃金等）
2	自己分析Ⅰ	自分史の作成、ＳＰＩについて
3	自己分析Ⅱ	自分の志向と適正を考える、学生時代に頑張ったこと
4	自己ＰＲのしかたⅠ	社会人基礎力から強みを考える、自己ＰＲ
5	自己ＰＲのしかたⅡ	自己紹介書の完成
6	キャリア情報交流会	ＯＢＯＧの話から、仕事のやりがいや職業を知る
7	志望先の選定Ⅰ	就職の軸
8	志望先の選定Ⅱ	業界、職種理解
9	志望先の選定Ⅲ	業界情報の捉え方、情報の取捨選択について 求人票の見方
10	合同企業説明会	合同企業説明会
11	志望動機の完成	想定業界、企業での作成
12	選考への対策Ⅰ	多様なＥＳへの対応
13	選考への対策Ⅱ	面接対策、マナー
14	選考への対策Ⅲ	グループディスカッション対策
15	活動計画策定・発表	履歴書・就職の軸・活動計画の策定最終確認

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇３年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、１度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

就職特講（留学生対象）	シオタニ　ユミコ 塩谷　由美子
Special Seminar for Job Seeking	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

卒業後に日本で就職したり、日本以外にある日本企業で働いたりすることを希望する留学生は年々多くなっています。しかし、皆が希望通りの仕事に就けるとは限りません。また就職してもすぐ転職する人も少なくありません。日本特有の就職事情を知らないこと、在留資格についての知識がないこと、また就職活動の準備開始が遅いことなどが問題になります。この授業では、日本の就職活動のしくみと流れを理解し、就職活動に役立つような準備をします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の就職事情を学び、活動計画を立てる	日本の就職事情を学んで就職活動のしくみと流れを理解し、それに沿って今何をしなければならないかを考えて最終的に活動計画を立てることができるか、課題などをもとに評価する。	40%
日本の企業、業種、職種を研究する	日本の業種、職種を理解し、企業研究の方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
具体的な就職活動の準備をする	就職活動のために何をしなければならないかを理解しその方法を身につけているかどうかを、課題などをもとに評価する。	30%
評価の方法　授業への参加姿勢、課題、期末課題を総合的に評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業内容と授業の進め方について
2 3	日本の就職慣習を学ぶ	・日本の就職活動のしくみと流れ ・就職とアルバイトの違い、インターンシップとは
4 5 6 7	企業研究、職業研究をする	・日本の企業が求める人材 ・職種と業種、職業適正 ・企業の選び方、業界研究と企業研究 ・いろいろな資格と日本語能力
8 9 10 11	就職活動の具体的な準備をする	・情報の探し方（求人票、ハローワーク、就活ナビ） ・敬語と面接、ビジネスマナー ・履歴書、エントリーシート、メールの書き方 ・自己ＰＲ、志望動機、「ガクチカ」
12 13 14	就職活動の実際	・先輩の経験談を聞く「内定者報告会」 ・在留資格（ビザ）について ・活動計画確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇とくになし。必要に応じて授業で指示します。

【履修条件等】

◇日本での就職を考えている外国人留学生は必ず履修してください。進路が未定でも、日本での就職の可能性がある場合も、履修を強く勧めます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各学習項目を学ぶに際し、情報収集をしたり、活動計画を立ててまとめたりする課題が課されます。事前学習をしなければ、授業内容を十分に理解できないことがあるので、必ず準備をしてください。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は、受講人数や大学内行事日程などを勘案して、変更することがあります。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

コンピュータ・サイエンス	萩野（ハギノ） 弘道（ヒロミチ）
Computer Science	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

高度情報化社会に対応し、また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作する基礎的なスキルの習得を目指します。そのために、パソコン（Windows）の基本的な操作とその運用に関して必要な知識を学習した後、ワープロソフト（Microsoft Word）を利用した日本語文書の作成、表計算ソフト（Microsoft Excel）を利用した基本的な表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を利用した発表用資料の作成などについて実践的な実習をおこないます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	実習中の習熟度によって評価。ＯＳの扱い方やファイルやフォルダの管理等が適切におこなえること。 ブラウザや検索エンジンを使って、効率良く適切な情報を呼び出すことができること。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やチラシを作成するためのスキルを身につけていること	実技試験によって評価。文字入力は当然のこととして、Microsoft Word の操作や設定作業を自分の思うままに操れること。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトすることができること。	30%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	実技試験によって評価。Microsoft Excel を操作してワークシートの編集をおこない、関数の利用や罫線を用いた作表ができること。データを効果的に表現するグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的なプレゼン資料が作成できること	実習中の習熟度によって評価。プレゼンテーション用の発表資料を Microsoft PowerPoint を操作して、画像やアニメーションを効果的に導入して作成することができること。	10%
評価の方法　３分の２以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% （授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む）。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方、学内ＰＣの利用方法、タイピング実習
2	コンピュータの基本操作	Windows の基礎、インターネットの使い方と活用方法
3	Word の操作実習(1)	文字の入力方法、ファイル操作、ページ設定
4	Word の操作実習(2)	書式設定、編集、文字の装飾
5	Word の操作実習(3)	表（罫線）を活用した文書の作成
6	Word の操作実習(4)	画像等を活用した文書のアレンジ
7	Word の総合実習	ビジネス文書を使った Word の総合練習
8	Excel の操作実習(1)	データ入力、基本的なワークシート編集、関数の基本
9	Excel の操作実習(2)	罫線、グラフの作成
10	Excel の操作実習(3)	関数１（IF、RANK 等）、ソート
11	Excel の操作実習(4)	関数２（VLOOKUP、COUNTIF 等）、フィルタ
12	PowerPoint の操作実習(1)	プレゼンテーションの意味、文字や画像の入力方法
13	PowerPoint の操作実習(2)	図形やアニメーションを利用した視覚効果
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇『30時間でマスター Windows ７対応 Office2010』実教出版

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。
ただし、この授業ではキーボード入力を速くするタイピング練習は行わないので、ローマ字入力だけはある程度できることが望ましい。。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、教科書の該当ページに目を通しておいていただきたい。

【その他の注意事項】

◇実習授業であるので、授業に出席しないとコンピュータを操作できないので全出席が基本である。そのため、出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は２回で欠席１回とし、全授業の３分の１（５回）欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

情報学	鬼木（オニキ）　一直（カズナオ）
Informatics	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。また、授業の中で実際に準２級・３級等のＰ検（ＩＣＴプロフィシエンシー検定試験）を行い、資格の取得も可能です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に５分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でＰ検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft　Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft　Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft　Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft　Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%

評価の方法　毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60%。
試験はＰ検タイピング試験・Ｐ検本試験（準２級または３級）の結果を勘案する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ(1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ(2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算(1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算(2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算(3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	ＩＣＴを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	Ｐ検タイピング本試験	本試験のタイピング試験免除対象となるＰ検タイピング試験の合格を目指す
12	実技試験の対策	ＣＢＴ方式（コンピュータ対話式）の実技試験を体験し慣れる
13	模擬試験	実際の検定試験と同じＣＢＴ方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	Ｐ検本試験	Ｐ検本試験（準２級または３級）を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。
◇他に、検定試験の受験料が必要（昨年実績4,100円）。

【履修条件等】

◇ Microsoft Windows ／ Word ／ Excel の基本的な操作ができること。
◇「コンピュータ・サイエンス」を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。
◇授業時間内にＰ検（準２級または３級）を受験すること。
◇基本的にＰ検３級以上を取得しているものは履修できない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業時間内にＰ検タイピング試験、Ｐ検（準２級または３級）の本試験を実施する。
◇Ｐ検（ＩＣＴプロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。http://www.pken.com/　（ＩＣＴプロフィシエンシー検定協会）
◇Ｐ検に合格した場合は本授業単位の２単位に加え、さらに１単位を取得できる。
（ただし、別途手続きが必要）

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

多文化理解Ⅰ（留学生対象）	難波（ナンバ）　俊樹（トシキ）
Multicultural Issues I	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

日本での文化やビジネスを理解するためには、その語彙を理解しなくてはなりません。日本語では漢字、カタカナ、ひらがなが混在してさまざまなバリエーションの語彙があります。本講義は、これから、大学や日本での生活を通じて日本のビジネスや文化への理解を深めるために必要な語彙の学習を行います。また、日本語の豊かな造語力についても理解を深めることで、様々なバリエーション、新しい語彙に対応する力を身につけます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の文化とビジネスを理解するために必要な語彙を身につける	基本的な語彙、ビジネス用語、文化を理解するために必要な語彙を理解。	50%
日本語の造語力、語彙の成り立ちへの理解を深める	学んだ語彙の活用力がついたか、学んだ知識を用いて未知の単語の推測ができるか。	30%
日本語と自国語の文化的理解を深める	日本語の語彙学習を通じて、自国語の言語文化と日本語の言語文化の相違点・共通点を理解する。	20%

評価の方法　講義中の参加状況　20%
課題提出　40%
最終確認テスト　40%
３回以上欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明
2	経済用語理解（初級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
3	経済用語理解（初級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
4	経済用語理解（初級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
5	経済用語理解（初級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
6	日本語文法（初級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
7	日本語文法（初級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
8	中間評価	前半に学んだ事項の確認テスト
9	アニメ・マンガの理解	日本のアニメやマンガを語彙を通じて考察する
10	日本語文法（中級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
11	日本語文法（中級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
12	経済用語理解（中級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
13	用語集の作成	これまだ学んだことを使って、用語集を作成
14	用語集の作成	これまだ学んだことを使って、用語集を作成
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇教員から履修の指示があった者に限る。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に、その都度指示する。

◇日常的に周囲で使われている日本語の単語に注意をはらう。
とくに後半は、専門科目で用いられる単語に注意する。

【その他の注意事項】

◇文法などにおける初級、中級、上級は一般的な水準ではなく、当該年度の学習者の水準から設定する。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

多文化理解Ⅱ（留学生対象）	難波（ナンバ）　俊樹（トシキ）
Multicultural Issues II	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

日本での文化やビジネスを理解するためには、その語彙を理解しなくてはなりません。日本語では漢字、カタカナ、ひらがなが混在してさまざまなバリエーションの語彙があります。本講義は、これから、大学や日本での生活を通じて日本のビジネスや文化への理解を深めるために必要な語彙の学習をさらに深めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本の文化とビジネスを理解するために必要な語彙を身につける	ビジネス用語、経済、文化を理解するために必要な語彙を理解。	50%
日本語と自国語の文化的理解を深める	日本語の語彙学習を通じて、自国語の言語文化と日本語の言語文化の相違点・共通点を理解する。	30%
日本語文化を伝える	自国語の言語文化と日本語の言語文化の相違点・共通点を理解したうえで、小論文が書ける。	20%

評価の方法　講義中の参加状況　30%
課題提出　20%
プレゼンテーション　20%
最終確認テスト　30%
３回以上欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明
2	経済用語理解（上級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
3	経済用語理解（上級）	経済・経営を理解するために必要な語彙の理解
4	カタカナ語理解	経済・経営・文化を理解するために必要な語彙の理解
5	カタカナ語理解	経済・経営・文化を理解するために必要な語彙の理解
6	日本語文法（上級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
7	日本語文法（上級）	経済・経営・文化を理解するために必要な文法の理解
8	中間評価	前半に学んだ事項の確認テスト
9	アニメ・マンガの理解	日本のアニメやマンガを、語彙を通じて考察する
10	日本語ライティング	文化や自らの意見を他人に伝える　基礎編
11	日本語ライティング	文化や自らの意見を他人に伝える　基礎編
12	日本語ライティング	文化や自らの意見を他人に伝える　基礎編
13	日本語ライティング	文化や自らの意見を他人に伝える　実践
14	日本語ライティング	文化や自らの意見を他人に伝える　実践
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇未定。

【履修条件等】

◇教員から履修の指示があった者に限る。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に、その都度指示する。

【その他の注意事項】

◇文法などにおける初級、中級、上級は一般的な水準ではなく、当該年度の学習者の水準から設定する。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

多文化理解Ⅲ	清水（シミズ）　俊樹（トシキ） 藤本（フジモト）　学（マナブ）
Multicultural Issues Ⅲ	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、文化・宗教・食習慣・金融ルールなどが異なる市場のなかで、昨今注目されているハラール／イスラム市場を中心とした市場の理解を深め、ビジネスを行う上で重要とされる「事業開発ノウハウ」の習得を目的とします。

年々人口が増加しているムスリム人口は、無視できない存在になっています。国内の市場が衰退する中、今後はハラール／イスラム市場が魅力的な市場となってきています。

本講義では、世界における最新の（とくにハラール／イスラム）市場環境を包括的に取り上げ、事業開発のエッセンスを学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)ハラール／イスラム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する多岐に渡る動向を充分に理解ができているか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする。	35%
2)同市場における事業アイディアの創造・独自性とその倫理的な整理	ハラール／イスラム市場における事業アイディアとその実現性や事業性を充分に整理、説明できているか？ 評価方法は、各講義で提出するペーパー、期末試験での評価を前提とする。（履修人数によってはグループワークの結果も反映される）	35%
3)講義全体の理解と論理的な思考力	本講義を通して得られる情報を論理的に紐付けてアウトプットできるか？ 評価方法は期末の試験を中心に行います。	30%

評価の方法　この授業では、期末試験、各講義での授業への貢献、グループワークによる採点で評価します。単に、調べれば得ることのできる情報を求めるわけではなく､各講義で講師から提供される情報などを自分の頭で考え整理し、得られた各情報を有機的につなげる力が求められます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発のステップ	事業開発の概論に関する講義
3	世界の市場環境の把握	世界市場の現状および今後の見通しに関する講義
4	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
5	イスラム教の理解	イスラム教の概念的な整理
6	前半の講義の振り返り	ここまでの講義を総括し、学生の理解力を把握
7	事例の紹介(1)	アウトバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
8	事例の紹介(2)	インバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	イスラム金融	イスラム金融の仕組みとイスラムビジネスのリスクの整理
10	事業考察の構成要件	グループワークのために必要なフレームワークの整理
11	グループワーク準備	ハラール／ムスリム市場参入の事業アイディアの立案
12	グループワーク	事業アイディアの発表、フィードバック
13	事業アイディアの事例	最新の取り組みに関する紹介
14	全体の総括	講義全体を通した総括、質疑応答など
15	期末試験	学習達成度の確認を目的とした期末試験の実施

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報を元にしたアイディア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶する事しか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイディアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／イスラム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

多文化理解Ⅳ（留学生対象）	難波（ナンバ）　俊樹（トシキ）
Multicultural Issues IV	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

留学生を対象とする本講義では、自国文化、自国言語との比較によって、日本の現代文化・伝統文化・ビジネス文化や日本語への理解を深めていくことを目的とします。日本文化を理解することを通じて、それに必要な日本語の読解力と聴解力を、自国の文化を説明することを通じて、それに必要な会話力と文章力を学習します。

日本でビジネスを行う、日本とビジネスを行う上でも日本文化の理解と、異文化と自国文化の相違点を見出すことは重要だと考えられます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文化を理解するために必要な日本語力を身につける	メディアなどを通じて日本の現代文化や伝統文化などを理解するために必要な読解力、聴解力、語彙力を身につける。	40%
自国文化を日本語で説明するための日本語力を身につける	自国の文化を日本語で説明するために必要な会話力、文章力を身につける。	40%
自国文化と異文化の共通点と相違点を見出す	日本文化と自国の文化の共通点と相違点を見出すことができる。	20%

評価の方法　講義中の参加状況　30%
課題提出　20%
最終確認テスト　50%
３回以上欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明
2	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
3	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
4	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
5	日本文化理解	メディアを通じての日本理解
6	日本文化理解	日本の現代文化・習慣を自国文化と比較し理解
7	日本文化理解	日本の現代文化・習慣を自国文化と比較し理解
8	中間評価	前半に学んだ事項の確認テスト
9	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート
10	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート
11	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート
12	プレゼンテーション	自国の文化を日本語で発表する（資料作成)。
13	プレゼンテーション	自国の文化を日本語で発表する（資料作成)。
14	プレゼンテーション	自国の文化を日本語で発表する（発表と質疑応答)。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇未定。

【履修条件等】

◇教員から履修の指示があった者に限る。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に、その都度指示する。

◇日常的に周囲で使われている日本語に注意をはらう。

【その他の注意事項】

◇文法などにおける初級、中級、上級は一般的な水準ではなく、当該年度の学習者の水準から設定する。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

多文化理解Ⅴ（留学生対象）	難波（ナンバ）　俊樹（トシキ）
Multicultural Issues V	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

留学生を対象とする本講義では、自国文化、自国言語との比較によって、日本の現代文化・伝統文化・ビジネス文化や日本語への理解を深めていくことを目的とします。日本文化を理解することを通じて、それに必要な日本語の読解力と聴解力を、自国の文化を説明することを通じて、それに必要な会話力と文章力そして協働する力を獲得する学習を行います。日本でビジネスを行う、日本とビジネスを行う上でも日本文化の理解と、異文化と自国文化の相違点を見出すことは重要だと考えられます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文化を理解するために必要な日本語力を身につける	メディアなどを通じて日本の現代文化や伝統文化などを理解するために必要な読解力、聴解力、語彙力を身につける。	40%
自国文化を日本語で説明するための日本語力を身につける	自国の文化について、ビジネスレベルを意識しながら、日本語で説明するために必要な会話力、文章力を身につける。	40%
日本文化と異文化の共通点と相違点を見出す	日本文化（含むビジネス文化）と外国の文化との共通点と相違点を見出すことができる。	20%

評価の方法　講義中の参加状況　30%
課題提出　40%
最終確認テスト　30%
３回以上欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	本講義の目的と概要の説明
2	日本文化・経済理解	新聞、テレビなどを通じての日本理解
3	日本文化・経済理解	新聞、テレビなどを通じての日本理解
4	日本文化・経済理解	新聞、テレビなどを通じての日本理解
5	日本文化・経済理解	新聞、テレビなどを通じての日本理解
6	日本文化・経済理解	新聞、テレビなどを通じての日本理解
7	日本文化・経済理解	新聞、テレビなどを通じての日本理解
8	中間評価	前半に学んだ事項の確認テスト
9	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート（文章作成）
10	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート（相互評価）
11	相互の文化理解	自国の文化を日本語でレポート（振り返り）
12	プレゼンテーション	自国の文化を日本人向けにガイドするパンフレット作成（準備）。
13	プレゼンテーション	自国の文化を日本人向けにガイドするパンフレット作成（資料作成）。
14	プレゼンテーション	自国の文化を日本人向けにガイドするパンフレット作成（発表と質疑応答）。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇未定。

【履修条件等】

◇教員から履修の指示があった者に限る。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に、その都度指示する。

【その他の注意事項】

◇協同作業があるので、極力欠席はしないように。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

健康と運動Ⅰ	井上（イノウエ）　航人（コウト）
Health and Sports I	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2 3 4 5 6 7	実技：集団型スポーツ①、② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
8 9	講義：①運動と健康の関係について ②生活習慣病について
10 11 12 13 14 15	実技：ネット型スポーツ①、② 小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

健康と運動Ⅰ	田島（タジマ）　外志美（トシミ）
Health and Sports I	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題になっている性感染症（ＳＴＤ）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月１回の測定（体脂肪・血圧・ＢＭＩ）ができること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内　容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 ～ 3	チームビルディング アダプテッドスポーツ
4 ～ 8	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
9 ～ 10	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
11 ～ 14	実技：ネット型スポーツ①～③ 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

健康と運動Ⅰ	西村（ニシムラ）　卓二（タクジ）
Health and Sports I	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習を導入し「正しいフォームつくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。他にバスケット、バドミントン競技も実施する。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出)。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技における特性の理解度	卓球の各技術を紹介し、練習を通じて成長度をチェックし、とくにラリーが続けられることを評価ポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	マシン、多球練習等により、より正確に強く打球できるか（スピード・コントロール・コース・スピン）を計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術、技術対応力を評価する。 ②試合における精神的強さ、闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力をチェックする。 健康維持に関する知識の学習。	20%
評価の方法　マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2 3 4 5 6	卓球競技の歴史、特性説明 ラケット、ラバー、グリップ、スタンス、フリーハンドの効用、フォアハンドストローク、スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。前後・左右の動き、足の運び方の注意点。動く側、動かす側の注意点とコースの打ち分け（ストレート、クロス、ミドル）。スピードと正確さを追求する。
7 8 9	ショート（ブロック） ショートカット（ツッツキ）	肘の屈伸を使う。角度、打球点を注意して、スピードをあげる。手首を使い、ボールの真下をこする。ナナメ回転、下回転、横回転をマスターする。
10 11	サーブ、レシーブ	回転の種類による返球方法、角度調整を工夫する。多種類な回転サーブを学習する（コース、速さ、種類）。
12 13 14	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル３ゲームのリーグ戦を実施。試合の組み立て、戦術の駆け引き、間の取り方を教授する。
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

◇西村卓二著『確実に上達する卓球（改訂版）』実業之日本社

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講すること。

【その他の注意事項】

◇室内履き（シューズ）、運動のできる準備をして出席のこと。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

健康と運動Ⅱ	井上（イノウエ）　航人（コウト）
Health and Sports II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2 3 4 5 6 7	実技：集団型スポーツ①、② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
8 9	講義：①基礎代謝について ②性感染症について
10 11 12 13 14 15	実技：ネット型スポーツ①、② 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーやバドミントン等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

健康と運動Ⅱ	田島（タジマ）　外志美（トシミ）
Health and Sports II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月１回の測定（体脂肪・血圧・ＢＭＩ）ができること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内　容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 ～ 3	チームビルディング アダプテッドスポーツ
4 ～ 8	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
9 ～ 10	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
11 ～ 14	実技：ネット型スポーツ①～③ 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

健康と運動Ⅱ	西村（ニシムラ）　卓二（タクジ）
Health and Sports II	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習による「正しいフォームつくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。またダブルスのゲームを行い、パートナーとの協調性を高める。

他にバスケット、バドミントン競技も実施し身体能力をチェックする。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出)。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技の特性を理解すること	卓球競技の各技術を紹介し、授業を通じて成長度をチェックし、特にラリーが続けられるかを評価のポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	スピード、回転、コースを正確にして相手コートに打球できるかを計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術の理解度、対応力を評価する。 ②対戦相手に対する闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力のチェックする。 健康維持に関する知識の習得。	20%
評価の方法　マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2 3 4 5 6	卓球競技の歴史、特性説明 ラケット、ラバー、グリップ、 スタンス、フリーハンドの効 用、フォアハンドストローク、 スマッシュ、フットワーク（左 右・前後）	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。 腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けら れるか記録をとる。動く側と動かす側の注意点。コ ースを打ち分けられるか、スピードを追求する。
7 8 9	ショート（ブロック） ショートカット（ツッツキ）	肘の屈伸を使い、角度と打球点を注意する。 手首を使い、ボールの真下をこする（切る）。 ナナ目、横、下回転をマスターする。
10 11	サーブ、レシーブ	多種多様な点を工夫する（速さ、コース変化に注意）。 回転の種類による返球方法の注意点。
12 13 14	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル３ゲー ムを実施する。試合の組み立て、戦術、駆け引き、 間の取り方を教授する。
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェック する。

【使用教材】

◇西村卓二著『卓球上達テクニック』実業之日本社

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講することが望ましい。

【その他の注意事項】

◇室内履き、運動着の準備をして出席のこと。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

健康と運動Ⅲ	井上（イノウエ）　航人（コウト）
Health and Sports III	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	（履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

健康と運動Ⅲ	田島（タジマ）　外志美（トシミ）
Health and Sports III	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、スポーツによる傷害（外傷・障害）の現状を理解し、傷害の起こしにくい「からだ作り」、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が関係する傷害の発生メカニズムと対処法を学び、適切な行動ができる力を身につけること	講義後、提出されたレポートによって評価。 スポーツ傷害（外傷・障害）の理解、外傷が発生した際の対処方法の知識を有すること。	20%
傷害を起こしにくい「からだ作り」について学び、実践可能なトレーニングの知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 加齢とともに低下していく筋力・体力の維持に必要なトレーニングの必要性と、トレーニングに関する正しい知識を有すること	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月１回の測定（体脂肪・血圧・ＢＭＩ）ができること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内　容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 ～ 3	チームビルディング アダプテッドスポーツ
4 ～ 8	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
9 ～ 10	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
11 ～ 14	実技：ネット型スポーツ①～③ 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

健康と運動Ⅳ	井上（イノウエ）　航人（コウト）
Health and Sports IV	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう、運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い、積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2 3 4 5 6 7	実技：集団型スポーツ①、② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）
8 9	講義：①基礎代謝について ②性感染症について
10 11 12 13 14 15	実技：ネット型スポーツ①、② 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーやバドミントン等を題材に学ぶ （履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある）

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

健康と運動Ⅳ	田島（タジマ）　外志美（トシミ）
Health and Sports IV	選択科目／半期／１単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年話題になっているロコモティブシンドロームの理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動不足が身体におよぼす影響を学び、その予防方法を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動器の障害により移動機能が低下するロコモティブシンドロームとその予防法の正しい知識を有すること。	20%
自己に適した運動の強度や種類についての知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動処方のひとつの尺度である「心拍数」を使って、自己に適した運動強度を算出できること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月１回の測定（体脂肪・血圧・ＢＭＩ）ができること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内　容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 ～ 3	チームビルディング アダプテッドスポーツ
4 ～ 8	実技：集団型スポーツ①② 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット、フットサル等を題材に学ぶ
9 ～ 10	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について）
11 ～ 14	実技：ネット型スポーツ①～③ 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

日本語Ⅲ（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Language III	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、ＢＪＴビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報１
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報２
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査１
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査２、出張１
6	ビジネス日本語の基礎	出張２
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー１
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー２
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	ＢＪＴビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

日本語Ⅲ（留学生科目）	コバヤシ　ヒロノリ 小林　寛典
Japanese Language III	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、ＢＪＴビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報１
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報２
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査１
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査２、出張１
6	ビジネス日本語の基礎	出張２
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー１
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー２
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	ＢＪＴビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

日本語Ⅲ（留学生科目）	塩谷（シオタニ）　由美子（ユミコ）
Japanese Language III	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、ＢＪＴビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	個人情報１
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報２
4	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査１
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査２、出張１
6	ビジネス日本語の基礎	出張２
7	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
8	ビジネス日本語の基礎	インタビュー１
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー２
10	ビジネス日本語の基礎	日程調整
11	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
12	ビジネス日本語の基礎	展示会
13	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
14	ビジネス日本語の基礎	ＢＪＴビジネス日本語テスト準備
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

日本語Ⅳ（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Language IV	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

就職活動を意識して、日本の言語文化を学び、自己表現を訓練する。

他人に与える印象も含め、自分を客観的にみること、さらにそれをどのように表現するかを考える。また、その中で、分析、統合、総括、表現へと、基本的な考え方を学んでいく。

語彙表現が与えるイメージを中心に、人物評価の語彙表現、日本人の考え方・感じ方を学ぶ。また、時間内に簡潔に述べることができるようになることをも目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相手との関係で表現を考える。効果的な表現方法を学ぶ	書いたものを自分で客観的にチェックし、相手に与える効果を意識できているか、書いたものから評価する。	25%
性格等を表すための語彙・表現を学ぶ	語彙の意味・用法を知り、場に応じて使えるかどうか、小テストを実施予定。また、書いたものから評価する。	15%
分析したことをまとめ、表現する	自分の来し方を振り返り、自分を再評価、相手に伝わる表現となっているか、書いたものから評価する。	25%
就活に使える長所短所の述べ方を学ぶ	作文を暗記するのではなく、自然な話し言葉で、限られた時間の中で、必要十分な表現で口頭発表ができたかどうかを評価する。	25%

評価の方法　授業態度、参加度も評価の対象となる。
授業態度・参加度10%、客観的な表現25%、語彙表現の定着15%、的確な表現25%、口頭表現25%
出席が３分の２に満たない場合には単位は与えられない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	自己紹介	なぜ自己紹介なのか、表現するとは
2	いい自己紹介	自己紹介の目的、就活とは
3	長所短所	短所についての表現
4	自己分析	自分を客観視する
5	語彙１	性格についての表現
6	語彙２	語の価値
7	語彙３	自分を表現できる語彙
8	エピソード	自分の性格を裏付けるエピソード
9	ブレインマップづくり	長所短所とエピソード
10	アウトライン作成	内容の適否を検討、アウトライン作成
11	作文	400字程度の長所短所についての作文
12	フィードバック	書き直し
13	口頭発表の準備	アウトラインに基づいて口頭発表の準備をする
14	口頭発表	時間内での発表を目指す
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇出席するだけではなく、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布されたものについては、予習をすること。

【その他の注意事項】

◇適宜小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

◇課題は必ず提出し、期限を厳守すること。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

日本語Ⅳ（留学生科目）	コバヤシ　ヒロノリ 小林　寛典
Japanese Language IV	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」で身につけたビジネス場面での基礎的な日本語を使って、日本語の運用能力の向上を図るとともに、基礎の定着と発展を図る。模擬的なビジネス場面を想定し、簡易な企画立案、プレゼンテーションの課題に取り組む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス場面における日本語表現の習得	ビジネス場面における適切な表現を選択できるか否か、またビジネス場面における語彙を理解し使用できるかどうかを評価する。	30%
文書や音声情報の処理能力の向上	文書や音声など、外部からの情報を正確に理解し、対処できること。	40%
ビジネス課題の達成	簡単な企画立案、プレゼンテーションができること。	30%
評価の方法　授業参加度30%、課題30%、本試験40% 学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画、発表の日本語導入
2	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　１－①
3	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　１－②
4	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　１－③
5	ビジネス日本語演習	演習１－①
6	ビジネス日本語演習	演習１－②
7	ビジネス日本語演習	演習１－③
8	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　２－①
9	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　２－②
10	ビジネス日本語基礎	基礎の定着と発展　２－③
11	ビジネス日本語演習	演習２－①
12	ビジネス日本語演習	演習２－②
13	ビジネス日本語演習	演習２－③
14	ビジネス日本語演習	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇欠席せず、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

日本語Ⅳ（留学生科目）	塩谷（シオタニ）　由美子（ユミコ）
Japanese Language IV	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

卒業後の日本での就職、あるいは日本企業に関連した職場での仕事を想定して、ビジネス日本語の表現および日本のビジネスマナーやビジネス習慣を学ぶことを目的にした授業である。視聴覚教材を使用してビジネス場面特有の語彙・表現を学習しながら、ビジネスマナーや習慣についても悪い例・良い例を視覚的に見て具体的に学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
敬語の形式を習得し、場面ごとの適切な待遇表現が使えるようにする	授業中の小テストで評価する。	15%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、適切なビジネス日本語表現ができるようにする	提出された課題の完成度と本試験によって習熟度を評価する。	課題15% 本試験のうち 70%
日本のビジネスマナー・ビジネス習慣を学び、場面に合わせた適切な行動をとれるようにする	本試験によって習熟度を評価する。	本試験のうち 30%

評価の方法　受講態度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%
学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画
2	日本の就職活動①	日本の大学生の就職活動の具体的例（前半）
3	日本の就職活動②	日本の大学生の就職活動の具体的例（後半）
4	ビジネスマナーの基本	ビジネス習慣などの基本マナー
5	敬語①	敬語の種類と形
6	敬語②	場面ごとの待遇表現
7	ビジネス文書①	種類、文体、書式の基本
8	ビジネス文書②	いろいろなビジネス文書の形式
9	電話の受け方①	電話応対の基本と表現
10	電話の受け方②	電話取り次ぎ、伝言の方法
11	電話のかけ方	電話をかけるときの基本的表現とマナー
12	訪問のマナー	受付、名刺交換などのマナーと表現
13	応接のマナー	応接の習慣と表現
14	日本のビジネススタイル	ビジネス習慣の違い
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて資料を配付する。

◇参考図書：株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語　テキスト①内定者編』株式会社日本映像教育社
株式会社日本映像教育社編著（2004）『オフィスで使える！マナーもに身につく！ビジネス日本語　テキスト②新入社員編』
株式会社日本映像教育社

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇基本会話表現を想定した会話シートを完成してくること。

【その他の注意事項】

◇上記の授業計画は受講人数、大学内行事日程などを勘案して変更することがある。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

日本の社会としくみ（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Culture and Society	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、特にグループ活動を通して完成すること目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%

評価の方法　授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40%
ただし、単位取得には最低３分の２以上の出席を必要とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が５回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

日本の社会としくみ（留学生科目）	小林（コバヤシ）　寛典（ヒロノリ）
Japanese Culture and Society	選択科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、グループディスカッションという手段を使って、自分の考えをまとめて発信する力、他者の考えを聞いて自分の考えと比較する力を身につけること、また、そこから考えを発展させ視野を広げることを目的とする。他の学生と協力しながらグループディスカッションを行い、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。このようなグループ活動と発表を通して、社会的なトピックについての知識も深めていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加する	グループ活動に積極的に参加し、円滑なグループ活動に貢献すること。	30%
グループの意見をまとめて発表する	グループで出た意見をまとめ、発表する。	40%
小論文	ディスカッションの結果をクラス全体で共有し、気づきや感想を小論文にまとめる。	30%
評価の方法　授業参加度（グループ貢献度）30%、発表40%、小論文30% 学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	授業の説明	授業と評価の説明、グループディスカッション導入
2	ディスカッション１	ディスカッション　１－①
3	ディスカッション２	ディスカッション　１－②
4	ディスカッション３	ディスカッション　１－③
5	ディスカッション４	発表１－①
6	ディスカッション５	発表１－②
7	ディスカッション６	発表１－③
8	ディスカッション７	ディスカッション　２－①
9	ディスカッション８	ディスカッション　２－②
10	ディスカッション９	ディスカッション　２－③
11	ディスカッション１０	発表２－①
12	ディスカッション１１	発表２－②
13	ディスカッション１２	発表２－③
14	ディスカッション１３	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。必要に応じて資料を配布する。

【履修条件等】

◇遅刻欠席をせず、意欲を持って学習に取り組むこと。

◇メンバーと協力しあうこと。

◇相手の意見を尊重する姿勢を持つこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要に応じて指示する。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が５回を越えた場合は、単位は認めない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

インターンシップⅠ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Internship Ⅰ	選択科目／認定／１単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 （インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように）	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法　エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2 ～ 14	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー 現場での就業体験（５日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇３年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。

◇１、２年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（１ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には５日間（30時間）の就業体験にて１単位が付与され、最大４単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇５日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋α）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

インターンシップⅡ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Internship II	選択科目／認定／１単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 （インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように）	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法　エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2 ～ 14	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー 現場での就業体験（５日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇３年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。

◇１、２年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（１ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には５日間（30時間）の就業体験にて１単位が付与され、最大４単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇５日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋α）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

インターンシップⅢ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Internship III	選択科目／認定／１単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 （インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように）	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法　エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2 ～ 14	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー 現場での就業体験（５日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇３年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。

◇１、２年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（１ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には５日間（30時間）の就業体験にて１単位が付与され、最大４単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇５日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋α）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

インターンシップⅣ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Internship IV	選択科目／認定／１単位

【授業概要】

実務的知識を深め、キャリアプランを考えていくことを目指します。実習型の講座になるため、自律性の高い学生の参加を望む。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構えを身につける	ウェブなどを用いて適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 （インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように）	20%
インターンシップで社会の現状を知り、自己のキャリアについて考える	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	60%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かす	報告会などの場で自らの体験を伝えることができるか。 自らの就業体験の結果を他者に伝えること。	20%
評価の方法　エントリーシート作成に始まり、就業体験、実習報告書の提出という一連の作業を無事に修了すること。		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2 ～ 14	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのウェブでのエントリー 現場での就業体験（５日間＝30時間） インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇３年生の履修希望者は授業科目「就職特講」を必ず履修すること。

◇１、２年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇ウェブ公募でのエントリーを行い、企業でのインターンを行ってもらう。

◇手続きに不慣れなものに対しては別途「インターンシップ説明会」を開催する。そこで一般的なインターンシップ参加の手続きを身につけてもらう。

◇実習の経過はキャリア支援部への報告・連絡・相談を行うこと。

◇長期インターンシップ（１ヶ月以上など）に参加する場合には、報酬発生することが予想されるため注意が必要。報酬のあるインターンシップでの単位認定はできない。

◇基本的には５日間（30時間）の就業体験にて１単位が付与され、最大４単位まで認定可能（インターンシップⅠ～Ⅳに相当）。

◇５日間の就業体験は同一企業であることを求めない（複数企業可）。

◇インターンシップは認定単位のため通常の履修とは別枠（44単位＋α）。

◇インターンシップに挑戦したい時に開始してもらって構わない（通年対応）。

総合教育科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	
Self-advancement Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ	選択科目／認定／各１単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後３か月以内に単位認定の申請をすることが必要（１月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する)。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムＩＴパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC 等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」(受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算５日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」(340円。学生支援担当窓口扱)に加入し、活動終了後は、２週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

外　国　語　科　目

2019年度

経営学部イベントプロデュース学科

＜１年生・２年生・３年生用＞

東京富士大学

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

英会話Ⅰ	木村（キムラ）　直樹（ナオキ）
English Conversation I	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

皆さんの中には、街中で外国人に英語で道を尋ねられて、右往左往した経験がある人もいると思います。今後、日本を訪れる外国人の数は、留学や観光などの目的でますます増加し、オリンピックの開催とともにピークを迎えることでしょう。この講座では、そのような状況を考慮して、日常生活で外国人と英語で接するさまざまな場面を想定した英会話のパターンを勉強します。たとえば道を尋ねられた際に、「主体」をどこに置くかによって、異なる会話パターンが生じることを知らない人もいるかもしれません。この講座では、そのような状況下での会話の「バリエーション」に焦点を当てます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。授業への出席は３分の２以上を前提とする（『学生要覧』参照）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 :“For here, or to go?”	飲食店での注文対応を学ぶ
3	(same as above)	文化:「おにぎり」について英語で説明してみる
4	Unit 2 :“How many are …?”	レストランでの来客対応の仕方を学ぶ
5	(same as above)	文化:「ラーメン」について英語で説明してみる
6	Unit 3 :“I'll be right back.”	レストランでの接客の仕方を学ぶ
7	(same as above)	文化:「お箸」について英語で説明してみる
8	Unit 4 :“Would you like …?”	コンビニやスーパーでの接客サービス
9	(same as above)	文化:「おでん」について英語で説明してみる
10	Unit 5 :“Your total is …”	お会計の伝え方を学ぶ
11	(same as above)	文化:「サイン（署名)」に対する意識の違い
12	Unit 6 :“I'm sorry for …”	苦情対応の仕方を学ぶ
13	(same as above)	日本と英語圏での謝罪に対する意識の違いを学ぶ
14	Unit 7 : Reservation	ホテルや旅館での受付対応
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. (2016). You Are Welcome! Cengage Learning.

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可)。詳細は初回の授業で指示します。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

英会話 I	ジャネツト　ジョンソン **Janet Johnson**
English Conversation I	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、英会話の基礎を学びます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話たり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む)、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題)。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む)、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題)。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法　筆記およびリスニングテスト30%×２、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Orientation	Explanation of class content and procedures. Warm ups.
2	Unit 1 Greetings	Personal info. Present tense statements. Pair work.
3	Greetings cont. Self Introductions	Speaking exercises. Giving and asking for information.
4	Unit 2 Occupations	Occupations. Describing types of work. Conversation and grammar exercises.
5	Unit 2 cont.	Jobs. Speaking practice. Self-study exercises.
6	Unit 3 Shopping	Asking prices. Describing items by proximity, color, type. Stating preferences.
7	Money	Learning and identifying USA currency.
8	Review Units 1－3	Review exercises and preparation for first Short test.
9	Short Test	Test on Units 1－3
10	Unit 4 Entertainment	Describing entertainment likes and dislikes.
11	Unit 4 cont.	Invitations:Extending and declining
12	Unit 5 Families	Identifying family relationships.
13	Unit 6 cont.	Talking about families.
14	Review Units 4＆5	Review points, vocabulary and grammar.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

◇ Interchange : English for international communication　Book 1
Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習)。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のＣＤを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

英会話Ⅰ	ブレント　フィアルカ **Brent Fialka**
English Conversation I	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

スニングを総合的に学習します。全員が積極的に参加できるよう、クラス内の全てのアクティビティーは２人一組のペアか小グループを作って行います。積極的な参加姿勢はとても大切です！　この授業の目的は、楽しみながら英会話を学ぶことです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文法の理解	それぞれの単元で基本的な文法事項を確認した後で練習問題に取り組み、平易な文法事項を理解できるようになる。	20%
会話力の向上	新しく学んだ文法事項を使って、簡単な英会話を組み立てられるようになる。	25%
リスニング力の向上	各ユニット内のリスニング問題に取り組み、以前に学んだ会話表現をしっかりと使えるようになる。	25%
読解力の向上	テキスト内の簡単な英文を読み、読解セクションまでに学んだ知識を応用できるようになる。	20%
英作文	簡単な英文を作れるようになる。	10%
評価の方法　最終評価には中間試験と期末試験がそれぞれ25%ずつ含まれます。残りの50%は授業での積極的な参加姿勢、たとえば出席、積極性、グループワークやペアワーク、授業内での発言や課題への取り組みなどが含まれます。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Unit 1	Introduction of course materials, class structure and rules. Begin unit one.
2	Unit 1	Finish text material and do workbook exercises.
3	Unit 2	To be + Location. Subject pronouns. Classroom objects, rooms in the home, cities and nationalities, places around town.
4	Unit 3	Present continuous tense. Everyday activities
5	Unit 4	To be: short answers and possessive adjectives. Everyday activities.
6	Unit 5	Yes/No questions, short answers, adjectives, possessive nouns. Describing people and things. Weather.
7	Unit 5	Finish text material up to unit 5 and do workbook exercises. Review for test.
8	Midterm test 25%	
9	Unit 6	Review present continuous tense. Review prepositions of location. Family members. Describing activities and events.
10	Unit 7	Prepositions. There is/there are. Places around town. Locating places. Describing neighborhoods. Describing apartments.
11	Unit 7	Finish text material and do workbook exercises.
12	Unit 8	Singular/ plural. Adjectives. This/that/these/those.
13	Unit 8	Finish text material and do workbook exercises.
14	Unit 9	Simple present tense. Languages and nationalities. Everyday activities.
15	Final test	Final test on units 6 to 9

【使用教材】

◇ Side by Side Extra. Book and eText 1. International edition.
Steven J. Molinsky and Bill Bliss. Pearson Education Inc.

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇詳細は初回の授業で指示します。

【その他の注意事項】

◇出席は３分の２を満たすことを前提とします。クラスでの参加度合いを重視しますので、積極的に授業に参加することを求めます。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

英会話Ⅰ	渡邉（ワタナベ）　きみ代（キミヨ）
English Conversation Ⅰ	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

本講義では、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することからはじめ、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行で必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法　遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Introduction	授業の進め方、評価についての説明
2	あいさつ	be 動詞と一般動詞
3		いろいろなパターンのあいさつ
4	自己紹介	疑問文と否定文
5		自分を知ってもらう
6	感想を言う	現在形と過去形
7		人、物事についての意見を述べる
8	会話テスト	
9	注文する	可算名詞と不可算名詞
10		レストランでの会話
11	お願いをする	代名詞
12		いろいろなパターンの依頼
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York　著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む)、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、 授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

英会話Ⅰ（留学生）	キムラ　ナオキ 木村　直樹
English Conversation I	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらに海外での会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。

授業への出席は３分の２以上を前提とする（『学生要覧』参照）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit １：In-Flight Announcements	空港から航空機内での表現を学ぶ
3	(continued)	（続き）
4	Unit ２：At Customs	入国手続きに必要な表現を学ぶ
5	(continued)	（続き）
6	Unit ３：Getting to a Hotel	空港からホテルへの移動時に使う表現を学ぶ
7	(continued)	（続き）
8	Unit ４：Checking into a Hotel	ホテルのチェックイン時の表現を学ぶ
9	(continued)	（続き）
10	Unit ５：Check-in w/o Reservation	予約なしでチェックインする際の表現を学ぶ
11	(continued)	（続き）
12	Unit ６：At a Restaurant	レストランでの注文方法や支払いについて学ぶ
13	(continued)	（続き）
14	春学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill. (2019). Travel English at Your Fingertips. 成美堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可)。詳細は初回の授業で指示します。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

英会話Ⅰ（再履修）	木村（キムラ）　直樹（ナオキ）
English Conversation I	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらに海外での会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。

授業への出席は３分の２以上を前提とする（『学生要覧』参照）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit １：In-Flight Announcements	空港から航空機内での表現を学ぶ
3	(continued)	（続き）
4	Unit ２：At Customs	入国手続きに必要な表現を学ぶ
5	(continued)	（続き）
6	Unit ３：Getting to a Hotel	空港からホテルへの移動時に使う表現を学ぶ
7	(continued)	（続き）
8	Unit ４：Checking into a Hotel	ホテルのチェックイン時の表現を学ぶ
9	(continued)	（続き）
10	Unit ５：Check-in w/o Reservation	予約なしでチェックインする際の表現を学ぶ
11	(continued)	（続き）
12	Unit ６：At a Restaurant	レストランでの注文方法や支払いについて学ぶ
13	(continued)	（続き）
14	春学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill. (2019). Travel English at Your Fingertips. 成美堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可)。詳細は初回の授業で指示します。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

英会話Ⅱ	木村（キムラ）　直樹（ナオキ）
English Conversation II	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

前期に引き続き、この講座では、日本国内の日常生活やアルバイト先の飲食店などで、外国人と英語で接するさまざまな場面を想定した英会話のパターンを勉強します。後期は主に観光客をターゲットとした商業施設での対応の仕方や、公共交通機関の利用法の説明など、ややスキルを要求されるような会話パターンを勉強します。授業では、こうした一見難しそうに見える英会話でも、簡単な単語の組み合わせで組み立てることができるということを解説します。(※この講座は「英会話Ｉ」の続きです)。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。授業への出席は３分の２以上を前提とする（『学生要覧』参照)。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	前期の復習	英会話Ⅰでカバーした内容の確認、チェック問題
2	Unit ７：Reservation	文化：「旅館」について英語で説明してみる
3	Unit ８：“Wi-Fi is available.”	商業施設でのサービス提供について説明する
4	(same as above)	文化：「おみやげ」について英語で案内する
5	Unit ９：“I recommend …”	観光案内や自分のお勧めスポットを説明する
6	(same as above)	日本と海外の文化の違いを理解する
7	Unit10：“Turn right at …”	道案内をする
8	(same as above)	地図の見方を説明する
9	Unit11：“Take the subway.”	公共交通機関の案内を英語でしてみる
10	(same as above)	さまざまな移動手段を英語で説明する
11	Unit12：“First, put the …”	券売機や電化製品の使用法を説明する
12	(same as above)	文化：「リモコン」を英語で説明する
13	後期の復習	後期の学習内容の確認
14	後期の復習	後期の学習内容の確認および総復習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. (2016). You Are Welcome! Cengage Learning.

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可)。詳細は初回の授業で指示します。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

英会話Ⅱ	ジャネツト　ジョンソン **Janet Johnson**
English Conversation II	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

「英会話Ⅱ」では、引き続き英会話の基礎を学んでいきます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話たり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む)、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題)。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む)、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題)。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法　筆記およびリスニングテスト30%×２、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Summer Report	Greetings and report of summer activities.
2	Review Unit 5	Review of last material covered in English I.
3	Unit 6 Leisure	Asking about locations and places. Listening. Repeating.
4	Unit 6	Survey on leisure activities.
5	Cross-cultural topic	Halloween. Customs, history, essential warning vocabulary
6	Unit 7 Weekend	Practice Past tense. Wh-questions.
7	Unit 7	Additional conversation and grammar practice.
8	Review Units 6 & 7	Review exercises and preparation for test.
9	Short Test	Test on Units 6 & 7
10	Unit 8 Cities-Places	Locations, neighborhoods. There is/ There are practice.
11	Unit 8 cont.	Finding out about new areas.
12	Unit 9 Appearance	Describing appearances. Listening practice.
13	Unit 9 cont.	Present continuous practice. Describing pictures.
14	Review 8 & 9	Review of materials and preparation for Final test.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

◇ Interchange : English for international communication Book 1
Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習)。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のＣＤを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

英会話Ⅱ	ブレント　フィアルカ **Brent Fialka**
English Conversation II	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

スニングを総合的に学習します。全員が積極的に参加できるよう、クラス内の全てのアクティビティーは２人一組のペアか小グループを作って行います。積極的な参加姿勢はとても大切です！　この授業の目的は、楽しみながら英会話を学ぶことです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文法の理解	それぞれの単元で基本的な文法事項を確認した後で練習問題に取り組み、平易な文法事項を理解できるようになる。	20%
会話力の向上	新しく学んだ文法事項を使って、簡単な英会話を組み立てられるようになる。	25%
リスニング力の向上	各ユニット内のリスニング問題に取り組み、以前に学んだ会話表現をしっかりと使えるようになる。	25%
読解力の向上	テキスト内の簡単な英文を読み、読解セクションまでに学んだ知識を応用できるようになる。	20%
英作文	簡単な英文を作れるようになる。	10%

評価の方法　最終評価には中間試験と期末試験がそれぞれ25%ずつ含まれます。残りの50%は授業での積極的な参加姿勢、たとえば出席、積極性、グループワークやペアワーク、授業内での発言や課題への取り組みなどが含まれます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Unit 10	Simple Present tense. Habitual Actions. People's interests and activities.
2	Unit 10	Finish text material. Workbook exercises.
3	Unit 11	Object Pronouns. Have/has. Adverbs of frequency. Describing frequency of actions. Describing people.
4	Unit 11	Finish text material. Workbook exercises.
5	Unit 12	Contrast; simple present and present continuous. Feelings and emotions. Describing usual and unusual activities.
6	Unit 13	Can. Have to. Expressing ability. Occupations. Looking for a job. Expressing obligation. Invitations.
7	Unit 13	Finish text material. Workbook exercises. Review for test.
8	Midterm test 25%	Test on units 10 to 13.
9	Unit 14	Future. Describing future plans and intentions. Expressing wants Weather forecasts. Telling time. Making predictions.
10	Unit 14	Finish text material. Workbook exercises.
11	Unit 15	Past tense. Past actions and activities. Ailments. Describing an event. Making a doctor's appointment.
12	Unit 16	Past tense continued. Giving reasons. Giving excuses.
13	Unit 17	More past tense! Describing physical states and emotions.
14	Unit 17	Finish text material. Workbook exercises. Review for test.
15	Final test. 25%	Test on units 14 to 17.

【使用教材】

◇ Side by Side Extra. Book and eText 1. International edition.
Steven J. Molinsky and Bill Bliss. Pearson Education Inc.

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇詳細は初回の授業で指示します。

【その他の注意事項】

◇出席は３分の２を満たすことを前提とします。クラスでの参加度合いを重視しますので、積極的に授業に参加することを求めます。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１年生

英会話Ⅱ	渡邉（ワタナベ）　きみ代（キミヨ）
English Conversation II	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

本講義では、「英会話Ⅰ」に続き、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することから始め、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行で必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法　遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ウォーミングアップ	夏休みのできごとについて話す
2	場所を説明する	前置詞
3		場所と時間を説明する
4	人を描写する	形容詞と副詞
5		人の性格や特徴を表現する
6	体調を述べる	助動詞
7		健康、病気の表現
8	会話テスト	
9	誘う	進行形
10		誘ったり、薦めたりする
11	誘いを断る	接続詞
12		配慮ある断り方
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York　著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む)、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、 授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

英会話Ⅱ（留学生）	キムラ　ナオキ 木村　直樹
English Conversation II	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらに海外での場面で会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。（この講座は「英会話Ⅰ（留学生・再履修）」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。

授業への出席は３分の２以上を前提とする（『学生要覧』参照）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス＆前期の復習	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit ７：Taking the Subway	地下鉄での切符の買い方や乗り換えの表現を学ぶ
3	(continued)	（続き）
4	Unit ８：At a Fast-Food Restaurant	ファストフードの注文、持ち帰りの方法を学ぶ
5	(continued)	（続き）
6	Unit ９：Hotel Service	ホテルのフロントに問い合わせる表現を学ぶ
7	(continued)	（続き）
8	Unit10：Booking a Tour	現地でのツアーの申し込み方法について学ぶ
9	(continued)	（続き）
10	Unit11：Health Care	薬の購入や病院にかかる際の表現を学ぶ
11	(continued)	（続き）
12	Unit12：Shopping	買い物の際に店員と話す表現を学ぶ
13	(continued)	（続き）
14	秋学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill. (2019). Travel English at Your Fingertips. 成美堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可)。詳細は初回の授業で指示します。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

英会話Ⅱ（再履修）	木村（キムラ）　直樹（ナオキ）
English Conversation II	基礎科目／半期／１単位

【授業概要】

この講座では、英語の基本表現を使いこなし、海外旅行や出張先でのさまざまな場面において、自信を持って適切に話せるようになることを目的としています。「英会話」となると身構えてしまうことも多いかとは思いますが、実際には非常に限られた表現を組み合わせるだけでも、自分の意図は十分相手に伝わることが多いです。この授業では、そのような基本フレーズを学習し、そのフレーズの使い方を授業内で練習した後で、さらに海外での場面で会話のバリエーションを増やすためのコツを解説します。（この講座は「英会話Ⅰ（留学生・再履修）」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。

授業への出席は３分の２以上を前提とする（『学生要覧』参照）。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス＆前期の復習	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit ７：Taking the Subway	地下鉄での切符の買い方や乗り換えの表現を学ぶ
3	(continued)	（続き）
4	Unit ８：At a Fast-Food Restaurant	ファストフードの注文、持ち帰りの方法を学ぶ
5	(continued)	（続き）
6	Unit ９：Hotel Service	ホテルのフロントに問い合わせる表現を学ぶ
7	(continued)	（続き）
8	Unit10：Booking a Tour	現地でのツアーの申し込み方法について学ぶ
9	(continued)	（続き）
10	Unit11：Health Care	薬の購入や病院にかかる際の表現を学ぶ
11	(continued)	（続き）
12	Unit12：Shopping	買い物の際に店員と話す表現を学ぶ
13	(continued)	（続き）
14	秋学期のまとめと復習	復習および達成度テストへの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Shimada, Takuji & Benfield, Bill. (2019). Travel English at Your Fingertips. 成美堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可)。詳細は初回の授業で指示します。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅰ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Basic English I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声ＣＤで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法　本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	品詞と語順	名詞、動詞、形容詞、副詞の文中での役割を理解する
3	be 動詞	First Day of Class
4	一般動詞の現在形	I Love Bread
5	可算名詞/不可算名詞	Pizza Time
6	代名詞	Not Just a Baker
7	一般動詞の過去形	What's Wrong With Hitomi?
8	中間試験	試験と解説
9	進行形	It Won't Hurt
10	時と場所を表す前置詞	I Feel Healthy Already
11	未来形	Small Talk
12	現在完了形	Weight Down, Power Up
13	総まとめ	演習問題と解説
14	総まとめ	演習問題と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著　金星堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇指定教材以外に、プリント教材を使うことがあります。

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅰ　BE-A	木村（キムラ）　直樹（ナオキ）
Basic English I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

この講座では、NHK の『COOL JAPAN 発掘！かっこいいニッポン』という番組を見ながら、外国の人から見た日本文化の魅力についての見識を深めるのと同時に、テキスト内のさまざまな問題を解きながら、リーディング・ライティング・スピーキング・リスニングの４技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。
授業への出席は３分の２以上を前提とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit １：	日本の「老舗」を見学する
3	Long Established Businesses	海外と日本の老舗を比較する
4	Unit ２：	日本の会社や学校の「制服」を考察する
5	Uniforms	海外のフォーマルな場での服装について考える
6	Unit ３：	日本のボランティア活動の特徴について学ぶ
7	Volunteer Work	ボランティアの国際事情について学ぶ
8	Unit ４：	日本のハイテク機器、特に「自動運転」の現場を見る
9	High-Tech Living	自動運転技術の裏側について学ぶ
10	Unit ５：	海外の人から見た「和食器」の魅力について考える
11	Japanese Tableware	西洋と日本の食器事情を比較する
12	Unit ６：	日本の「主婦」と「家事」の制度について考える
13	Homemakers of Japan	海外と日本の「主婦」を比較する
14	春学期のまとめ	総復習および確認テストの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Tsuda, A., Kinshi, K., and Valvona, C. (2019). Discovering Cool Japan. Seibido.

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅰ　BE-B	木村（キムラ）　直樹（ナオキ）
Basic English I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

この講座では、映画『ノッティングヒルの恋人』のストーリーをベースにして、日常会話で使われる英語表現や、英会話表現の抑揚のつけ方などを学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの４技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。

授業への出席は３分の２以上を前提とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit １：William's　Notting Hill &　“She”	ウィリアムと「彼女」が初めて出会うシーンを英語で見る
3		
4	Unit ２：Surreal，But Nice	ウィリアムが「彼女」をお茶に誘おうとするシーンを英語で見る
5		
6	Unit １と Unit ２のまとめ	Unit １&Unit ２のスクリプトと要約英文の読解
7	Unit ３：A Goddess Is A Movie Star	「彼女」との再会と、「彼女」の正体についてウィリアムが気付くシーンを英語で見る
8		
9	Unit ４：Birthday Party	ウィリアムの妹の誕生パーティーで各々が語る身の上話のシーンを英語で見る
10		
11	Unit ３と Unit ４のまとめ	Unit ３&Unit ４のスクリプトと要約英文の読解
12	Unit ５：A Date with Anna	アナとウィリアムのデートシーンを英語で見る
13	Unit ５のまとめ	Unit ５のスクリプトと要約英文の読解
14	春学期のまとめ	春学期の内容総復習および期末試験に向けた準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Richard Curtis（著)、神谷久美子 & Kim R. Kanel （編著）(2018)． Notting Hill: 映画総合教材『ノッティングヒルの恋人』新装版．松柏社

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅰ	宍戸（シシド） カール（カール）
Basic English I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

英語で生きたコミュニケーションができるように４つのスキル―話す、聞く、書く、読む―を身につけるのがクラスの目的です。テキストまたは講師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として下記のように評価。 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Unit 1　Hello	Introduction，Greetings
2	Unit 1　Hello	Greetings
3	Unit 2　Your World	Countries，Numbers
4	Unit 2　Your World	Countries，Numbers
5	Unit 3　All About You	Personal Information，Social Expressions
6	Unit 3　All About You	Personal Information，Social Expressions
7	Unit 4　Family/Friends	Describing Family/Friends
8	Unit 4　Family/Friends	Describing Family/Friends
9	Unit 5　I Live	Sports/Food/Drinks
10	Unit 5　I Live	Sports/Food/Drinks
11	Unit 6　Everyday	Time Expression，Preposition
12	Unit 6　Everyday	Time Expression，Preposition
13	Unit 7　My Favorites	Buying help
14	Unit 7　My Favorites	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ American Headway Starter（Third Edition）Oxford University Press

ISBN：9780194725422

Dictionary

Printouts of activity

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅰ	高畑（タカハタ）　一路（カズミチ）
Basic English II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という４つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。使用する教科書は、語彙、文法、読解、会話のあらゆる角度から工夫されたものであり、総合的な英語力を身につけるのに適している。基本的にはこの教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する場合がある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法　授業数３分の２以上の出席を前提として､授業態度および授業貢献度20%、中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Introduction	授業についての概要説明
2	Unit 1	Welcome to Japan
3	Unit 1	Welcome to Japan
4	Unit 2	That Sounds Like Fun
5	Unit 2	That Sounds Like Fun
6	Unit 3	We Leave on Friday Morning
7	Unit 3	We Leave on Friday Morning
8	Midterm Exam	中間試験
9	Unit 4	You Know a Lot About Trains
10	Unit 4	You Know a Lot About Trains
11	Unit 5	I Didn't Want to Leave
12	Unit 5	I Didn't Want to Leave
13	Unit 6	You're Working Late
14	Unit 6	You're Working Late
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic　著者：Robert Hickling, Misato Usukura　出版社：金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可)。

◇指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅰ	渡邉（ワタナベ）　きみ代（キミヨ）
Basic English I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法　遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Introduction	授業の進め方、自己紹介、英語の文章の成り立ちを理解する
2	時制の表現(1)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる
3	時制の表現(2)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる
4	時制の表現(3)	一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる be 動詞、一般動詞を用いた現在形、現在進行形の疑問文を作ることができる be 動詞の過去形を用いた英作文ができるようになる
5	文型(1)	第１文型、第２文型、第３文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くとができるようになる
6	文型(2)	第４文型、第５文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章が書くとができるようになる
7	筆記テスト・解説 【中間テスト】	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	助動詞の働き(1)	基本的な助動詞（will, can, must, have, may）の種 類と意味、働きを説明できるようになる 基本的な助動詞を用いた英作文ができるようになる
9	助動詞の働き(2)	基本的な助動詞の性質を理解し、肯定文、否定文、疑問文を表現することができるようになる
10	疑問文の表現(1) what, who, which	疑問代名詞（what, who, which）の主格、所有格、目的格をそれぞれ説明できるようになる 疑問代名詞 who を用いた英作文ができるようになる
11	疑問文の表現(2)	疑問代名詞 what を用いた英作文ができるようになる 疑問代名詞 which を用いた英作文ができるようになる
12	疑問文の表現(3)	疑問副詞（when, where, why）の意味と働きを説明できるようになる when を用いた英作文ができるようになる
13	疑問文の表現(4) when, where, why	where を用いた英作文ができるようになる why を用いた英作文ができるようになる
14	復習	授業で学習したことを復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】
◇教科書：English Quest Basic　Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか（Pearson Longman）

【履修条件等】
◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】
◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】
◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、 授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

基礎英語Ⅰ（再履修）	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Basic English I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声ＣＤで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法　本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	品詞と語順	名詞、動詞、形容詞、副詞の文中での役割を理解する
3	be 動詞	First Day of Class
4	一般動詞の現在形	I Love Bread
5	可算名詞/不可算名詞	Pizza Time
6	代名詞	Not Just a Baker
7	一般動詞の過去形	What's Wrong With Hitomi?
8	中間試験	試験と解説
9	進行形	It Won't Hurt
10	時と場所を表す前置詞	I Feel Healthy Already
11	未来形	Small Talk
12	現在完了形	Weight Down，Power Up
13	総まとめ	演習問題と解説
14	総まとめ	演習問題と解説
15	本試験	試験（60分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著　金星堂

【副教材】

◇ A Shorter Course in English Grammar Check

Seishi Sato 著　南雲堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇教材なしで出席した日の平常点は0（ゼロ）点になります。

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅱ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Basic English II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声ＣＤで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法　本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	比較級／最上級	It's Nice … And
2	接続詞	Hitomi Wants a New Look
3	動名詞/不定詞	Shopping for Clothes
4	疑問詞	I'm Meeting a Friend
5	助動詞	Date Night
6	受動態	It's Party Time
7	中間試験	試験と解説
8	関係代名詞	レポートの提出
9	関係代名詞	演習問題
10	仮定法	宝くじが当たったらなあ
11	仮定法	演習問題
12 13	音読	未定。１回目の講義時に指示する
14	総まとめ	演習と解説
15	本試験	試験（６0分）と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著　金星堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅱ BE-K	木村（キムラ） 直樹（ナオキ）
Basic English II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

この講座では、NHK の『COOL JAPAN 発掘！かっこいいニッポン』という番組を見ながら、外国の人から見た日本文化の魅力についての見識を深めるのと同時に、テキスト内のさまざまな問題を解きながら、リーディング・ライティング・スピーキング・リスニングの４技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。(この講座は「基礎英語Ⅰ（同一コース)」の続きです)。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。
授業への出席は３分の２以上を前提とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit ７：	外国人から見た日本の海の幸と調理法について知る
3	Seafood	海藻類の食文化について英語で理解する
4	Unit ８:	日本の声優文化について、海外からの視点で考察する
5	Voice Actors	声優の性別と消費行動の関係について考える
6	Unit ９:	日本の「和製料理」について考察する
7	Japanized Foreign Dishes	「カリフォルニア巻」の文化背景を学ぶ
8	Unit10：	外国人から見た日本の「カバン文化」を考える
9	Bags	西洋のファッションとカバンについて考察する
10	Unit11：	「人間ドック」の特有性について学ぶ
11	Senior Citizens	シニア世代のスポーツと日本文化について考える
12	Unit12：	日本の紙幣や硬貨のデザインについて考える
13	Money	お金と紙幣の国際性について考える
14	春学期のまとめ	総復習および確認テストの準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Tsuda, A., Kinshi, K., and Valvona, C. (2019). Discovering Cool Japan. Seibido.

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅱ BE-L	木村（キムラ）　直樹（ナオキ）
Basic English II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

この講座では、映画『ノッティングヒルの恋人』のストーリーをベースにして、日常会話で使われる英語表現や、英会話表現の抑揚のつけ方などを学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの４技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。（この講座は「基礎英語Ⅰ（同一コース）」の続きです）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%

評価の方法　上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。
授業への出席は３分の２以上を前提とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	Unit ６：She's Gone	アナの部屋で衝撃の事実を知ったウィリアムのシーンを英語で見る
3		
4	Unit ７：She's Back	スキャンダルに疲れ切ったアナとウィリアムの再会シーンを英語で見る
5		
6	Unit ６と Unit ７のまとめ	Unit ６&Unit ７のスクリプトと要約英文の読解
7	Unit ８：Rude Awakening -	パパラッチをめぐって疑心暗鬼になるアナとウィリアムのシーンを英語で見る
8	Ain't No Sunshine	
9	Unit ９：Like Me Again	意を決心してアナの撮影現場を訪れるウィリアムのシーンを英語で見る
10		
11	Unit ８と Unit ９のまとめ	Unit ８&Unit ９のスクリプトと要約英文の読解
12	Unit10：	２人の結末のシーンを英語で見る
13	Unit10のまとめ	Unit10のスクリプトと要約英文の読解
14	春学期のまとめ	春学期の内容総復習および期末試験に向けた準備
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Richard Curtis（著)、神谷久美子 & Kim R. Kanel （編著）(2018). Notting Hill: 映画総合教材『ノッティングヒルの恋人』新装版. 松柏社

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅱ	宍戸（シシド） カール（カール）
Basic English II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

英語で生きたコミュニケーションができるように４つのスキル―話す、聞く、書く、読む―を身につけるのがクラスの目的です。テキストまたは講師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として下記のように評価。 出席：30%、授業参加度：30%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Unit 8　Where I Live	Rooms,　Furniture,　Directions
2	Unit 8　Where I Live	Rooms,　Furniture,　Directions
3	Unit 9　Time Past	People,　Job,　Irregular Verbs
4	Unit 9　Time Past	People,　Job,　Irregular Verbs
5	Unit 10　Great Time	Weekend Activities,　Sports/Leisure
6	Unit 10　Great Time	Weekend Activities,　Sports/Leisure
7	Unit 11　I Can Do That	Skills and Abilities
8	Unit 11　I Can Do That	Skills and Abilities
9	Unit 12　Thank You	Shopping,　Restaurant
10	Unit 12　Thank You	Shopping,　Restaurant
11	Unit 13　Here and Now	Opposite Words,　Colors
12	Unit 13　Here and Now	Opposite Words,　Colors
13	Unit 14　It's Time	Transportation
14	Unit 14　It's Time	Transportation
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ American Headway Starter（Third Edition）Oxford University Press

ISBN：9780194725422

Dictionary

Printouts of activity

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅱ	高畑（タカハタ）　一路（カズミチ）
Basic English II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

「基礎英語Ｉ」に引き続き、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という４つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。基本的には教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する。なお、前学期の進度具合によって開始時の内容が前後することもあるので、受講者は「基礎英語Ｉ」のシラバスにも目を通しておくこと。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法　授業数３分の２以上の出席を前提として､授業態度および授業貢献度20%、中間試験40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Unit 7	I'm Sure He'll Understand
2	Unit 7	I'm Sure He'll Understand
3	Unit 8	I'll Remember That
4	Unit 8	I'll Remember That
5	Unit 9	Hiro Forgot
6	Unit 9	Hiro Forgot
7	Midterm Exam	中間試験
8	Unit10	How Have You Been ?
9	Unit10	How Have You Been ?
10	Unit11	While They're Here
11	Unit11	While They're Here
12	Unit12	How Was Tennis ?
13	Unit12	How Was Tennis ?
14	Unit13	What Do You Mean ?
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic　著者：Robert Hickling, Misato Usukura　出版社：金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可)。

◇指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

基礎英語Ⅱ	渡邉（ワタナベ）　きみ代（キミヨ）
Basic English II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、「総合英語Ⅰ」で学習した内容を、さらに深めることを目的としている。引き続き、英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法　遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	不定詞	名詞の働き、形容詞、副詞の働きが説明できるようになる 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる 不定詞の副詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる
2	動名詞	動名詞の基本的な働きを５つのタイプに分類できるようになる 動詞と結びつけた用法に関して、英作文ができるようになる
3	名詞と動名詞の働き	不定詞と動名詞の使い方の違いを理解する
4	分詞	現在分詞形容詞用法、過去分詞形容詞用法を用いた英作文ができるようになる
5	分詞	いろいろな問題で分詞についての理解を深める
6	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
7	中間テスト	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	受動態	受動態、能動態の形と働きを理解し、書き換え、英作文などができるようになる
9	助動詞	忠告、必要、推量、依頼を表す助動詞を理解し、それらを用いた英作文ができるようになる
10	原級比較の表現	原級比較（as 原級 as …および not　as 原級 as …）を用いた英作文ができるようになる
11	比較級比較の表現	比較級を用いた比較（比較級 than）を用いた英作文ができるようになる
12	最上級比較の表現	最上級比較を用いた英作文ができるようになる
13	接続詞	対等な関係、主従の関係でつなぐ２種類の接続詞の働きを 理解し、接続詞を用いた英作文ができるようになる
14	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic　Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか（Pearson Longman）

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく（とくに「総合英語Ⅰ」で扱った内容を復習しておくこと)。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずる。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

基礎英語Ⅱ（再履修）	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
Basic English II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。教科書は15ユニットに渡って、アメリカに留学中の日本人学生の日常生活を描いています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙力をつけるために、単語や熟語のテストを実施します。通じる英語を目指して、発音指導を行います。

使用教材は年度の始めに購入しておくようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は６割以上。	30%
各章に配されている単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声ＣＤで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法　本試験50%、語彙テスト20%、授業での発言など30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	比較級/最上級	It's Nice … And
2	接続詞	Hitomi Wants a New Look
3	動名詞/不定詞	Shopping for Clothes
4	疑問詞	I'm Meeting a Friend
5	助動詞	Date Night
6	受動態	It's Party Time
7	中間試験	試験と解説
8	関係代名詞	レポートの提出
9	関係代名詞	演習問題
10	仮定法	宝くじが当たったらなあ
11	仮定法	演習問題
12	音読	未定。１回目の講義時に指示する
13		
14	総まとめ	演習と解説
15	本試験	試験(60分)と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH Aid

Robert Hickling / Misato Usukura 著　金星堂

【副教材】

◇ A Shorter Course in English Grammar Check

Seishi Sato 著　南雲堂

【履修条件等】

◇基礎英語は選択必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を持参すること（電子辞書可)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示されたホームワークをやってくること。

【その他の注意事項】

◇入学時に配布された iPad を使うことがあります。

◇使用教材を必ず準備してください。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

日本語Ⅰ（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Language I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%

評価の方法　授業参加度30%、課題40%、本試験30%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	基本的な文章作法(1)	文章の基本(1)
3	基本的な文章作法(2)	文章の基本(2)
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』
くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。
課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

日本語Ⅰ（留学生科目）	コバヤシ　ヒロノリ 小林　寛典
Japanese Language I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%
評価の方法　授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	基本的な文章作法(1)	文章の基本(1)
3	基本的な文章作法(2)	文章の基本(2)
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』
くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。
課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

日本語Ⅰ（留学生科目）	塩谷（シオタニ）　由美子（ユミコ）
Japanese Language I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、考えたことを論理的構成で文章にまとめる方法など、レポート作成にも役立つ基礎知識を身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
考えたことを論理的に文章にまとめる方法を身につける	課題に対して、さまざまな角度から思考し、データを使って根拠を示しながら考えを論理的にまとめることができるかどうかを評価する。	40%

評価の方法　授業参加度30%、課題40%、本試験30%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	基本的な文章作法(1)	文章の基本(1)
3	基本的な文章作法(2)	文章の基本(2)
4	文体	文体と表現レベル
5	文章	文章構成
6	段落	段落構成
7	意見文	意見文と事実文の区別
8	意見文	意見文の構成と練習
9	説明文	説明文の構成
10	説明文	説明文の練習
11	論理的文章	論理的文章構成
12	論理的文章	データ活用と根拠の提示
13	論理的文章	論理的文章作文
14	まとめ	復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』
くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。
課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数や既習レベルなどを勘案して変更することがある。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

英語Ⅰ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
English Reading & Writing（Basics）Ⅰ	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。ライティングは、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて１つのパラグラフを書き上げることができるようになります。

また、音読にも時間をかけて、正確に読む練習をする予定です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフライティングによって評価。パラグラフライティングは、A（優）／ B（良）／C（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
評価の方法　発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	READING［Brasilia］	Vocabulary ／内容理解問題/音読練習
3	READING	英問英答／日本語訳／音読練習
4	WRITING	Adjective（形容詞）パラグラフライティング
5	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
6	READING［Tiger Woods］	Vocabulary ／内容理解問題/音読練習
7	READING	英問英答／日本語訳／音読練習
8	WRITING	Writing about time
9	READING［Sleep］	Vocabulary ／内容理解問題／音読練習
10	READING	英問英答／日本語訳／音読練習
11	WRITING	Using when ／ Writing about sleep habits
12	READING	題材は未定 Vocabulary ／内容理解問題／音読練習
13	READING	英問英答／日本語訳／音読練習
14	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together

著者：Milanda Broukal　編著：関口智子　出版社：松柏社

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を読み、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で読解力をみるため簡単なテストを行います。

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

英語Ⅱ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
English Reading & Writing（Basics） II	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、300語前後の題材を、なるべく日本語を介さず読み進める練習をします。わからない単語は文脈からの推測を試みます。それでも意味がわからない場合は、必ず辞書で確認することが大切です。iPad の辞書機能を授業で活用することもあります。

ライティングは、文構造、基本的文法事項を理解し、理解を定着させるための練習問題をくり返します。各章の最後では文をつなげて１つのパラグラフを書き上げることができるようになります。

また、指定テキストとは別にプリント教材を使うことがあります。

本講義は「英語Ｉ」の続きです。使用教材は年度の始めに購入するようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
300語程度の読み物の主旨、大意を把握できる	授業での発言、提出物、本試験によって評価。わからない単語は文脈から推測できるか。提出物の場合、辞書で調べて正確に理解しているかどうか。	30%
本文でとり上げられたトピックについて意見交換をする	ペア、グループ、またはクラスでの発言によって評価。発言は英語と日本語が混在していても可。発言内容を評価する。	20%
文の語順、品詞、時間表現などについて理解している	教科書の練習問題、パラグラフライティング、本試験によって評価。パラグラフライティングは、Ａ（優）／Ｂ（良）／Ｃ（可）で評価。	30%
外国人が聞いても理解できる発音で英文が読める	自分の発音を録音し、聞き取りにくいと思われる音を確認できる。確認できた音の修正をして音読練習を繰り返す。	20%
評価の方法　発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業概要説明、読解力確認テスト
2	READING[Iceland]	Vocabulary ／内容理解問題／音読練習
3	READING[Iceland]	英問英答／日本語訳／音読練習
4	WRITING	Comparing things（比較）パラグラフライティング
5	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
6	READING[Amy Van Dyken]	Vocabulary ／内容理解問題／音読練習
7	READING Amy Van Dyken]	英問英答／日本語訳／音読練習
8	WRITING	Telling about someone's life
9	パソコン(WORD)を使って清書	パソコンルームでパラグラフライティングの原稿を清書し、プリントアウトして提出する
10	READING[Laughter]	Vocabulary ／内容理解問題／音読練習
11	READING[Laughter]	英問英答／日本語訳／音読練習
12	WRITING	Adverbs（副詞）
13	READING	題材は未定　Vocabulary ／内容理解問題／音読練習
14	READING	英問英答／日本語訳／音読練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Weaving It Together（fourth edition）

著者：Milanda Broukal　編著：関口智子　出版社：松柏社

【履修条件等】

◇入学時に配布された iPad を授業で使います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇指示された教科書部分を一読し、大意を把握して授業に臨んでください。

【その他の注意事項】

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度の始め（４月）に購入しておくようにしてください。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

英語Ⅲ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
English Reading & Writing（Intermediate）III	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、300字程度の英文を読んで、内容の大意をつかむ練習をします。英文から１つのパラグラフに焦点を当て、英語らしく読むことを目標に、音読の練習を繰り返します。音読に慣れてきたら、次は読んだ内容を相手に伝えることに挑戦してみます。自分の言葉で内容を再現するにはどうすればよいか、学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価する。 中間試験、本試験によって評価する。	30%
300字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
なめらかに読む。相手に伝わる英語音読を習得する	意味のまとまりを意識しているか。音のつながりを意識し、子音を読むときは母音が入らないように読めるか。授業中の音読練習で評価する。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文で表現できる	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法　本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の概要説明など
2	ラナプラザ・ビルの悲劇	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	ラナプラザ・ビルの悲劇	音読練習 内容を自分の言葉で再現してみる
4	ビジネスリーダー孫正義と鈴木敏文	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	ビジネスリーダー孫正義と鈴木敏文	音読練習／リピート&ルックアップ 内容を自分の言葉で再現してみる／英作文
6	世界のフードロス	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	世界のフードロス	音読練習／内容語と機能語を意識して、強弱をつける内容を自分の言葉で再現してみる／英作文
8	中間試験	学習達成度の確認
9	The English Haiku	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	The English Haiku あるいはプリント教材	音読練習／弱い子音の読み方 英作文
11	顔認証技術とプライバシー	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	顔認証技術とプライバシー あるいはプリント教材	音読練習／つながる音の読み方 英作文
13	ウラジオストクー日本に近い都市	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	ウラジオストクー日本に近い都市	音読練習／リピート&ルックアップ 英作文
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Pleasure in Reading Aloud and Retelling
著者：Anthony P. Newell, Takane Yamaguchi　出版社：KINSEIDO

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。
◇音読に積極的に取り組めること。聞き取ってもらえる流暢な英語を話したいと思う人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。
◇授業中あるいはホームワークとして、iPad を使う予定です。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

英語Ⅳ	阿部（アベ）　牧子（マキコ）
English Reading & Writing（Intermediate）IV	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

この授業では、300字程度の英文を読んで、内容の大意をつかむ練習をします。英文から１つのパラグラフに焦点を当て、英語らしく読むことを目標に、音読の練習を繰り返します。音読に慣れてきたら、次は読んだ内容を相手に伝えることに挑戦してみます。自分の言葉で内容を再現するにはどうすればよいか、学んでいきます。

「英語Ⅳ」は「英語Ⅲ」と同じ教材を使います。使用教材は年度の始めに購入しておくようにしてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価する。 中間試験、本試験によって評価する。	30%
300字程度の英文の内容を、初見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
なめらかに読む。相手に伝わる英語音読を習得する	意味のまとまりを意識しているか。音のつながりを意識し、子音を読むときは母音が入らないように読めるか。授業中の音読練習で評価する。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文で表現できる	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法　本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業概要説明
2	音楽が精神に与える効能	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	音楽が精神に与える効能	音読練習／リピート&ルックアップ 英作文／自分の言葉で再現してみる
4	国際化とおもてなし文化	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	国際化とおもてなし文化	音読練習／数字情報をはっきりと伝える 英作文／自分の言葉で再現してみる
6	未定	問題を解きながら内容を理解する
7	未定	音読練習　　英作文
8	中間試験	学習達成度の確認
9	未定	問題を解きながら内容を理解する
10	未定	音読練習　　英作文
11	未定	問題を解きながら内容を理解する
12	未定	音読練習　　英作文
13	未定	問題を解きながら内容を理解する
14	未定	音読練習　　英作文
15	総括・達成度の確認	これまでの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Pleasure in Reading Aloud and Retelling

著者：Anthony P.　Newell,　Takane Yamaguchi　出版社：KINSEIDO

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください

◇受講生の興味関心を踏まえ、使用教材以外のプリントを教材として使うことがあります。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

TOEIC Ⅰ	宍戸（シシド） カール
TOEIC Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要とされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な 「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート１からパート３の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮)、評価する。	10%
評価の方法　本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping（grammar，auxiliaries）
4	Activity 2	Shopping（grammar，auxiliaries）
5	Activity 3	Transportation（grammar，progressives）
6	Activity 4	Transportation（grammar，progressives）
7	Activity 5	Travel（grammar，verb）
8	Activity 6	Travel（grammar，verb）
9	Activity 7	Restaurant（grammar，perfect tenses）
10	Activity 8	Restaurant（grammar，perfect tenses）
11	Activity 9	Health（grammar，tense agreement）
12	Activity10	Health（grammar，tense agreement）
13	Activity11	In the Office（grammar，tag & negative questions）
14	Activity12	In the Office（grammar，tag & negative questions）
15	Examination	本試験および解説

【使用教材】

◇ Barron's Toeic Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のＣＤが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

TOEIC Ⅱ	宍戸（シシド） カール
TOEIC II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要とされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な 「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート１からパート３の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がること	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮)、評価する。	10%
評価の方法　本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales（grammar，negations）
3	Lesson 2	Business and Sales（grammar，negations）
4	Lesson 3	Media/News（grammar，infinitives & gerunds）
5	Lesson 4	Media/News（grammar，infinitives & gerunds）
6	Lesson 5	Economy（grammar，participles）
7	Lesson 6	Economy（grammar，participles）
8	Lesson 7	Advertisements（grammar，passive voice）
9	Lesson 8	Advertisements（grammar，passive voice）
10	Lesson 9	Politics（grammar，pronouns & adverbs）
11	Lesson10	Politics（grammar，pronouns & adverbs）
12	Lesson11;	Environment（grammar，subjective mood）
13	Lesson13	Environment（grammar，subjective mood）
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験（試験問題の解説）

【使用教材】

◇ Barron's Toeic Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的にはTOEICテストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のＣＤが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

フランス語Ⅰ	野口（ノグチ）　恵子（ケイコ）
French Ⅰ	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。 ＣＤ等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法　定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	アルファベ、つづりと発音、日本語の中のフランス語
2	「私はマリーです」	つづり字記号、リエゾンとアンシェヌマン、名を名乗る
3	「お元気ですか」	挨拶、「はい」「いいえ」
4	「ありがとう」	お礼・お詫び、数字１～20
5	「コーヒー１つお願いします」	不定冠詞、名詞の性と数
6	「それはポールの本です」	定冠詞、部分冠詞
7	「音楽が好きです」	第1群規則動詞（-er）
8	「ミシェルはテレビを見ません」	否定文
9	「私は学生です」	動詞 être、職業・国籍の言い方
10	「辞書を持っています」	動詞 avoir、数字20～60
11	「黒い上着を着ています」	疑問文、形容詞の位置・語尾変化
12	「今２時半です」	時刻の言い方
13	「パリに行きます」	動詞 aller、前置詞と定冠詞の縮約①、曜日と月の名前
14	「学校に来ます」	動詞 venir、前置詞と定冠詞の縮約②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン　基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

フランス語Ⅰ	三冨（ミトミ）　祐子（ユウコ）
French Ⅰ	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。教室では、ＶＴＲ（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」と合わせて履修することで、仏検５級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションの付け方等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検５級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%

評価の方法　８割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1 2 3	＜フランスについて＞ ＜フランス語の発音＞ Leçon １＜自己紹介１＞ ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・アルファベ、綴り字の読み方 ・フランス語10単語を覚える ・主語人称代名詞と動詞 être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数１～10
4 5	Leçon ２＜自己紹介２＞ ・職業を言う ・住んでいる所を言う	・規則動詞 habiter 住む ・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・数11～20
6 7 8	Leçon ３ ＜カフェで＞ ・カフェで注文し、支払いをする ・何語を話すか言う	・飲み物、食べ物の名と冠詞 ・否定形「私は～人ではない」 ・規則動詞 parler「話す」の活用 ・数30～60　・～ユーロ
9 10	Leçon ７＜好みを言う＞ ・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～　「～がある」	・動詞 aimer 「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」 ・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
11 12	Leçon ４＜兄弟姉妹について＞ ・～を持っているか、尋ねる ・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」 ・avoir の否定形「持っていない」 ・疑問文 Est-ce que ～「～ですか？」 ・「私は～歳です」
13	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業、言語）、音楽、スポーツの好みを尋ね合う
14	Leçon １～４，Leçon ７の総復習	復習プリントを使用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他　出版社：朝日出版社
ホームページ http://cafefrancais. cocolog-nifty. com/hp/

【履修条件等】

◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

フランス語Ⅱ	野口（ノグチ）　恵子（ケイコ）
French II	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章で的確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。ＣＤ等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法　定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50% 平常点（授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	「働くつもりです」	動詞 aller の復習、近接未来
2	「食べたばかりです」	動詞 venir の復習、近接過去
3	「ペンをお持ちですか」	疑問文の作り方
4	「私の姉は優しいです」	所有形容詞
5	「私は仕事を終えます」	第２群規則動詞（-ir）、動詞 partir
6	「宿題を終わらせなさい」	命令形、数字60～
7	「なぜフランス語を勉強しているのですか」	疑問詞 quand、où、comment、pourquoi、qui、que
8	「全部でいくらですか」	動詞 faire、prendre、買い物をする
9	「何をしましたか」	直説法複合過去①（助動詞 avoir を使う動詞）
10	「映画に行きました」	直説法複合過去②（助動詞 être を使う動詞）
11	「どの季節が好きですか」	疑問形容詞 quel、動詞 préférer、vouloir、pouvoir
12	「５時にホテルに着かなくてはいけません」	動詞 devoir、電話をかける
13	「クレールはフランソワーズより背が高い」	比較級
14	「ジャンヌはクラスで一番活発な子です」	最上級、空港での会話
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇松村博史他著『クロワッサン　基礎からわかるフランス語』朝日出版社、2016年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業に積極的に参加すること。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

フランス語Ⅱ	三冨（ミトミ）　祐子（ユウコ）
French II	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

「フランス語Ｉ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ｉ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場面を広げ、基本的な表現を増やしながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ｉ」同様、ＶＴＲ教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にＶＴＲまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検５級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%

評価の方法　８割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	＜春学期の復習＞ ＜天候の表現＞ Leçon 8　Ⅱ ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」 「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか？」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 en を使って答える
4 5	Leçon10＜誘う＞ ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語　on「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞＋冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか？」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11＜一日の過ごし方＞ ・起床から就寝までの一日の主な行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」（代名動詞） 「普段は、～時に起き、～時に家を出、 ～時に帰宅します」
10 11	Leçon13＜レストランで(1)＞ ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1)助動詞 avoir「選びましたか？」
12	Leçon 13 ＜レストランで(2)＞ ・料理の感想を言う Leçon 14 ・過去について語る	・料理の感想を言う（半過去） 「美味しかったです」 ・複合過去（1）助動詞 avoir 「昨日何をしましたか？」
13	口頭試験および解説	授業中練習した会話（朝食、スポーツについて尋ね合う、誘う）をペアで行う
14	Leçon14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2) 助動詞 être 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他　出版社：朝日出版社
ホームページ http://cafefrancais.cocolog-nifty.com/hp/

【履修条件等】

◇「フランス語Ⅰ」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけること。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

中国語Ⅰ	井上（イノウエ）　良雄（ヨシオ）
Chinese I	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、１分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%

評価の方法　上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。
欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（１回につき最大５%）する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説（音節、母音、子音、声調、ピンイン）
3	発音について(2)	発音練習（数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前）
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、ｒ化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定＋否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	自己紹介(3)	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

中国語Ⅱ	井上（イノウエ）　良雄（ヨシオ）
Chinese II	発展科目／半期／１単位

【授業概要】

「中国語Ｉ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ｉ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ｉ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。 合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はさほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法　上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（１回につき最大５%）する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	「中国語Ⅰ」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験)、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語Ⅰ」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

ビジネス英語Ⅰ	宍戸（シシド） カール（カール）
Business English Basics I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいるなか、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーシを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Introduction, Class Policy	General Introduction of class
2	Unit 1 “You and You Job”	Countries, nationalities, jobs
3	Unit 1 “You and You Job”	Saying hello
4	Unit 1 “You and You Job”	Jobs and computers
5	Unit 2 “Products and Services”	Company types and activities
6	Unit 2 “Products and Services”	Ordering products
7	Unit 2 “Products and Services”	Telemarketing
8	Unit 3 “Location”	Company building and region
9	Unit 3 “Location”	Meeting people
10	Unit 3 “Location”	Office location
11	Unit 4 “Help and Advice”	Equipment
12	Unit 4 “Help and Advice”	Suggestions
13	Unit 4 “Help and Advice”	Buying help
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN：978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

ビジネス英語Ⅱ	宍戸（シシド） カール（カール）
Business English Basics II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーシを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	Summer Vacation	General Introduction of class
2	Unit 5 “Decision”	E-mail ordering
3	Unit 5 “Decision”	Quick decision
4	Unit 5 “Decision”	Difficult decision
5	Unit 6 “Socializing”	Eat in or take out
6	Unit 6 “Socializing”	Café conversation
7	Unit 6 “Socializing”	Business lunch
8	Unit 7 “Workplace”	Department and responsibilities
9	Unit 7 “Workplace”	Company visits
10	Unit 7 “Workplace”	Perfect workplace
11	Unit 8 “Colleague”	Describing people
12	Unit 8 “Colleague”	Voicemail
13	Unit 8 “Colleague”	Family business
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN：978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

日本語Ⅱ（留学生科目）	糸川（イトカワ）　優（ユウ）
Japanese Language II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	社内メール
3	ビジネス日本語の基礎	会議準備
4	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び１
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び２、お知らせ文書１
6	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書２
7	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
8	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
9	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
10	ビジネス日本語の基礎	営業１
11	ビジネス日本語の基礎	営業２、売上
12	ビジネス日本語の基礎	売上２
13	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
14	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

日本語Ⅱ（留学生科目）	小林（コバヤシ）　寛典（ヒロノリ）
Japanese Language II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	社内メール
3	ビジネス日本語の基礎	会議準備
4	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び１
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び２、お知らせ文書１
6	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書２
7	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
8	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
9	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
10	ビジネス日本語の基礎	営業１
11	ビジネス日本語の基礎	営業２、売上
12	ビジネス日本語の基礎	売上２
13	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
14	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

外国語科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

日本語Ⅱ（留学生科目）	塩谷（シオタニ）　由美子（ユミコ）
Japanese Language II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%

評価の方法　授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%

学期の３分の１を越えて欠席した場合は、単位を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業計画と評価の説明
2	ビジネス日本語の基礎	社内メール
3	ビジネス日本語の基礎	会議準備
4	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び１
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び２、お知らせ文書１
6	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書２
7	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
8	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
9	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
10	ビジネス日本語の基礎	営業１
11	ビジネス日本語の基礎	営業２、売上
12	ビジネス日本語の基礎	売上２
13	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
14	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ

【履修条件等】

◇上記の教科書を購入しておくこと。

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇毎課小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数などを勘案して変更することがある。

専　門　科　目

2019年度

経営学部イベントプロデュース学科

＜１年生・２年生・３年生用＞

東京富士大学

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

経営学	石川（イシカワ）　勝（マサル）
Business Management	入門科目／通年／４単位

【授業概要】

企業経営においては、まず「経営戦略」を立てて、企業の進むべき方向・目的の大枠を決め、分業と協業の枠組みである「経営組織」を構築します。次に経営戦略を実現するための具体的な経営計画を立案します。さらに組織内のメンバーを好ましい方向に動かしていく活動が必要であり、ヒトに加えてモノ・カネを、最も効率的に調達し使用しつつ利益を上げていく意思決定と実行、そのための「仕組みープロセスの枠組み」を作り込み、機能させることが不可欠です。経営学では、これら一連の企業活動がどのように行われているかを理解することを目的とします。この講義では、 会社とは何かという基本的な問題を理解することから始め、「人事」、「マーケティング」、「生産」、「財務」、さらに「情報」といった経営活動の基本的分野について、その機能と役割を理論とケーススタディを通じた事例の分析に基づいて理解します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
現代の企業の役割とその機能を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーと試験によって評価する。	20%
経営学の諸理論を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーと試験によって評価する。	30%
経営組織と経営機能の役割を理解する	毎回授業終了時に提出するリアクション・ペーパーと試験によって評価する。	30%
企業活動の実例から経営上の問題点を理解できるようになる	本講義の最後にケース課題を出し、それに対するレポートによって評価する。	20%
評価の方針　授業の最終評価はリアクション・ペーパー30%、試験50%、レポート20%の割合で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	授業の概要、進め方について	16	人的資源管理(1)
2	企業とはなにか？	17	人的資源管理(2)
3	株式会社の仕組み(1)	18	マーケティング(1)
4	株式会社の仕組み(2)	19	マーケティング(2)
5	経営者の機能と責任(1)	20	会計とファイナンス(1)
6	経営者の機能と責任(2)	21	会計とファイナンス(2)
7	経営学の理論（初期の管理論）	22	生産管理
8	経営学の理論（人間関係論）	23	情報管理(1)
9	経営学の理論（バーナード＝サイモン理論）	24	情報管理(2)
10	経営学の理論（コンティンジェンシー理論）	25	環境経営
11	経営戦略論(1)	26	ケース・スタディ(1)
12	経営戦略論(2)	27	ケース・スタディ(2)
13	経営組織論(1)	28	ケース・スタディ(3)
14	経営組織論(2)	29	ケース・スタディ(4)
15	前期のまとめ	30	前・後期のまとめ

【使用教材】

◇井原久光『テキスト経営学―基礎から最新の理論まで』ミネルヴァ書房、2008年

◇その他、随時資料を配布します。

【履修条件等】

◇経営学を基礎からしっかり学びたいと考えている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次回の授業で取り上げるテーマについてテキストを読んでくること。

【その他の注意事項】

◇評価は試験やレポートによって厳格に行います。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

経営学	円城寺（エンジョウジ）　敬浩（タカヒロ）
Business Management	入門科目／通年／４単位

【授業概要】

経営学にはさまざまな領域があります。例えば、管理論、組織論、戦略論、企業論、会計学や心理学などの領域があります。そのなかでも、管理論、組織論、戦略論、そして企業論は経営学の中核的な領域になります。したがって、これらの領域の基礎を学ぶことによって、経営学の基礎固めをすることができると同時に、経営学とはどのような学問なのか、あるいは経営学を学ぶ意義とは何か、を理解できるようになるでしょう。

経営学は他の学問と比べてまだ歴史は浅いですが、人類のさまざまな課題を克服するうえで重要な役割を果たしていく可能性を大いに秘めている学問です。換言すれば、経営学を学ぶことによって、皆さんが将来活躍する場は無限に拡がることでしょう。

本講義は入門科目ですので、経営学をより本格的に学ぶには、上記に挙げた領域の専門科目をさらに履修する必要があります。本講義の使命は、専門科目を学ぶための橋渡し的な役割を果たすことにあります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎知識と理論の理解	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学とは何かを理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学を学ぶ意義を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
経営学の応用可能性を理解する	試験（小テスト等含む）によって、基礎的知識と理論を理解しているかを確認する。	25%
評価の方針　本試験70%と小テスト等（出席点含む）30%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期ガイダンス	16	秋学期ガイダンス
2	経営学とは何か	17	経営戦略論①
3	管理論①	18	経営戦略論②
4	管理論②	19	経営戦略論③
5	管理論③	20	経営戦略論④
6	管理論④	21	経営戦略論⑤
7	管理論⑤	22	経営戦略論⑥
8	管理論⑥	23	組織論①
9	企業論①	24	組織論②
10	企業論②	25	組織論③
11	企業論③	26	組織論④
12	企業論④	27	組織論⑤
13	企業論⑤	28	組織論⑥
14	企業論⑥	29	まとめ
15	総括・達成度の確認	30	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇参考書：藤田誠著『経営学入門』中央経済社、2015年
風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房
2019年

◇その他は適宜指示。

【履修条件等】

◇授業中の私語やスマホ等の使用は厳禁です。その他、担当教員の指示に従わない者は本試験の受験ができなくなる可能性があるので注意してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書等、講義内容に関する領域を事前に読んでくることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

経営学	藤森（フジモリ）　大祐（ダイスケ）
Business Management	入門科目／通年／４単位

【授業概要】

初めて学ぶ者にとって、「経営学」というものは何かとっつきにくい難しいもののように感じるかもしれない。学問である以上、そこで展開される学術的な議論は難解なものもあることは事実である。しかし、経営学は私たちにとって大変身近なことを学ぶものであり、また実際に役に立つものである。さらに、経営学は経営者のための学問であるだけでなく、広く「働く人」のための学問である。この講義では、経営学というものをなるべくわかりやすく学んでいくとともに、経営学に興味を持つきっかけとなることを第一の目標 に据えて進めていく予定である。この講義が、履修する皆さんにとって、その後の経営学のより専門的な分野の扉を、楽しみに開くきっかけとなれば嬉しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
会社制度の仕組みを理解し、その問題点や課題を考える基礎を養う	試験およびレポートによって評価する。 ６割以上を合格とする。	20%
経営戦略やマーケティングの代表的な理論を理解し、現実の企業活動を説明する力を養う	試験およびレポートによって評価する。 ６割以上を合格とする。	40%
組織や管理の代表的な理論を理解し、専門科目を学ぶための基礎力を身につける	試験およびレポートによって評価する。 ６割以上を合格とする。	40%

評価の方法　試験50%、レポート30%、平常点20%で評価する。
平常点は講義内で書くコメントや質問、授業態度などで評価する。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営戦略①
2	経営組織①	17	経営戦略②
3	経営組織②	18	経営戦略③
4	経営組織③	19	経営戦略④
5	経営組織④	20	マーケティング①
6	経営組織⑤	21	マーケティング②
7	経営組織⑥	22	国際経営
8	モチベーション①	23	生産管理
9	モチベーション②	24	品質管理
10	モチベーション③	25	製品開発
11	リーダーシップ①	26	イノベーション①
12	リーダーシップ②	27	イノベーション②
13	リーダーシップ③	28	イノベーション③
14	春学期の復習	29	秋学期の復習
15	試験および総括	30	試験および総括

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。また、授業内で参考文献を紹介する。

【履修条件等】

◇経営学を積極的に学ぶ意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回、講義の最後に次回の内容を伝えるので、次週までにその内容についての基礎知識を得ておくこと。

【その他の注意事項】

◇経営学は自ら意欲を持って臨めば、とても刺激的なものである。しかし、それが感じられるまでにはそれなりの努力が必要である。わからないことを乗り越えて、楽しさを感じられるようになることを期待する。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

経営学	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Business Management	入門科目／通年／４単位

【授業概要】

経営学といってもその内容はさまざまです。この授業は科目名が示すように、経営学が扱うさまざまな領域の中の主なものを概略的に見ていきます。扱う領域は、それぞれ２年次以降に、半期あるいは通年の授業として設定されています。したがって、この授業では細かい部分は扱わず中心的な部分だけを見ていくことになります。

授業は、講義と質問を交互に行います。経営学のさまざまな理論や学説を中心に講義をしますので、聞いているだけでは理解しにくいところがあるかもしれません。積極的に質問に応え、授業理解の助けにしてください。また、授業中わからないことがあったら、その場で積極的に質問してください。

大学に入って最初の専門科目の授業となりますので、大学における論述試験に慣れてもらうために春学期中間に「中間試験」を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営学の基礎的な内容を理解していること	設問に対する回答によって評価。基礎的な用語を理解していること。	20%
経営学の基本的なものの見方を理解していること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。	20%
経営学の代表的な理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。代表的な理論を説明できること。	20%
経営学の理論を応用する力を備えていること	設問に対する回答によって評価。授業中の質問に対する回答によって評価。理論をもとに具体的な方法を提案できること。	30%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として、試験95%、授業参加度５％ 試験は、２回の定期試験と中間試験の結果とする。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	経営学とは：経営学はいつ始まった	16	企業倫理
2	テイラーの科学的管理法	17	組織形態(1)
3	ヴェーバーの官僚制	18	組織形態(2)
4	人間関係論	19	経営管理各論(1)
5	バーナードの組織論	20	経営管理各論(2)
6	サイモンの意思決定論	21	経営管理各論(3)
7	コンティンジェンシー理論	22	経営管理各論(4)
8	中間試験とその解説	23	日本的経営
9	企業論(1)	24	組織的意思決定
10	企業論(2)	25	経営戦略論(1)
11	所有と経営の分離	26	経営戦略論(2)
12	企業結合	27	経営戦略論(3)
13	国際経営論	28	経営戦略論(4)
14	企業目的	29	組織文化
15	総括・達成度の確認	30	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：大月、高橋、山口著『経営学－理論と体系－』同文館

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できる人。

◇経営学を学ぼうという意志の強い人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の対象範囲を前もって読んでくること。

【その他の注意事項】

◇出席日数が不足すると試験を受けられなくなるので注意してください。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

経営学（留学生対象）	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Business Management	入門科目／通年／４単位

【授業概要】

留学生の初学者を対象に企業経営の基礎的理論と実践的知識の理解を深め、現代企業が直面している諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を通して企業経営の実態を把握し、有用な経営理論をわかりやすく解説します。受講生一人ひとりの疑問や質問に向き合い、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営学の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営学の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた企業経営の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた企業経営の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営学の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。企業経営の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%

評価の方法　授業回数に対して出席回数が３分の２以上の受講生に限り評価します。
成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。
授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	【重要】ガイダンス（授業概要･評価方法）	16	株式会社の統治 ①規模別の諸形態
2	経営学への招待 ①経営学はおもしろい！	17	〃 ②監査役設置会社
3	〃 ②企業の経営を考えよう	18	〃 ③指名委員会等設置会社
4	〃 ③マネジャーの仕事とは	19	〃 ④監査等委員会設置会社
5	〃 ④テイラーの科学的管理	20	企業の社会的責任 ①社会的責任の本質
6	〃 ⑤ファヨールの管理思想	21	〃 ②その内容と優先順位
7	〃 ⑥バーナードの組織理論	22	〃 ③企業の社会貢献活動
8	企業･会社の概念 ①企業・会社とは何か	23	〃 ④企業の反倫理的行動
9	〃 ②企業の諸形態	24	〃 ⑤コンプライアンス経営
10	〃 ③会社法の概要	25	企業価値創造 ①ステークホルダーと企業
11	〃 ④所有と経営の分離	26	〃 ②２つの企業価値創造経営
12	〃 ⑤合名・合資・合同会社	27	〃 ③米国型経営の教訓
13	〃 ⑥株式会社の特徴と役割	28	〃 ④企業の４つの価値創造
14	〃 ⑦企業統治の概念と目的	29	〃 ⑤企業価値創造経営の実践
15	中間試験（総括・達成度の確認）	30	期末試験（総括・達成度の確認）

【使用教材】

◇教科書：未定。

◇参考書：二神恭一編著『新版ビジネス・経営学辞典』中央経済社、2006年
そのほかの参考書は、授業中に紹介します。

【履修条件等】

◇この授業は、これから学ぶ経営学関連の科目を理解するのに必要な基礎的知識を養う目的があります。多少難しいと感じても、常に向上心を持って授業に臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語への理解が大切です。しかし、授業時間内にその都度、用語そのものの解説は行いません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第１回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

経営学（留学生対象_再履修）	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Business Management	入門科目／通年／４単位

【授業概要】

留学生の初学者を対象に企業経営の基礎的理論と実践的知識の理解を深め、現代企業が直面している諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を通して企業経営の実態を把握し、有用な経営理論をわかりやすく解説します。受講生一人ひとりの疑問や質問に向き合い、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営学の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営学の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた企業経営の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた企業経営の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営学の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。企業経営の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%

評価の方法　授業回数に対して出席回数が３分の２以上の受講生に限り評価します。
成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。
授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	【重要】ガイダンス（授業概要･評価方法）	16	株式会社の統治 ①規模別の諸形態
2	経営学への招待 ①経営学はおもしろい！	17	〃 ②監査役設置会社
3	〃 ②企業の経営を考えよう	18	〃 ③指名委員会等設置会社
4	〃 ③マネジャーの仕事とは	19	〃 ④監査等委員会設置会社
5	〃 ④テイラーの科学的管理	20	企業の社会的責任 ①社会的責任の本質
6	〃 ⑤ファヨールの管理思想	21	〃 ②その内容と優先順位
7	〃 ⑥バーナードの組織理論	22	〃 ③企業の社会貢献活動
8	企業･会社の概念 ①企業・会社とは何か	23	〃 ④企業の反倫理的行動
9	〃 ②企業の諸形態	24	〃 ⑤コンプライアンス経営
10	〃 ③会社法の概要	25	企業価値創造 ①ステークホルダーと企業
11	〃 ④所有と経営の分離	26	〃 ②２つの企業価値創造経営
12	〃 ⑤合名・合資・合同会社	27	〃 ③米国型経営の教訓
13	〃 ⑥株式会社の特徴と役割	28	〃 ④企業の４つの価値創造
14	〃 ⑦企業統治の概念と目的	29	〃 ⑤企業価値創造経営の実践
15	中間試験（総括・達成度の確認）	30	期末試験（総括・達成度の確認）

【使用教材】

◇教科書：未定。

◇参考書：二神恭一編著『新版ビジネス・経営学辞典』中央経済社、2006年
そのほかの参考書は、授業中に紹介します。

【履修条件等】

◇この授業は、これから学ぶ経営学関連の科目を理解するのに必要な基礎的知識を養う目的があります。多少難しいと感じても、常に向上心を持って授業に臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語への理解が大切です。しかし、授業時間内にその都度、用語そのものの解説は行いません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第１回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

経済学Ⅰ	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Economics Ⅰ	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？　たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？　あなたならどう答えますか？　こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生きている社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・経済学の基礎理論の習得 ・現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験70%、課題およびリアクションペーパー等の平常点30%
評価の方法　定期試験70%、課題やリアクションペーパー等の平常点30%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の３分の１以上（５回以上欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済主体と経済活動	経済とはなにか
3	消費	所得と消費の関係
4	投資	投資の理論
5	政府支出	財政の役割
6	政府の役割①	財源
7	政府の役割②	財政赤字の問題
8	決済	為替取引
9	貿易と決済	内国為替と外国為替
10	ＧＤＰ	経済成長と経済の豊かさとは
11	戦後日本経済史（前編）	戦後からバブル崩壊まで
12	戦後日本経済史（後編）	バブル崩壊後の日本経済
13	景気指標	ＤＩ、ＣＩ、日銀短観
14	物価	インフレとデフレ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

経済学Ⅰ	松田（マツダ）　岳（タカシ）
Economics Ⅰ	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、マクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マクロ経済政策の目標について理解できる	マクロ経済政策の目標を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	46%
マクロ経済と財政政策の関係を理解できる	マクロ経済と財政政策の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
マクロ経済と金融政策の関係を理解できる	マクロ経済と金融政策の関係を説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	27%
評価の方法　試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合は加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する。
2	経済学	経済学の目標を理解する
3	分業	商品は一人では作れない
4	市場	誰が価格を決めるのか
5	価格統制	政府は価格を統制できるのか
6	価格弾力性	価格に需要が敏感に反応するか鈍感に反応するか
7	労働市場	給料は誰が決めるのか
8	資本市場	なぜ利子を払うのか
9	競争と独占	競合は友、顧客は敵
10	外部性	環境問題と技術革新
11	市場経済	標準的な市場メカニズム
12	ゲーム理論	相互に依存する経済行動
13	行動経済学	経済学と心理学の邂逅
14	制度論	多様な資本主義の存在理由
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と「経済学Ⅰ」の総括を行う。

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇５回以上欠席すると評価対象外になる。

◇同時に「経済学Ⅱ」（松田岳）を履修することを強く推奨する。

◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コースパワーで配布する資料を授業前に参照し、ノートテイクしておくこと。

【その他の注意事項】

◇コースパワーで配布する資料を授業後に参照し、学修を深めること。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問はコースパワーで受け付けている。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

経済学Ⅱ	清水（シミズ）　良樹（ヨシキ）
Economics II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義ではマクロ経済学の基礎理論を学びます。マクロ経済学の問題は、公務員試験等でも出題されます。本講義を履修すれば、公務員試験対策にもなりますので、公務員志望の学生はぜひ履修してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
・マクロ経済学の基礎理論を習得 ・現代の経済問題に対する経済学的視点を養う	定期試験の結果と課題によって成績を評価する。	定期試験70%、課題やリアクションペーパー等の平常点30%

評価の方法　定期試験70%、課題やリアクションペーパー等の平常点30%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、全講義の３分の１以上（５回以上）欠席（考慮すべき理由のないもの）した場合、単位取得を認めない。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	需要と供給	需給関係の変化と価格への影響
3	グラフの読み方	財の需要、消費関数、限界消費性向、45度線分析
4	価格	商品について考える。価格が付く意外なもの
5	価格変化に対する感応性	価格弾力性、インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ
6	働くということ	賃金の本質と労働者の権利
7	国際収支	国際収支と為替相場
8	資産市場	貨幣にまつわる話
9	市場分析	日経平均株価の変動要因分析
10	ＩＳ－ＬＭ分析	金融政策の効果と財政政策の効果
11	ＩＳ－ＬＭ－ＢＰ分析	国際経済を考える経済政策の効果が変わる
12	経済危機①	景気循環における恐慌
13	経済危機②	危機対応策
14	国際経済の現在（いま）	国際経済に関する最新の話題を取り上げる
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定しない。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から経済に関する新聞記事やニュースをチェックすること。経済学の入門書に目を通しておくと良い。

【その他の注意事項】

◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

経済学Ⅱ	松田（マツダ）　岳（タカシ）
Economics II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

企業経営は経済環境から大きな影響を受けており、社会で生きる私たちにとって経済の知識を身につけることは必要不可欠である。しかし、日々起こっている経済現象は複雑な要因が絡み合っており、そのままでは理解することが難しい。そのため絡み合った「糸」を解きほぐし、できるだけ単純化して理解する必要がある。「経済学」は経済現象を究極まで単純化・抽象化した上で体系化された学問である。抽象的なキーワードは馴染みが薄く、それゆえ敬遠されがちでもある。しかし、その意味は意外にも身近で、シンプルな疑問から解き明かすことができる。本講義では学生諸君が抱きそうな「素朴な疑問」を手掛かりとして、現実の経済問題への関心を高めるとともに、マクロ経済学の基礎の習得を目指す。「今を知る」ことに意欲的な学生の姿勢を求む。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財政金融政策について理解できる	財政金融政策について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	54%
貿易問題について理解できる	貿易問題について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	23%
現代経済が抱える問題について理解できる	現代経済が抱える問題について説明できるか否かによって評価。正答率によって評語を決定する。	23%
評価の方法　試験点100%（質問等を通じて積極的に授業に参加した場合は加点あり）。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業概要、到達目標、評価基準、評価方法等を確認する。
2	財政	政府の収支が赤字な理由
3	財政政策	穴掘れば好景気になる？
4	財政赤字	赤字のツケを払うのは誰
5	お金と銀行	お金を増やすのは民間企業
6	日本銀行	中央銀行が生まれるまで
7	金融政策	物価の「番人」日本銀行
8	投資理論	時間と共に変化するお金の価値
9	自由貿易	貧困は放置すべきか否か
10	保護貿易	貿易をやめると幸せか？
11	為替相場	円高は幸福か？不幸か？
12	バブル経済	危機は国境を超える
13	人口減少	問題か否か
14	格差問題	格差っていけないこと？
15	総括・達成度の確認	達成度の確認と「経済学Ⅱ」の総括を行う。

【使用教材】

◇教科書：ガイダンス時に指示する。

◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

◇５回以上欠席すると評価対象外になる。

◇同時に「経済学Ⅰ」（松田岳）を履修することを強く推奨する。

◇授業を妨害する行為（私語、携帯電話の使用など）は一切許さない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇コースパワーで配布する資料を授業前に参照し、ノートテイクしておくこと。

【その他の注意事項】

◇コースパワーで配布する資料を授業後に参照し、学修を深めること。

◇新聞やテレビを通じて最近の経済動向に関心を持っていることが望ましい。

◇発言や質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢を持っていることが望ましい。

◇質問はコースパワーで受け付けている。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

イベント学Ⅰ	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Eventology Ⅰ	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

イベントの時代と言われて久しい現代において、イベントの入門である、定義、形態、意義、機能、役割等について理解する。その上で、イベントが持つ社会や地域や産業における存在について検証する。続いて、イベントの持つ非日常性、感性価値、体験価値等にスポットライトを当て、新たなイベントを創造するためにどうすればよいか、イベント・イノベーションへと講義を進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントとは何か、イベントに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いイベントカテゴリーを説明できる	カテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントの役割が理解できる	実際のイベント事例を通して、イベントが起こせる波及効果と果たさねばならない義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートにより評価。 イベント発想で課題に対し、ユニークで斬新なイディアが提供できる。	30%
評価の方法　毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イベント学概論Ⅰ	イベントの正体（基礎と基本）
2	〃　　Ⅱ	イベントの正体（歴史と業界）
3	イベントと地域ブランドⅠ	イベントで変わる地域のイメージ
4	〃　　Ⅱ	地域が創るコンテンツイベント
5	イベントと企業プロモーションⅠ	ヒットさせるイベントプロモーション
6	〃　　Ⅱ	イベント戦略で日本を売り込む
7	イベントと社会トレンドⅠ	ソーシャルメディアがイベントを変える
8	〃　　Ⅱ	サステナビリティでイベントが変わる
9	イベントと祭りⅠ	イベントと祭りの違いと共通点
10	〃	フェスティバルイベントと体験価値
11	イベントと美学Ⅰ	驚きと感動のイベントの公式
12	〃　　Ⅱ	心を動かすイベントの方程式
13	新時代のイベントⅠ	時代が求める新しいイベント
14	〃　　Ⅱ	イベントが変わるイノベーション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

イベント学Ⅱ	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Eventology II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

企画だけでは意味がない、イベントの実行・実現について解説する。イベントマネジメントの５大管理（全体、品質、予算、時間、安全）を、具体的にくだいて理解をさせる。イベントの一番の強みは“本番”のインパクトであるので、その実現のためのアプローチを提示する。必ず成し遂げるための計画推進の仕方、本番を失敗しないための管理手法、感動を生む演出法等、イベント制作の一連の流れの中でポイントとなるカテゴリーを抽出し、再現可能なテクニックとして提供する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントマネジメントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントマネジメントとは何か、イベントマネジメントに必要な要素について答えられる。	20%
イベントマネジメントのカテゴリーを説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベントマネジメントの各カテゴリーごとの機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントマネジメントの役割が理解できる	実際のイベント事例を通して、イベントマネジメントの具体的な施策について理解している。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベント発想で課題に対し、ユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法　毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イベント“本番学” Ⅰ	イベント集客の仕組み
2	〃 Ⅱ	イベント誘導の仕掛け
3	イベントと企画Ⅰ	イベント発想のテクニック
4	〃 Ⅱ	イベントの企画管理
5	イベントと計画Ⅰ	イベント計画推進のテクニック
6	〃 Ⅱ	イベントの計画管理
7	イベントと演出Ⅰ	インパクト演出のテクニック
8	〃 Ⅱ	イベントの品質管理
9	イベントと制作Ⅰ	イベント発注のテクニック
10	〃 Ⅱ	イベントの予算管理
11	イベントと実施運営Ⅰ	ノーミス・イベントのテクニック
12	〃 Ⅱ	イベントの安全管理
13	イベントと成功評価Ⅰ	イベント評価のテクニック
14	〃 Ⅱ	イベントの成功評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

サービス産業論Ⅰ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Service Industry Theory I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

これまでの長い間、わが国の経済社会システムは、製造業を念頭において動いてきていた。このことが起因して「サービス産業」がわが国の経済発展を担う重要な産業であるとの位置づけが曖昧になりがちであった。「サービス産業」はわが国にとって製造業と両輪となって経済を牽引している。製造業と比較すると、サービス業は多種多様な縦割りの個別産業毎に活動している。なかなか把握しにくい点がここに存在するのであるが、よく究明してみると、実はこのような処に価値を生産する機会がいっぱいある。新たなサービス機能へのニーズの高まりを捉えて欲しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「経済のサービス化」に関して理解する	レポート提出により評価する。 「サービス産業化」は、経済全般に及んでおり、農業も工業も例外なく進んでいることを説明できる。	20%
経済記事を読む能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読み、その内容を要約できる。	30%
経済記事を論評する能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読んだのちに、自らの論評を文章化し論評できる。	30%
「付加価値提案」の重要性を理解する	レポート提出により評価する。 メーカーもサービス業も「従来にないサービスや機能」を実現するために、常に付加価値提案が求められていることを説明できる。	20%
評価の方法　レポート50%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション・授業の進め方
2	サービスの概念	サービスの意味
3	サービス産業	サービス産業とは
4	サービス産業の現状(1)	伝統的なサービス業
5	サービス産業の現状(2)	新たなサービス業
6	サービス産業の分類(1)	日本標準産業分類におけるサービス業(1)
7	サービス産業の分類(2)	日本標準産業分類におけるサービス業(2)
8	サービス産業の分類(3)	日本標準産業分類におけるサービス業(3)
9	サービスの構造	サービス商品と付随サービス
10	サービスに対する評価	サービスの品質と満足
11	サービスの生産	サービスの生産と品質
12	サービス・エンカウンター	顧客と従業員の相互作用
13	サービス・プロフィット・チェーン	従業員満足による顧客満足
14	ケーススタディ	新たなサービス業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇プリントの配布。

◇参考書：日野隆生編著『サービス・マーケティングー理論と実践―』五絃舎、2018年

【履修条件等】

◇日常的にサービス業について関心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇サービス業界の動向についてニュースなどで知ること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

サービス産業論Ⅱ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Service Industry Theory II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

これまでの長い間、わが国の経済社会システムは、製造業を念頭において動いてきていた。このことが起因して「サービス産業」がわが国の経済発展を担う重要な産業であるとの位置づけが曖昧になりがちであった。「サービス産業」はわが国にとって製造業と両輪となって経済を牽引している。製造業と比較すると、サービス業は多種多様な縦割りの個別産業毎に活動している。なかなか把握しにくい点がここに存在するのであるが、よく究明してみると、実はこのような処に価値を生産する機会がいっぱいある。新たなサービス機能へのニーズの高まりを捉えて欲しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「経済のサービス化」に関して理解する	レポート提出により評価する。 「サービス産業化」は、経済全般に及んでおり、農業も工業も例外なく進んでいることを説明できる。	20%
経済記事（ニュース）を読む能力	レポート提出により評価する。 経済記事（ニュース）を読み、その内容を要約できる。	30%
経済記事（ニュース）を論評する能力	レポート提出により評価する。 経済記事（ニュース）を読んだのちに、自らの論評を文章化し論評できる。	30%
「付加価値提案」の重要性を理解する	レポート提出により評価する。 メーカーもサービス業も「従来にないサービスや機能」を実現するために、常に付加価値提案が求められていることを説明できる。	20%
評価の方法　レポート50%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション・授業の進め方
2	産業構造分析	日本標準産業分類の構造
3	サービス業のケーススタディ(1)	情報通信業
4	サービス業のケーススタディ(2)	運輸業、郵便業
5	サービス業のケーススタディ(3)	金融業、保険業
6	サービス業のケーススタディ(4)	不動産業、物品賃貸業
7	サービス業のケーススタディ(5)	学術研究、専門・技術サービス業
8	サービス業のケーススタディ(6)	宿泊業、飲食サービス業
9	サービス業のケーススタディ(7)	生活関連サービス業、娯楽業
10	サービス業のケーススタディ(8)	教育・学習支援業
11	サービス業のケーススタディ(9)	医療・福祉サービス
12	サービス業のケーススタディ(10)	複合サービス事業
13	イベント産業	サービス産業とイベント産業の展開
14	サービス産業の新展開	新しいサービス産業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇資料提示・プリントの配布。

◇参考書：日野隆生編著『サービス・マーケティングー理論と実践―』五絃舎、2018年

【履修条件等】

◇日常的にサービス業について関心を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇サービス業界の動向についてニュースなどで知ること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

イベントプロデュース論Ⅰ	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Theory of Event Production Ⅰ	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

「プロデュース」とは、思いついた SEED（種）を具体的に世に出し、社会化するまでの一連の行為であり、これから社会で活躍する人材を育てる上での重要なキーワードです。

とくにイベントは、臨時に組織を組んで行われる特別な行事・催事が多いことから、イベントプロデューサーにはさまざまな資質と能力が要求され、多様な機能と役割が求められます。これまで暗黙知として取り扱われてきたプロデュース行為をプロセスや要素をもとに再現可能なテクノロジーとして形式知化し、新たな人材育成プログラムとして適応させます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントプロデュースに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 プロデュースとは何か、プロデューサーに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いプロデュースカテゴリーについて説明できる	設問に対する回答によって評価。 カテゴリーごとに成立する機能と役割について基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	設問に対する回答によって評価。 実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法　授業態度30%、レポート30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	イベントにおけるプロデュースとは
2	プロデューステクノロジー	プロデューステクノロジーの構造
3	サプライズ①	驚き発想
4	サプライズ②	感動発想
5	ビジネスモデル①	プロフィットモデル
6	ビジネスモデル②	プロフィットモデル
7	プロジェクトマネジメント	プロジェクトの管理とは
8	プロジェクトマネジメント	プロジェクトの管理法
9	リスクマネジメント①	イベントにおけるリスク管理法
10	リスクマネジメント②	イベントにおけるリスク管理法
11	ファン①	ファンの構造と仕掛け
12	ファン②	ファンの構造と仕掛け
13	ブーム①	ブームの構造と仕掛け
14	ブーム②	ブームの構造と仕掛け
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、必要に応じテキスト、資料を配布します。

【履修条件等】

◇「イベント学Ⅰ」、「イベント学Ⅱ」を履修している方が望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

イベントプロデュース論Ⅱ	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Theory of Event Production II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

イベントのプロデュース機能とは「そのイベントの目指すべき全体像を構築し、さまざまな要素や条件の調整を行いながら、種々の制約の中で最も効果を高めるよう、それらをひとつのシステムとして組み上げていく機能」です。イベントもひとつのプロジェクトであり、経済活動です。目的と目標を掲げ、予算を組み立て、適材適所に人材を配置し臨時の組織を統率し、総責任者としてプロジェクトを遂行させるプロデュースという業務について学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントプロデュースに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 プロデュースとは何か、プロデューサーに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いプロデュースカテゴリーについて説明できる	設問に対する回答によって評価。 カテゴリーごとに成立する機能と役割について基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	設問に対する回答によって評価。 実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法　授業態度30%、レポート30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション①	人を動かすプロデュース
2	イントロダクション②	人を動かすプロデュー
3	参加型イベント①	参加型イベントのプロデュース
4	参加型イベント②	参加活性化イベントのプロデュース
5	地域型イベント①	地域活性化イベントのプロデュース
6	地域型イベント②	地域活性化イベントのプロデュース
7	イベントショップ①	イベントショップのプロデュース
8	イベントショップ②	イベントショップのプロデュース
9	イベントセールス①	イベント型売り場のプロデュース
10	イベントセールス②	イベント型売り場のプロデュース
11	学び型イベント①	講座・セミナーのプロデュース
12	学び型イベント②	講座・セミナーのプロデュース
13	行列イベント①	行列のプロデュース
14	行列イベント②	行列のプロデュース
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、必要に応じテキスト、資料を配布します。

【履修条件等】

◇「イベント学Ⅰ」、「イベント学Ⅱ」および「イベントプロデュース論Ⅰ」を履修している方が望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅰ	北井（キタイ）　不二男（フジオ）
Elementary Bookkeeping Ⅰ	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法　小テストあるいは課題20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の８要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	６桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅰ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Elementary Bookkeeping Ⅰ	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。
レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、１～２回程度課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の８要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	６桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	演習
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅰ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Elementary Bookkeeping Ⅰ	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、今日では必須のビジネススキルの１つとなっている。本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、財務諸表作成までの簿記一巡の手続きの理解から出発し、その後は基本的な商的取引に関する会計処理を一通り習熟する事を最たる目的としている。さらに、仕訳を行う過程には、社会人基礎力に求められる批判的思考を育成する手続きが含まれている。仕訳の手続きを、グループワークなどを通して、グループメンバーと協力しながら解を導出する訓練を行う。単に、簿記に関する知識や技能を習得するだけでなく、今後の大学における学習を行う上での必要な学習方法や問題解決能力を育んで頂ければ幸いである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、帳簿を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、商品有高帳などの帳簿に関する手続きを理解していること。	10%
評価の方法	中間テスト30%、本試験70%にて絶対評価を行う。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の８要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	中間テスト	今までの講義内容の確認
8	商品売買取引(1)	仕入・売上、返品取引、掛取引
9	商品売買取引(2)	前払・前受取引、諸係に関する取引
10	商品売買取引(3)	売上原価と商品有高帳
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	試算表(1)	試算表の意義、試算表の種類、作成手続き
14	試算表(2)	合計残高試算表の作成演習
15	本試験および解説	

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた課題演習はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅰ	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Elementary Bookkeeping Ⅰ	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得することを目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法　中間試験30%、本試験70%、および授業への貢献度を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法等についての説明
2	簿記の基礎概念(1)	簿記の意義と目的、簿記の前提、貸借対照表の意味と構造、損益計算書の意味と構造
3	簿記の基礎概念(2)	貸借対照表および損益計算書の作成、財産法と損益法
4	取引と仕訳	簿記一巡の手続き、会計の取引、勘定科目と勘定口座、取引の８要素
5	仕訳と転記(1)	要素分解と仕訳、勘定口座と転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	中間試験および解説	
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	精算表の種類、６桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、決算振替仕訳、繰越試算表
11	現金および現金過不足	現金の範囲、現金過不足勘定と過不足の処理
12	銀行預金等	預金の種類、当座借越とその処理
13	商品売買	分記法と三分法、掛取引、人名勘定
14	総復習	問題演習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『レクチャー初級簿記』中央経済社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【そのたの注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅰ	ムラカミ　ショウイチ 村上　翔一
Elementary Bookkeeping I	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を習得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の８要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の意味、手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、６桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味、伝票の集計手続きを理解していること。	10%
評価の方法　中間テスト30%、本試験70%で判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素（資産・負債・純資産）
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素（収益・費用）、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の８要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
7	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
8	決算(2)	６桁精算表の作成
9	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
10	簿記一巡の確認	中間テスト
11	現金(1)	現金の範囲、現金過不足
12	現金(2)	小口現金の処理、現金出納帳・小口現金出納帳の作成
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票、伝票の集計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：使用しない。毎授業、資料を配布する。

【履修条件等】

◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇連続性のある内容であるため復習をしっかりし、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅱ	北井（キタイ）　不二男（フジオ）
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、１．教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、２．その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
８桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、８桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として出席10%、試験70%、課題ないし小テスト20%で評価する。

課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に１～２回程度課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	８桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅱ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、１．教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、２．その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
８桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、８桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。

課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、１～２回程度課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	８桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅱ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、今日では必須のビジネススキルの１つとなっている。本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、財務諸表作成までの簿記一巡の手続きの理解から出発し、その後は基本的な商的取引に関する会計処理を一通り習熟する事を最たる目的としている。さらに、仕訳を行う過程には、社会人基礎力に求められる批判的思考を育成する手続きが含まれている。仕訳の手続きを、グループワークなどを通して、グループメンバーと協力しながら解を導出する訓練を行う。単に、簿記に関する知識や技能を習得するだけでなく、今後の大学における学習を行う上での必要な学習方法や問題解決能力を育んで頂ければ幸いである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
８桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、８桁精算表を作成することができる。	45%
検定範囲改定に伴う追加された取引に関する理解	設問に対する回答によって評価。 電子記録債権債務などに関する取引を適切に仕訳出来ること。	25%
評価の方法　中間テスト30%、本試験70%にて絶対評価を行う。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買取引の復習	前期学習した商品売買取引の復習
3	債権債務(1)	手形取引・掛取引
4	債権債務(2)	金銭貸借取引・利息の計算
5	債権債務(3)	未収金・未払金・仮払金・仮受金・立替金・預り金
6	固定資産	固定資産の購入から除却・売却まで
7	追加論点	差入保証金、電子記録債権債務、クレジット売掛金
8	中間テスト前の振り返り	中間テストまでの各論を復習
9	中間テスト	
10	資本・税金	資本金、引当金、税金取引
11	決算(1)	決算手続きの一連の流れ、決算整理仕訳1
12	決算(2)	決算整理仕訳2
13	決算(3)	精算表の作成、振替処理
14	前期・後期総まとめ	前後期の振り返り
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

◇教科書：開講時に指示する。

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅱ	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は原則として、「入門簿記Ｉ」を履修済みの者、あるいは高等学校在学時に既に簿記の学習を経験済みの者を対象としており、ほぼ日商簿記検定３級の範囲の商業簿記を取り扱う。具体的には商品売買、売掛金と買掛金、手形、有価証券、その他の債権・債務、固定資産、資本（純資産）などの個別論点と、収益・費用の見越・繰延を含む期末の決算整理手続、および８桁精算表の作成と財務諸表の作成である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。	20%
日々の取引を仕訳できるようにする	設問に対する回答によって評価。個別論点について取引の内容を仕訳で示すことができること。	50%
決算整理事項を理解し、財務諸表を作成できるようにする	設問に対する回答によって評価。決算整理事項の内容を理解し、費用および収益の見越しや繰延べを含んだ決算整理手続ができ、８桁精算表および財務諸表を作成できること。	30%
評価の方法　中間試験30%、本試験70%、授業への貢献度を総合的に判断。「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法などの説明、「入門簿記Ｉ」の復習
2	各種補助簿	売掛金元帳・買掛金元帳、得意先元帳・仕入先元帳、商品有高帳、小口現金出納帳
3	手形	約束手形とは、処理、割引、裏書譲渡、手形による借入／貸付
4	有価証券	有価証券とは、株式の取得と売却、公社債の取得と売却
5	有形固定資産	有形固定資産の意義、取得と売却、減価償却
6	その他債権・債務(1)	債権・債務とは、借入金と貸付金、未収入金と未払金、仮払金と仮受金
7	その他債権・債務(2)	前払金と前受金、立替金と預り金、演習
8	中間試験および解説	
9	伝票会計	三伝票制、企業の仕方、仕訳日計表
10	決算(1)	試算表の作成、売掛金明細表、買掛金明細表
11	決算(2)	決算整理（売上原価の算定、貸倒引当金）
12	決算(3)	決算整理（収益と費用の見越し・繰延べ）
13	決算(4)	決算整理（資本金と引出金）、精算表の作成
14	決算(5)	財務諸表の作成と総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：『レクチャー初級簿記』中央経済社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ｉ」をすでに履修済みか同程度の知識を有することを履修の条件とする。

◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習は特に要求しないが、復習をしっかりし、自習課題をこなすこと。自らが実際に手を動かさないことには始まらないので、とにかく習ったことはすぐに復習し、確実に身につけるよう努力してほしい。

【そのたの注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

入門簿記Ⅱ	村上（ムラカミ）　翔一（ショウイチ）
Elementary Bookkeeping II	基礎科目／半期／２単位

【授業概要】

簿記は、一般にビジネスの言語であるといわれています。本講義は、将来、経済社会で活躍する諸君たちにとって必要不可欠な基礎知識であるビジネス言語としての複式簿記の処理手続きの基礎を、体系的知識として習得することを目的とします。

本講義では、複式・商業簿記の基礎となる個人企業の会計処理を中心とした複式簿記一巡の処理を習得します。なお、講義は毎時間、１．教科書により複式簿記の処理手続を観察したうえで、２．その確認・理解のために記帳練習を行う、という順序で進めて行きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
８桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、８桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として試験70%、課題ないし小テスト30%で評価する。

課題ないし小テストは、各テーマの理解の確認のため、授業中に１～２回程度課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳	約束手形の記帳
8	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
9	有価証券	有価証券の取得・売却の記帳
10	収益・費用の繰延	収益・費用の繰り延べ処理
11	収益・費用の見越	収益・費用の見越し処理
12	資本金・引出金・税金	引出金ならびに個人企業の税金の処理
13	８桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇教科書：使用しない。毎授業、資料を配布する。

【履修条件等】

◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成されます。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要があります。また、この講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと

【その他の注意事項】

◇電卓が必要です（12桁。辞書・通信機能なし。音が出るモノも不可)。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

マーケティングⅠ	花尾（ハナオ）　由香里（ユカリ）
Marketing Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営な活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、マーケティングに関する用語を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング･コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	４Ｐ概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、ＳＷＯＴ分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略１	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	競争優位戦略２	業界の競争戦略分析、競争の基本戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

マーケティングⅠ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Marketing Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の１つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法　授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングとは	マーケティング・コンセプトの変遷
3	マーケティングの意義	マーケティングの必要性と手法
4	製品戦略①	マーケティング論における製品の概念
5	製品戦略②	製品ミックス戦略、新製品開発
6	ブランド戦略	ブランドの価値と構築
7	価格戦略	価格決定方法・価格戦略
8	チャネル戦略	流通チャネルの概念と類型
9	販売促進戦略①	プロモーションの概念
10	販売促進戦略②	プロモーションの手段
11	インターネット社会のコミュニケーション	インターネット社会におけるマーケティング
12	リテール・マーケティング	小売業のマーケティング
13	リレーションシップ・マーケティング	関係性マーケティング
14	リージョナル・マーケティング	地域のマーケティング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇『マーケティングの理論・新展開』五絃舎、2019年

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

マーケティングⅠ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Marketing Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、様々な視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	４Ｐの概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	市場環境の分析（1）	企業のミクロ環境、ＳＷＯＴ分析について
6	市場環境の分析（2）	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
7	消費者行動（1）	消費者の意思決定プロセスについて
8	消費者行動（2）	意思決定に影響する要因について
9	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
10	製品戦略（1）	製品のとらえ方について
11	製品戦略（2）	サービスや組織のマーケティングについて
12	事例研究	製品戦略の事例について
13	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
14	ブランドマネジメント	ブランド・エクイティとブランド・アイデンティティについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第２版　実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

マーケティングⅡ	花尾（ハナオ） 由香里（ユカリ）
Marketing II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの流れについても解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略について
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の種類
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント１	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント２	ブランド名戦略、ブランド拡張戦略
7	価格戦略１	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略２	製品ミックス、心理面を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進とＰＲ活動	販売促進の目的設定と手段、ＰＲ戦略
14	ソーシャルマーケティング 関係性マーケティング	非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティング、顧客との関係作りの戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけないこと。

◇「マーケティングⅠ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

マーケティングⅡ	日野（ヒノ）　隆生（タカオ）
Marketing II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能の一つであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、伝統的なマーケティング論をもとに、サービス業を中心としたマーケティングの理論と具体的なケースをとりあげる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
サービス・マーケティングの基本的用語を理解する	授業内の小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、サービス・マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
サービス・マーケティングの特質を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容のケースから、サービス・マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるサービス・マーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 サービス・マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法　授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	サービスの特性	サービスの概念・サービス業とは
3	サービスの構造	サービス・マーケティング論の特性
4	サービスの生産	サービス生産とモノ製品の違い
5	サービス・エンカウンター	サービス・エンカウンターとは何か
6	サービス・プロフィット・チェーン	従業員満足と顧客満足の関係
7	サービス・ブランド	ロイヤルティとリレーションシップ
8	サービス・ドミナント・ロジック	価値共創のマーケティング
9	スポーツ・マーケティング	スポーツをマーケティング論の視点から考える
10	観光マーケティング	観光をマーケティング論の視点から考える
11	医療サービス	医療におけるサービスとマーケティング
12	介護サービス	介護サービスのマーケティング
13	テーマパーク	テーマパークのマーケティング
14	宿泊施設	ホテル、旅館、ゲストハウスのマーケティング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テスト

【使用教材】

◇日野隆生編著『サービス・マーケティング―理論と実践―』五絃舎、2018年

【履修条件等】

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

マーケティングⅡ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Marketing II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

ケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャネルの構造、流通に関連する組織、チャネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、ＰＲ、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、ＰＲの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル(1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル(2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究(1)	流通の事例について
6	広告戦略(1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略(2)	広告の表現について
8	販売促進とＰＲ	プロモーションの種類とＰＲ活動について
9	事例研究(1)	広告の事例について
10	人的販売とリレーショマーケティングンシップ	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究(3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング(1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング(2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『現代マーケティング論』第２版　実教出版

【履修条件等】

◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

会計学Ⅰ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Accounting Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

企業活動に直接関係していない学生にとっては、理論としての会計学が実感としてはなじみの薄い学問となっている。このような会計学が“本来は”受講生に身近な領域であることを本講義を通じて感じてもらうことを最大の目標としたい。春学期は、まず、会計へのイメージづくりを眼目とし、会計の考え方（理論）を中心に、講義を進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション１	会計の意義
2	帳簿の記録について	認識、測定、記録の一連の会計プロセス
3	簿記と会計	唇歯輔車の関係にある会計と簿記
4	企業活動の把握	企業活動の２つの側面
5	会計の歴史と思考	発生主義と現金主義
6	企業会計の基準１	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その１
7	企業会計の基準２	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その２
8	企業会計の基準３	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その３
9	企業会計の基準４	一般に公正妥当と認められた企業会計の基準・その４
10	貸借対照表の検討１	財政状態の意義の再考
11	貸借対照表の検討２	事業用資産と金融資産
12	貸借対照表の検討３	負債と資本１
13	貸借対照表の検討４	負債と資本２
14	損益計算書の再検討	３つの企業活動を中心として
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

会計学Ⅰ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Accounting Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

「会計学Ⅰ」および「会計学Ⅱ」を通じて、経営学科の諸科目を学習するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。「会計学Ⅰ」では、会計情報の分析手法および財務諸表の作成方法の概要の学習を通じて、財務諸表の種類や現行の会計基準の特徴などを学ぶ。

そのため本講義では、配賦プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きができること	設問に対する回答によって評価。 取引の仕訳・転記から貸借対照表・損益計算書の作成までのプロセスを理解していること。	20%
財務会計に関する法制度や基準等を理解していること	設問に対する回答によって評価。 会社法や金融商品取引法に基づく会計のはたらきや、制度上開示が求められる書類に関する基本的な用語や様式を理解していること	30%
損益計算・資産評価などわが国の会計基準の特徴を理解していること	設問に対する回答によって評価。 収益費用の認識・測定基準や資産評価基準など日本の現行会計の特徴を理解していること。	30%
財務諸表分析の手法を理解し、目的に応じた分析を行えること	設問に対する回答によって評価。 収益性や安全性など各指標の意味および計算方法、判断基準を理解し、数値の意味を適切に読み取ることができること。	20%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。
レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため複数回課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要、成績評価の説明、会計の意味
2	会計の種類	財務会計の位置づけ
3	制度会計	財務会計への法規制、会計基準等、財務会計の機能
4	複式簿記の基本原理(1)	仕訳と転記のルール
5	複式簿記の基本原理(2)	貸借対照表と損益計算書の作成
6	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式、流動比率・自己資本比率など
7	棚卸資産の会計	商品の取得原価、製品の製造原価
8	金融資産の会計	金融資産の種類、取得原価、期末評価
9	有形固定資産の会計	有形固定資産の取得原価、減価償却
10	無形固定資産と繰延資産	無形固定資産の取得原価と償却、繰延資産の種類と資産性
11	損益計算書の読み方	損益計算書ならびに包括利益計算書の様式、資本利益率、売上高利益率、資本回転率など
12	期間損益計算の基本原則(1)	発生主義会計
13	期間損益計算の基本原則(2)	実現主義、費用収益対応の原則
14	財務会計の目的とルール	投資意思決定に役立つ会計と利害調整に役立つ会計
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

会計学Ⅰ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Accounting Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、会計学の基礎となる考え方やルールおよびその手法を学習します。春学期では会計学の学問体系を、ゲームを活用したアクティブラーニングを主軸にして学んでもらいます。その中でも、財務会計領域の学習を進めていきます。本講義を通して、財務諸表を読めるようになったり、分析をすることができるようになることの基礎を学んでいただければ幸いです。春学期の講義を通して、会計学に対して興味関心を持って頂けるよう講義していこうと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務諸表を見てその会社の特徴を大まかに理解できるようになる	設問に対する回答により評価します。 財務諸表の構造を理解することと、財務諸表のなかでお金がどの様に動くかを理解すること。	30%
財務諸表を作成するために必要なルールを理解する	設問に対する回答により評価します。 財務諸表は外部の利害関係者に一般に公開するものなので、共通のルールの下に作成されます。そのルールの理解が必要です。	30%
日本特有の利益計算や資産評価などに関するルールを理解する	設問に対する回答により評価します。 各国で財務諸表を作成するためのルールに異なりがあります。本講義では日本のルールを理解することで後の講義で各国との違いが分かるようになります。	30%
財務諸表上の数値を使い分析ができる基礎を作る	設問に対する回答により評価します。 財務諸表の分析をするとその企業の特徴などが見えるようになります。基本的に割り算をするとある特徴が見えるので、どの数値を使うとどういう特徴が見えるかを理解することが必要になります。	10%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。

課題および小テストは、テーマごとに行うので２～３回の実施を予定しております。

貢献点は、経営シミュレーションゲームを行った講義後および、講義のいずれかの段階でに講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	会計学全体の概説、本講義の進め方、評価方法などに関しての説明
2	経営シミュレーション１	ゲーム上で生じる金額を自分のルールで記録する
3	経営シミュレーション２	ゲーム上で生じる金額を複式簿記のルールで記録する
4	財務諸表の読み方基礎編	財務諸表を四分割することで大まかな企業の特徴を捉えることができるようになる
5	財務諸表を作成するためのルール１	財務諸表を作成するためのさまざまな原則を学習していく
6	財務諸表を作成するためのルール２	貸借対照表を作成するうえでおおまかなルールを学習する
7	財務諸表を作成するためのルール３	損益計算書を作成するうえでおおまかなルールを学習する
8	貸借対照表に関する特別なルール１	棚卸資産・金融資産・有形固定資産・無形固定資産と繰延資産に関して１
9	貸借対照表に関する特別なルール２	棚卸資産・金融資産・有形固定資産・無形固定資産と繰延資産に関して２
10	損益計算書に関する特別なルール１	収益・費用認識について１
11	損益計算書に関する特別なルール２	収益・費用認識について２
12	財務諸表を分析する１	財務諸表の分析に関する講義
13	財務諸表を分析する２	財務諸表の分析を、演習を通して行う
14	春学期講義内容まとめ	期末テスト前に春学期で学習した内容を総括して復習を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。
◇本講義では電卓を使用する場合があるので、適宜ご持参ください。
◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【その他の注意事項】

◇講義中に詳しく説明します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

会計学Ⅰ	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Accounting Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表監査等の各分野に関する基礎概念について取り扱う。具体的には、まず会計学の基礎となる複式簿記の基本ルールを学習し、会計の意義や種類、機能、役割をはじめ、会計手続きのルール、財務情報の読み方などについて学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	40%
複式簿記の基本ルールを正しく理解し、簿記一巡の手続きと財務諸表の関係を理解する	設問に対する回答によって評価。仕訳のルール、損益計算書や貸借対照表の意義および中身を理解し、説明ができること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	40%

評価の方法　確認テスト（小テスト）30%、本試験70%。「出席点」は設定しない。
ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法など
2	会計の意義と役割(1)	会計とは何か、会計の種類、財務会計のシステム
3	会計の意義と役割(2)	企業会計と法規制、貸借対照表と損益計算書
4	複式簿記の基礎原理と決算	簿記一巡の手続き、簿記上の取引、仕訳のルール
5	決算書の体系	試算表、様々な財務書類
6	発生主義会計と会計処理	引当金、減価償却、費用・収益の見越し・繰延べ
7	連結決算	連結決算とは、連結の範囲、連結財務諸表の作成
8	確認テスト（小テスト）	学習達成度の確認テストおよび解説
9	税務会計(1)	税金の種類、益金と損金、課税所得計算
10	税務会計(2)	消費税、連結納税
11	内部統制	内部統制とは、コーポレートガバナンス、内部監査
12	財務諸表監査	監査制度、会計監査人と独立性、監査報告書
13	国際財務報告基準(1)	ＩＦＲＳとは、ＩＦＲＳの特徴
14	国際財務報告基準(2)	ＩＦＲＳ導入の影響、復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：岩谷誠治『会計の基本』日本実業出版社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇本講義は「会計学Ⅰ」と「会計学Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

会計学Ⅱ	石塚（イシヅカ）　一彌（カズヤ）
Accounting II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

会計学が企業の活動を会計というフィルターを通して、認識、測定、記録および伝達する過程を対象とするものである以上、会計学の研究は、会計数値を基軸として企業活動を検証することにある。

秋学期は、春学期に培った会計の思考が、企業会計の数値の把握と計算にどのようにつながっているのかを検討する。講義では、受講生自らが、実際に問題を解き、計算することで、会計に対する知識を確実なものとすることを目標に置く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的前提に関する知識の修得の有無	会計を勉強する上で必須の会計に関する知識を修得していることを、小テストの実施により確認する。	30%
税務会計に関する基礎的な知識の修得の確認	会計に関する基礎的な理解の程度について、予行試験の実施により確認する。	30%
税務会計に関する理解の深度の確認	会計の意義、必要性、現状における問題点の程度把握とその解決のため素養を修得しているか否かの確認につき、本試験の実施により確認する。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、出席点30%、試験70%として評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	計算問題１	簿記の基本１（会計用語の確認１）
2	計算問題２	簿記の基本２（会計用語の確認２）
3	計算問題３	簿記の基本３（会計用語の確認３）
4	計算問題４	簿記の基本４（２つの計算の側面について１）
5	計算問題５	簿記の基本５（２つの計算の側面について２）
6	小括（理解度チェックテスト１）	簿記一巡のまとめ
7	計算問題６	簿記の応用１（総合問題１）
8	計算問題７	簿記の応用２（総合問題２）
9	計算問題８	簿記の応用３（総合問題３）
10	計算問題９	簿記の応用４（総合問題４）
11	計算問題10	費用配分１（棚卸資産）
12	計算問題11	費用配分２（減価償却）
13	計算問題12	引当金
14	計算問題13	発生主義と現金主義の典型問題（経過項目）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回レジュメを配付し、それに従って講義を行う。

【履修条件等】

◇春学期「会計学Ｉ」を履修済みか、会計学に対しての基本的な理解があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇「履修の心構え」として、復習中心の勉強が望まれる。

【その他の注意事項】

◇毎回テーマの違うレジュメを受講者本人にのみ配付するので、毎回出席することが重要である。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

会計学Ⅱ	土井（ドイ）　充（ミツル）
Accounting II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

「会計学Ⅰ」および「会計学Ⅱ」を通じて、経営学科の諸科目を学習するための基礎となる、財務会計および管理会計などに関する入門的な領域を取り上げる。「会計学Ⅱ」では、「会計学Ⅰ」に引き続き財務会計の個別テーマならびに管理会計や税務会計などの会計学の諸領域を学ぶ。

そのため本講義では、配賦プリントを用いながら各テーマを説明し、必要に応じて、適宜ケースを用いながら理解を深めて行く。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
財務会計の諸テーマに関する基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 キャッシュ・フロー計算書や連結財務諸表の作成・分析方法、ならびにその他諸領域（国際会計や中小企業会計、環境会計、監査、公会計など）の基礎概念を理解していること。	30%
管理会計の基本概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上高、変動費、固定費、限界利益の相互関係に基づく損益分岐点分析、および計画、実行、比較検討、改善策というマネジメントサイクルを支える予算管理等を理解していること。	30%
税務会計の基本原理を理解していること	設問に対する回答によって評価。 税務会計の基本用語、ならびに課税所得の計算方法を理解していること。	20%
現行会計の概要を体系的に理解していること	設問に対する回答によって評価。 財務会計・管理会計・税務会計など会計の種類と当該分野における基本原理を理解するとともに、個々の会計の関係性を理解していること。	20%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提として試験70%、レポートないし小テスト30%で評価する。
レポートないし小テストは、各テーマの理解の確認のため複数回課す。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義概要、成績評価の説明、「会計Ｉ」の復習
2	キャッシュ・フロー計算書(1)	キャッシュ・フロー計算書の作成方法
3	キャッシュ・フロー計算書(2)	キャッシュ・フロー計算書の読み方
4	連結財務諸表(1)	連結財務諸表の作成方法
5	連結財務諸表(2)	セグメント情報、連結株主資本等変動計算書
6	国際会計基準(ＩＦＲＳ) (1)	国際的な会計基準の必要性
7	国際会計基準(ＩＦＲＳ) (2)	ＩＦＲＳの概要とわが国への影響
8	中小企業の会計	中小指針と中小要領
9	監査	監査の必要性と方法
10	税務会計(1)	税務会計と財務会計
11	税務会計(2)	課税所得計算の仕組み
12	管理会計(1)	管理会計と財務会計
13	管理会計(2)	損益分岐点分析、短期意思決定、原価計算、原価差異
14	その他の諸領域	公会計、環境会計など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：必要に応じて演習中に配付します。

【履修条件等】

◇本講義では、(1)宿題、(2)小テスト、(3)定期試験、および(4)出欠の確認を行います。
予習・復習ができ、積極的に授業に参加する学生の履修を望みます。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示をした事柄がある場合は、次の授業までに作業を進めておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

会計学Ⅱ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Accounting II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、会計学の基礎となる考え方やルールおよびその手法を学習します。秋学期は、管理会計領域の学習を中心に進めていきます。管理会計領域の基礎となる製造業における会計手続きから学び、会計情報を用いた経営管理の基礎を学んでいきます。また、将来的にも役立つ財務会計の基礎にも少し触れます。税務会計は、確定申告や青色申告などでも知っていると得をすることが多いです。秋学期の講義を通して、会計学に対して興味関心を持って頂けるよう講義していこうと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
製造業における財務諸表の作り方を理解する	設問に対する回答により評価します。 商業における財務諸表の作り方との違いを構造を理解すること。	30%
原価の構造に関する理解をする	設問に対する回答により評価します。 原価の構造に関する理解と、原価から企業内部で行われている活動を推測できるようになること。	30%
企業内部から生じる情報を使ったマネジメントに関する理解	設問に対する回答により評価します。 例えば予算と実際の原価を比べると経営活動のパフォーマンスが分かるなどを理解する。	20%
税務会計に関する理解	設問に対する回答により評価します。 財務会計と税務会計の費用・収益に対する範囲の違いを理解する。	20%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。

課題および小テストは、テーマごとに行うので２～３回の実施を予定しております。

貢献点は、経営シミュレーションゲームを行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	秋学期の概説、本講義の進め方、評価方法などに関しての説明
2	ものつくりゲーム１	ものつくりゲームを通して原価と収益の関係を学ぶ
3	ものつくりゲーム２	製造における財務諸表まで作成してみる
4	受注生産における製造原価を計算する	個別の案件に関する原価を計算できるようになる
5	大量生産における製造原価を計算する	工場内での原価を計算できるようになる
6	予算管理	原価で予算を管理する手法を学ぶ
7	予実管理を行うための原価計算	標準原価計算を用いた経営活動のパフォーマンスを学ぶ
8	アメーバ経営	細分化された企業組織をマネジメントする手法の一つ
9	ＪＩＴ(ジャストインタイム)	ＪＩＴに関して講義
10	Ｊコスト論	Ｊコストに関して講義
11	税務会計１	税務上の費用と収益の範囲を学ぶ１
12	税務会計２	税務上の費用と収益の範囲を学ぶ２
13	税務会計３	税務会計における報告書を作る
14	秋学期講義内容まとめ	期末テスト前に秋学期で学習した内容を総括して復習を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用する場合があるので、適宜ご持参ください。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくにありません。講義の復習を必ず行ってください。

【その他の注意事項】

◇講義中に詳しく説明します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

会計学Ⅱ	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Accounting II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

日頃意識することは少ないが、私たちはさまざまな企業と関わりながら生活をしている。企業は種々の商品や製品およびサービスを私たちに提供してくれる。そして企業は、自身が営む経済活動を「会計」の手続きを通して記録・測定・報告する必要がある。

では、「会計」とはいったいどんなものだろうか。

本講義は、「会計学Ⅰ」に引き続き、会計学の全般的な知識を習得するため、財務会計、管理会計、財務分析、財務諸表論の各分野に関する基礎概念について取り扱う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
簿記・会計に関する専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計の意義、会計の種類、会計に関する基礎的な用語や概念を理解し、会計の役割や機能を説明できること。	20%
会計上のルールである会計基準や、会計手続を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。会計公準や発生主義などの基礎概念、および棚卸資産の期末評価や、固定資産の減価償却、原価計算の方法など、それぞれの具体的な手続きについて、その意義および必要性を理解し説明できること。	40%
財務情報の読み方を理解し、利用できるようにする。また管理会計や監査の意義を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。財務情報を用いた分析ができるようにする。また、会計の諸分野（財務会計・管理会計・監査）について基本的な考え方を理解し、説明できること。	40%

評価の方法　確認テスト（小テスト）30%、本試験70%。「出席点」は設定しない。
ただし、全講義回数の３分の２以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方、成績評価方法、「会計学概論Ⅰ」の復習
2	企業価値(1)	経営目標と管理会計、貨幣価値、ＤＣＦ法
3	企業価値(2)	事業価値・企業価値・株主価値
4	財務分析(1)	財務分析の目的、財務分析指標、収益性分析
5	財務分析(2)	安全性分析、成長性分析、ＢＳＣなど
6	予算管理(1)	ＰＤＣＡサイクル、予算の作成、予算の体系
7	予算管理(2)	費用の配分、職能別組織と事業部制、配賦基準
8	確認テスト（小テスト）	
9	原価計算(1)	原価計算の意義、費目別計算、部門別計算、製品別計算
10	原価計算(2)	仕掛品とは、全部原価計算と部分原価計算、標準原価計算、個別原価計算と総合原価計算
11	コスト・マネジメント(1)	コストビヘイビア、固定費と変動費、損益分岐点分析
12	コスト・マネジメント(2)	直接原価計算、ＡＢＣ、ＡＢＭ
13	組織再編(1)	組織再編の意義、組織再編手法（株式譲渡と事業譲渡）
14	組織再編(2)	組織再編手法（合併と分割、株式交換と株式移転）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇教科書：岩谷誠治『会計の基本』日本実業出版社

◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

◇本講義は「会計学Ⅰ」と「会計学Ⅱ」を連続して履修することを条件とする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

企業論	エンジョウジ　タカヒロ 円城寺　敬浩
Modern Corporation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、基礎的知識等の修得を目的とする。現代企業の諸形態やその役割を、またとくに株式会社におけるその基本的な仕組みや特徴等を理解することに重点をおく。必要に応じて、ＶＴＲ等を利用することもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の意義および企業形態に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で企業の果たす役割やさまざまな企業形態の基本的な仕組みを理解しているか。	10%
株式会社の意義とその基本的な仕組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で株式会社の果たす役割や株式会社の基本的な仕組みを理解しているか（例えば会社機関など)。	30%
大企業の意義と日本企業の支配構造に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で大企業が果たす役割や、日本企業の支配構造に関して理解できているか。	30%
大企業のコーポレート・ガバナンスに関する基本枠組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。大企業のコーポレート・ガバナンスに関する仕組み等を理解しているか。	30%
評価の方法　本試験70%、出席状況（受講態度含む）30%、レポート等（＋α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	「企業論」の意義と内容等に関する紹介
2	企業の役割	現代社会における企業の意義に関する理解
3	企業の諸形態①	企業形態に関する理解
4	企業の諸形態②	３回目のつづき
5	株式会社の誕生	株式会社の意義に関する理解
6	株式会社の仕組み①	株式会社に関する基本的な仕組みの理解
7	株式会社の仕組み②	株式に関する理解
8	株式会社の仕組み③	会社機関に関する理解
9	株式会社の仕組み④	８回目のつづき
10	大企業とは何か①	現代社会における大企業の意義に関する理解
11	大企業とは何か②	大企業の支配構造に関する理解
12	大企業とは何か③	日本企業の支配構造に関する理解
13	大企業とは何か④	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解①
14	大企業とは何か⑤	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房、2019年

◇参考書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2018年
高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。
なお、２年生の受講生は毎年かなりのものが単位を落としているので、その点を留意して履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

企業論	清水（シミズ）　太陽（タイヨウ）
Modern Corporation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、複雑かつ多面的な現代企業の全体像と課題を理解し、それに関する関心と問題意識を醸成できるようになることを目標とする。具体的には、現代企業の諸形態や役割について、とくに株式会社に注目し、主に大企業の構造について学ぶ。また、いわゆる「日本的経営」や現代企業の役割に関しても、考えてみたい。必要に応じて、映像資料等も活用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
用語の理解	テストで評価する。企業社会や株式会社の実態について、専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容理解	テスト、レポートで評価する。企業社会や株式会社制度の内容とその基本的な仕組みを理解し、説明できるか。	20%
理論と制度の理解	テスト、レポートで評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度と企業制度の結びつきを理解し、説明できるか。	20%
知識の応用	テスト、レポートで評価する。本講義で学んだ知見を活かし、現代企業に関して、自分の意見を論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　テスト70%　レポート20%　受講態度10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	企業論を学ぶ意義と内容に関する説明
2	現代企業を見る視点	６つの企業観
3	「財・サービスの提供機関」としての企業	経済発展と生活の変化、大企業の実態、企業の長期戦略
4		企業の広告活動、企業の国際化、むすび
5	「株式会社」としての企業	株式会社の機能と構造、株式会社の現実
6	「大企業」としての企業	大企業とは何か、大企業の支配構造、大企業の性格と機能
7		日本の大企業の経営者、大企業のコーポレート・ガバナンス
8	「組織」としての企業	企業と官僚制、企業組織の諸形態
9		企業の組織と管理論の展開、管理の革命
10	「家」としての日本企業	日本企業と従業員、日本型株式会社制度の構造と実態
11		日本型企業結合様式の独自性、日本企業をみる視点、揺らぐ日本的経営
12	「社会的器官」としての企業	企業の社会的責任論、企業市民、日本企業の社会的貢献活動
13		近年のＣＳＲ活動とＣＳＲ指標・ＣＳＲランキング、企業統治、企業倫理
14		社会のための企業、個人・社会・自然と調和した企業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論(第４版)』有斐閣アルマ、2018年

◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較―米、英、独、仏、日の企業と経営―』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇とくにないが、「経営史」（他学科科目）を受講済みだと、講義での理解が深まるであろう。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を使って、その日やる内容を事前に読んでおくと講義での理解が深まるであろう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

経営戦略論Ⅰ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Strategic Management Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%

評価の方法　授業回数に対して出席回数が３分の２以上の受講生に限り評価します。
成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。
授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略の意義	なぜ経営戦略が必要なのか
3	経営戦略の体系①	経営戦略と戦術の役割
4	〃　②	経営理念とビジョンの役割
5	〃　③	経営戦略の３つのタイプ
6	〃　④	経営戦略の構成要素
7	製品・市場戦略①	アンゾフの成長ベクトル
8	〃　②	多角化戦略と相乗効果（シナジー）
9	〃　③	市場細分化戦略
10	〃　④	新製品開発と新市場開拓
11	競争戦略の要点①	ポーターの競争戦略と５つの競争要因
12	〃　②	競争戦略の基本モデル(1) コストリーダーシップ
13	〃　③	競争戦略の基本モデル(2) 差別化と集中化
14	〃　④	価値連鎖（バリューチェーン）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文舘出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略―論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、秋学期開講の「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第１回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

経営戦略論Ⅱ	小川（オガワ）　達也（タツヤ）
Strategic Management Ⅱ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題方針をしっかりと論述できること。	20%

評価の方法　授業回数に対して出席回数が３分の２以上の受講生に限り評価します。
成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。
授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方、本試験の結果について
2	競争優位の構築①	競争優位の源泉とコア・コンピタンス経営
3	〃　②	特許を活用した戦略展開
4	〃　③	知的財産権の役割と戦略的重要性
5	経営資源の展開①	経営戦略と経営資源の関係
6	〃　②	経営資源の蓄積と経験効果の戦略的活用
7	〃　③	ＰＰＭ（プロダクト･ポートフォリオ･マネジメント）の意義
8	〃　④	ＰＰＭの基本戦略とＧＥのビジネススクリーン
9	〃　⑤	ＰＰＭの応用展開：M&Ａ（企業の合併と買収）の意思決定
10	ドメインの意義①	ドメインの役割
11	〃　②	ドメインの物理的定義と機能的定義
12	〃　③	ドメイン・コンセンサス
13	〃　④	ドメインの再定義
14	〃　⑤	ドメインの選択と集中の重要性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文舘出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略―論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、春学期開講の「経営戦略論Ⅰ」の単位修得者を対象に進めます。「経営戦略論Ⅱ」を履修する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第１回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項の説明に加えて、春学期に実施した「経営戦略論Ⅰ」の本試験の結果を解説します。今後、学習する上で参考になる内容を取り上げますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

経営組織論Ⅰ	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Organization Theory I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、さまざまな角度からこの組織について考えていきます。

「経営組織論Ⅰ」では、社会学から見た組織論の位置づけ、組織論の歴史、組織とは何か、システムとしての組織、組織の具体的な形態について学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
組織に関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
さまざまな組織モデルの違いを理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
組織理論を応用して、具体的な方法を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具他的な方法を提案できること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度５%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	経営組織論とは	マクロ、ミクロの違い、社会学における位置づけ
2	学説(1)	科学的管理法
3	学説(2)	官僚制
4	学説(1)、(2)の問題点	ビデオによる解説
5	学説(3)	人間関係論
6	学説(4)	バーナードの組織論
7	学説(5)	サイモンの意思決定論
8	学説(6)	コンティンジェンシー理論とネオコンティンジェンシー理論
9	学説(7)	情報処理モデルと資源依存モデル
10	メタファー	メタファーとしての組織モデル
11	学説(8)	Ｊ.Ｄ.トンプソンの組織理論
12	組織構造	ライン、ファンクショナル、ライン・アンド・スタッフ
13	組織形態	職能別組織、事業部制組織、その他
14	まとめ	非合理的組織論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

経営組織論Ⅰ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Organization Theory Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「人と組織」の関係に注目し、組織における人間行動についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくにマネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「人と組織」の関係の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	経営学のはじまり	産業革命とアメリカ経営学の発展について
3	経営管理論の展開	科学的管理について
4	全社的管理論の展開	大規模組織の管理について
5	ホーソン研究	初期の集団研究について
6	バーナード組織論①	人間とは何か、協働とは何か
7	バーナード組織論②	組織とは何か、管理とは何か
8	バーナード組織論③	ケーススタディ
9	モチベーション研究①	初期のモチベーション理論について
10	モチベーション研究②	近年のモチベーション理論について
11	リーダーシップ研究①	初期のリーダーシップ理論について
12	リーダーシップ研究②	近年のリーダーシップ理論について
13	モチベーションとリーダーシップ	ケーススタディ
14	まとめ	全体総括、ポイントの整理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし。

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅱ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

経営組織論Ⅱ	ヤマグチ　ヨシアキ 山口　善昭
Organization Theory II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、人間を中心に組織をとらえていきます。

「経営組織論Ⅱ」では、個人行動、モティベーション（動機づけ)、リーダーシップ、非合理的意思決定、暗黙知などについて学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が、理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個人行動の傾向を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
動機づけに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
リーダーシップに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
各理論を応用した、具体的な施策を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具他的な方法を提案できること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度５%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	経営組織論とは	ミクロの組織論とは
2	個人行動(1)	個人行動とは、知覚
3	個人行動(2)	態度、パーソナリティー、
4	個人行動(3)	学習
5	モティベーション(1)	マレーの欲求リスト
6	モティベーション(2)	マクレランドらの達成欲求他
7	モティベーション(3)	マズローの欲求５段解説
8	モティベーション(4)	アージリスの不適合理論
9	モティベーション(5)	ハーズバーグの二要因理論
10	モティベーション(6)	ハルの動因理論と期待理論
11	モティベーション(7)	ポーター＝ローラーの期待理論とアダムスの公平理論
12	リーダーシップ(1)	特性理論と行動理論
13	リーダーシップ(2)	状況理論
14	認知的不協和	センスメーキング他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

経営組織論Ⅱ	ワタナベ　ヤスヒロ 渡辺　泰宏
Organization Theory II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義では、経営学の学問領域の中でも「システムとしての組織」に注目し、組織の構造についての基礎的知識を学ぶことによって、現代企業社会に対する個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。とくに、マネジメントと経営組織論の成立の歴史を振り返ることで、現代における「システムとしての組織」の在り方を模索する。講義は主に学説史を中心に取り上げるが、現代の企業組織の問題に照らし合わせ考えることで、理解を深められるように進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営組織の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営組織の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営組織と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営組織の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法　本試験およびレポート等を80%、受講態度および出席状況を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	経営組織の展開について
2	アメリカ経営学の潮流	経営組織論の基礎について
3	意思決定①	個人の意思決定について
4	意思決定②	組織の意思決定について
5	組織と環境①	環境適応の理論について
6	組織と環境②	取引コスト理論について
7	組織と環境③	組織間関係の資源依存モデルについて
8	組織と戦略	事業戦略と組織のライフサイクルについて
9	知の経営学	知識創造型経営について
10	組織と学習①	組織における学習過程について
11	組織と学習②	実践的学習について
12	組織と文化	組織文化論、日本的経営論
13	ポストモダンの組織論	近年の経営組織論の研究動向について
14	まとめ	全体総括、ポイントの整理
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：指定なし

◇参考書：岸田民樹・田中政光著『経営学説史』有斐閣、2009年

【履修条件等】

◇「経営組織論Ⅰ」も併せて履修することが望ましい。

◇経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと参考書や経営組織論の関連書籍によって、毎回予習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇ケーススタディにおいては積極的な発言を求める。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

広告論Ⅰ	荒井（アライ）　誠（マコト）
Principle of Advertising I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

広告によって人々の意識がいかに変容するかというメカニズムから、広告メディアの変遷や、企業のブランド戦略における広告の役割などを、実際の広告やプロモーションの分析を通し学びます。

皆さんが実際に広告を創作する機会が３回あります。広告コピーの書き方やデザイニングとともに、広告の楽しさや難しさを体験することができます。ここで培われるコミュニケーション力は、社会人となる皆さんにきっと役に立ちます。

長年広告ビジネスに携わっている広告マンならではの話も飛び出す授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告によって、人々の購買への意識がいかに変容するかを理解する	実際の広告を事例として分析し、この意識変容のメカニズムにあてはめることで確認する。	20%
多様なメディアの特徴を活かした広告展開を理解する	各メディアの実際の広告を事例として比較・分析することで、メディアごとの広告の特徴を確認する。	20%
広告づくりを通し、自らの意思をいかにして表現するか、コミュニケーション力を培う	実際の広告創作の機会を３回設け、自ら考え、手を動かすことで、表現の組み立てる上での知見・工夫を会得したことを確認する。	30%
広告制作で重要な世の中の流行に対し、日ごろから着目する意識を培う	毎回、授業で取り上げる広告・プロモーション事例や、タイムリーな世の中の動きを、どのように受け止めたか、各自よりコメントを提出してもらうことで確認する。	30%

評価の方法　毎回授業後に提出する授業のポイントへのコメントと、３回実施する広告創作への取組姿勢､最終回の学習達成度の確認テストを総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	広告論アウトライン	広告論の授業内容と広告創作のオリエンテーション
2	広告表現	広告表現における３つの力
3	広告による意識変容	「購買への意識変容メカニズム」における広告の役割
4	ブランディング①	企業にとってのブランド戦略
5	広告創作①	受講生の広告創作へのフィードバック
6	ブランディング②	企業と顧客のブランドプロミス
7	ネーミング	商品・サービスや企業のネーミングの力
8	広告と音楽	広告におけるサウンド・音楽の力
9	メディア①	広告メディアの変遷と進化
10	広告創作②	受講生の広告創作へのフィードバック
11	メディア②	テレビ局や新聞社の挑戦
12	広報・ＰＲ	広報・ＰＲの特徴と企業コミュニケーション
13	インターネット広告	ＳＮＳ時代の広告・プロモーション
14	広告創作③	受講生の広告創作へのフィードバック
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくにありません。

【履修条件等】

◇自分の考えをどのように表現したらいいか、広告に限らず、日ごろの生活の中でのどのようにコミュニケーションしたらいいか、に関心のある学生にとって、役に立つ授業となります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇皆さんの周りには多種多様な広告が溢れています。普段意識することは少ないと思いますが、自分の好きな広告、嫌いな広告に対し、何故好きなのか、どこが気に入らないのか、を考えるようにしてください。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

広告論Ⅰ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Principle of Advertising I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

広告の基礎知識から広告管理の考え方までを理解する。現代社会において、広告はなくてはならない存在となっている。広告を行う広告主の立場だけでなく、広告ビジネスに関わる媒体社や広告会社の存在、広告の受け手である消費者の立場など、幅広い視点から広告を学ぶ。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告の定義、広告の種類、広告に関わる組織に関する用語を答えられること。	25%
広告と社会がどのように結びついているかを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告主、広告会社、メディア、消費者が、どのように広告に関わっているかを答えられること。	25%
マーケティング活動と広告活動の関係を広告主の立場から理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。マーケティングにおける広告の位置づけ、広告主の展開する広告活動がどのようなプロセスを経ているのかを答えられること。	25%
広告効果測定の考え方と方法を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告効果の捉え方と測定方法について答えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	最近の広告事情	広告に関連する最新のトピックを取り上げ説明する。
3	広告の定義と種類(1)	広告の定義と種類について説明する
4	広告の定義と種類(2)	同上
5	マーケティング活動と活動広告	マーケティングにおける広告の位置づけについて説明する
6	広告に関わる組織(1)	広告会社の機能と存在意義、種類について説明する
7	広告に関わる組織(2)	媒体社の機能と存在意義、種類について説明する
8	事例研究(1)	優れた広告活動の事例を取り上げて説明する
9	広告計画(1)	広告計画における概要と基礎を説明する
10	広告計画(2)	ターゲティング、予算計画、目標設定について説明する
11	広告計画(3)	媒体計画と表現計画について説明する
12	広告効果測定(1)	広告効果測定の枠組みを説明する
13	広告効果測定(2)	広告効果測定の具体的な方法について説明する
14	事例研究(2)	広告に関連するビジネスの具体例を説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

広告論Ⅱ	広瀬（ヒロセ）　盛一（モリカズ）
Principle of Advertising II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

広告活動の具体的な側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、メディアプランニング、アカウントプランニング、グローバルコミュニティにおける広告活動、広告と規制などを取り上げる。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアプランニングの専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。メディアプランニングのプロセスとメディアごとの用語を答えられること。	25%
アカウントプランニングの背景と用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。アカウントプランニングの背景と意義、専門用語を答えられること。	25%
グローバル広告の背景を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。グローバルなマーケティングや広告活動の発達過程や専門用語を答えられること。	25%
広告の法規や規制の背景と専門用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告規制の背景と専門用語について答えられること。	25%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	メディアプランニング(1)	マスメディアを中心としたメディアプランニングについて説明する
3	メディアプランニング(2)	ＯＯＨやスポンサーシップについて説明する
4	事例研究(1)	インターネットと広告との関係について学習する
5	アカウントプランニング	アカウントプランニングの背景とプロセスを説明する
6	日本の広告表現	日本における広告表現について説明する
7	グローバルコミュニティと広告	グローバルな広告主の広告活動について説明する
8	海外の広告表現	海外における広告表現について説明する
9	広告規制(1)	広告規制の概要と意義について説明する
10	広告規制(2)	広告に関する法規制について説明する
11	広告規制(3)	広告に関する自主規制と景品表示について説明する
12	比較広告	比較広告について説明する
13	プロフェッショナルサとービスと広告	プロフェッショナルサービスにおける広告について説明する
14	医薬品と広告	医薬品における広告について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

民法Ⅰ	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Civil Law I	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、民法を扱います。民法は、ビジネスの基本中の基本です。企業に就職して、取引をするときには必ず『契約』を結びます。皆さんもそのうち、自宅を購入することになると思います、その時に住宅ローンのお世話になるかもしれません、そのような日常生活のルールを定めているのが民法なのです。またビジネスの世界は非情です。民法の知識がなければ、簡単に人にだまされ、自分のビジネスを乗っ取られてしまうこともあれば、不利な条件で仕事を引き受けることになってしまいます。この授業では、民法を戦略的に活用する方法を含めて、実践的に民法を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件・効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を正確に理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例・学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し、問題解決を導くことができる	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	民法への招待	民法の全体構造の説明
2	権利能力と行為能力	人の権利能力、行為能力について解説
3	制限行為能力	制限行為能力について解説
4	意思表示	意思表示について解説
5	錯誤、詐欺	意思表示に関する問題、特に第三者保護について解説
6	代理制度	代理制度、表見代理について解説
7	財産譲渡契約	売買契約について解説
8	お金、家を借りる	消費貸借、借地借家法について解説
9	委任契約､契約責任	委任契約および契約責任について解説
10	さまざまな契約	現代社会を支えるさまざまな契約について解説
11	弁済および時効	債務の履行および時効について解説
12	契約不履行	契約不履行の場合の責任について解説
13	不良債権回収	債権回収のための手段について解説
14	不法行為	不法行為について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、資料はすべて CoursePower で配布します。

◇参考書：法律の授業ですので、法律の条文を参照します、条文はインターネットでも参照できます（「e-Gov 法令検索」を使用してください)。ただし紙で参照したい人は、『六法』を購入する方法もあります、たとえば宇賀克也、佐伯仁志（編集）『ポケット六法平成31年度版』（有斐閣、2018年）ISBN：978-4641009196が大学生向けにはおすすめです。（六法は教科書ではありませんので購入の義務はありません)。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に指示します。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語は厳禁です、違反者は履修停止とします。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

民法Ⅱ	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Civil Law II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、民法を扱います。民法は、ビジネスの基本中の基本です。企業に就職して、取引をするときには必ず『契約』を結びます。皆さんもそのうち、自宅を購入することになると思います、その時に住宅ローンのお世話になるかもしれません、そのような日常生活のルールを定めているのが民法なのです。またビジネスの世界は非情です。民法の知識がなければ、簡単に人にだまされ、自分のビジネスを乗っ取られてしまうこともあれば、不利な条件で仕事を引き受けることになってしまいます。この授業では、民法を戦略的に活用する方法を含めて、実践的に民法を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件･効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を正確に理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例･学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し、問題解決を導くことができる	学習･到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習･到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	民法への招待	導入講義、今後の学習計画、予習方法など
2	物権総論	物件制度について解説
3	不動産物権変動	登記の仕組みについて解説
4	動産物権変動	動産の引渡、即時取得について解説
5	占有権	占有権について解説
6	所有権	所有権制度について解説
7	用益物権	地上権、永小作権、自益権、入会権などについて解説
8	担保物権総論	担保物権制度について解説
9	質権	質権について解説
10	抵当権	抵当権について解説
11	非典型担保	抵当権並びに、非典型担保について解説
12	法定担保物権	留置権、先取特権について解説
13	親族法	結婚、離婚、親権について解説
14	相続法	相続制度について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、資料はすべて CoursePower で配布します。

◇参考書：法律の授業ですので、法律の条文を参照します、条文はインターネットでも参照できます（「e-Gov 法令検索」を使用してください)。ただし紙で参照したい人は、『六法』を購入する方法もあります、たとえば宇賀克也、佐伯仁志（編集）『ポケット六法平成31年度版』（有斐閣、2018年）ISBN：978-4641009196が大学生向けにはおすすめです。（六法は教科書ではありませんので購入の義務はありません)。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に指示します。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語は厳禁です、このルールが守れない学生は履修停止とします。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

経済法	隅田（スミダ） 浩司（コウジ）
Economic Law	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、市場経済を支える経済法（競争法）の法理論と政策を取り扱います。授業では、談合やカルテルを規制する不当な取引制限、独占規制、そして合併や買収が競争に与える影響を分析する企業結合規制、そして不公正な取引方法を取り上げます。この講義を受講することによって、経営に必要な法的知識や法的思考力を習得することができます。またこの講義では、さまざまな業界を取り扱いますので、業界研究に役立つだけでなく、企業の経営戦略やマーケティング戦略についても理解を深めることができます。。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件･効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を正確に理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例･学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し、問題解決を導くことができる	学習･到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習･到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	経済法概論	経済法の基礎概念の解説
2	共同行為(1)	不当な取引制限における意思の連絡について解説
3	共同行為(2)	不当な取引制限の諸要件について解説
4	共同行為(3)	不当な取引制限の事例研究
5	事業者団体	事業者団体規制について解説
6	企業結合規制の概要	企業結合規制の概要について解説
7	単独行動規制	単独行動規制について解説
8	協調行動規制	協調行動規制について解説
9	私的独占(1)	排除行為について解説
10	私的独占(2)	排除に関する最新事例について解説
11	私的独占(3)	排除と支配行為について解説
12	不公正な取引(1)	不公正な取引方法の概要の説明
13	不公正な取引(2)	ボイコット、差別対価、不当廉売など
14	不公正な取引(3)	再販売価格維持行為、優越的地位の濫用など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、資料はすべて CoursePower で配布します。

◇参考書：法律の授業ですので、法律の条文を参照します、条文はインターネットでも参照できます（「e-Gov 法令検索」を使用してください)。ただし紙で参照したい人は、『六法』を購入する方法もあります、たとえば宇賀克也、佐伯仁志（編集）『ポケット六法平成31年度版』（有斐閣、2018年）ISBN：978-4641009196が大学生向けにはおすすめです。（六法は教科書ではありませんので購入の義務はありません)。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中、予習範囲を指示します。

【その他の注意事項】

◇私語は厳禁です、違反者は､履修停止となります。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

消費者法	隅田（スミダ）　浩司（コウジ）
Consumers Law	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、消費者法を学びます。世の中には悪徳商法や、いかがわしいビジネスにだまされて大金を巻き上げられてしまう人が沢山います。皆さんがそうならないためには、消費者法を学び、どんな悪徳商法があるのかをよく知る必要があるのです。特に景品表示法は、ビジネスをする上でも大切な法律です。なぜなら、景品表示法に違反した企業は、消費者の信頼を失うだけでなく、消費者庁又は関係省庁から行政命令や、課徴金という制裁を受け、さらに消費者団体から訴えられるからです。景品表示法違反等消費者法違反は、マスコミで報道されることもあります。ビジネスにおいて重要な消費者法を学ぶことによって、1)自分自身が、悪徳商法にだまされなくなり、2)消費者に配慮したビジネスを行うことができるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)経済や経営と法の関係の基礎を理解できる	講義中に登場する法概念の意義および要件･効果の理解度を講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
2)法的論点を正確に理解し、議論することができる	法的論点を理解し、判例･学説の議論状況を把握しているか、講義中の質疑および期末試験によって、客観的に評価する。	評価の30%
3)法的論点を含む実例に対して、法知識を応用し、問題解決を導くことができる	学習･到達目標(1)、(2)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の25%
4)実践的な応用事例に対して、講義内容を活用し解決策を導出することができる	学習･到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、当該知識を利用し、法的問題を含む難易度の高い事例式問題に対して解決策を導くことができるか、講義中の小テストおよび期末試験によって、客観的に評価する。	評価の15%
評価の方法　評価配分は、期末試験を70%、授業参加姿勢、授業態度を30%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	消費者法総論	消費者問題と消費者法の全体構造を解説
2	消費者契約法	消費者契約法について解説
3	景品表示法総論	表示規制の前提となる理論的背景の説明
4	表示規制	表示、広告の与える影響と表示規制について解説
5	優良誤認表示の理論	優良誤認表示の法構造について解説
6	優良誤認表示の事例	優良誤認表示の事例分析
7	有利誤認表示の理論	有利誤認表示の法構造について解説
8	有利誤認表示の事例	有利誤認表示の事例分析
9	表示と広告	原産地表示など表示規制について解説
10	各業界と表示	各業界特有の規制と公正競争規約について解説
11	課徴金	景品表示法における課徴金制度について解説
12	表示規制と企業	企業の表示規制対策について解説
13	景品規制総論	景品規制の理論的背景について解説
14	景品規制各論	コンプガチャなど景品規制の解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：教科書は指定しません、資料はすべて CoursePower で配布します。

◇参考書：法律の授業ですので、法律の条文を参照します、条文はインターネットでも参照できます（「e-Gov 法令検索」を使用してください)。ただし紙で参照したい人は、『六法』を購入する方法もあります、たとえば宇賀克也、佐伯仁志（編集）『ポケット六法平成31年度版』（有斐閣、2018年）ISBN：978-4641009196が大学生向けにはおすすめです。（六法は教科書ではありませんので購入の義務はありません)。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に予習の指示をします。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁です。守れない学生は、他の学生に迷惑となりますので、見つけ次第、直ちに履修停止とします。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

社会心理学Ⅰ	佐藤（サトウ）　恵美（エミ）
Social Psychology Ⅰ	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

社会心理学は人間がその場の状況や他の人々社会とのかかわりの中で、どのような影響を受けて行動するのかという視点から、実証的な研究を通して人間を研究する学問である。

本講義では、社会的な人間の行動を“社会の中の個人”と“個人と集団・組織との関わり”の観点から理解することを目的とする。「社会心理学Ⅰ」では社会の中での個人と対人関係に焦点を当て、社会の中で生活する個人のパーソナリティの認知、他者理解のための対人認知、他者のパーソナリティの認知の観点を解説し、自己や他者のパーソナリティ理解を深めることを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己とパーソナリティ	自己概念、自己評価、自尊心など自己に関するさまざまな側面から「自分とは何か？」を考える。そこから、社会の中で生活するパーソナリティの側面に目を向け、他者と関わる自己について理解する。	30%
対人認知と社会的認知	他者を認知し、性格を推測する対人認知の分野を概観する。個人の認知スタイルはその人の原因帰属によって環境の捉え方が異なることを理解する。	30%
態度と態度変容	社会行動を予測・説明するための態度の感情的成分、認知的成分、行動的成分を概観する。さらに、態度が変化するための説得的コミュニケーションの情報処理過程について理解する。	20%
対人関係とコミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーションを概観し、情報伝達の影響とその認知過程を理解する。さらにコミュニケーションとしての対人行動から生じる対人葛藤の認知、感情、動機的な側面を理解する。	20%
評価の方法　本試験50%、中間試験20%、レポート20%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	社会心理学とは	社会心理学とは
3	自己	自己の概念と形成、自己評価と自尊心
4	パーソナリティ	状況による人間行動と社会におけるパーソナリティ
5	対人認知	対人認知の特徴と暗黙の人格理論
6	帰属理論	帰属理論、対人認知と感情
7	社会的認知	ステレオタイプ、偏見と差別の認知的メカニズム
8	態度	態度とその諸属性、認知的均衡と態度変化
9	態度変化と説得	説得の受容と拒否、説得的コミュニケーション
10	攻撃と社会勢力	人間の攻撃性と社会的勢力
11	援助行動	援助行動とその規定要因
12	魅力と対人関係	対人魅力の規定因、対人関係の問題と認知の歪み
13	非言語情報	コミュニケーション手段としての非言語
14	対人葛藤と交渉	対人葛藤と認知、感情、動機
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：潮村公弘・福島治編著『社会心理学概説』北大路書房

（「社会心理学Ⅱ」と同様）。

【履修条件等】

◇「社会心理学Ⅱ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポート等、提出物は必ず提出すること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

社会心理学Ⅱ	佐藤（サトウ）　恵美（エミ）
Social Psychology II	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

社会心理学は、人間がその場の状況や他の人々社会とのかかわりの中で影響を受けてどのように行動するのかという視点から、実証的な研究を通して人間を研究する学問である。「社会心理学Ⅱ」では、“個人と集団・組織との関わり”の観点から集団行動の理解と組織での人間行動の理解を目的とする。集団の中にいる時の個人の行動として援助行動、集団意思決定と生産性、社会的勢力などを理解し、さらに組織で生じる集団構造やリーダーシップの観点から人間の行動の理解を深めることを解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
集団と集団過程	集団の構造、成員性、集団間の関係を通して集団が認知と行動に及ぼす影響力について概観する。さらに、同調、集団とパフォーマンス、集団意思決定など集団内での相互作用とその影響を理解する。	30%
組織と個人	組織に所属する個人の心理や行動傾向に焦点を当て、さらに組織の構造や環境への適応に関する焦点を概観する。そこから、組織と個人の相互作用のプロセスに着目した経営組織について理解する。	30%
情報と社会	社会的ネットワークとメディアコミュニケーションについて概観する。身近な社会的ネットワークからマスメディアが構成する情報環境、さらにソーシャルネットワークとの関連性について理解する。	20%
健康と幸福	社会での適応と不適応状態の心理・行動について概観する。不適応状態におけるストレスと行動、さらに犯罪行動と集団非行を概観し、社会的な適応とストレス対処から幸福とは何かを理解する。	20%
評価の方法　本試験50%、中間試験20%、レポート20%、平常点（授業態度など）10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の取り組み方、評価方法
2	集団とは	集団とアイデンティティ
3	集団間関係	集団成員性と集団同一視
4	集団過程	同調と服従、集団とパフォーマンス
5	集団意志決定	集団意志決定と集団の生産性
6	組織と個人(1)	仕事への動機づけ
7	組織と個人(2)	人事アセスメントと組織コミットメント
8	リーダーシップ	リーダーシップの歴史的変遷と現在の潮流
9	社会的公正	価値の相対性と手続き的公正、衡平理論
10	社会的ジレンマ	社会的ジレンマと協力行動
11	群集心理	群集心理、緊急時の集合行動、流言
12	情報と社会	情報と社会的ネットワーク、マスメディアと世論
13	非行と更正	犯罪原因論の発想、集団非行の発生過程と更正
14	健康と幸福	適応、ストレスとコーピング、ソーシャルサポート
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：潮村公弘・福島治編著『社会心理学概説』北大路書房

（「社会心理学Ⅰ」と同様)。

【履修条件等】

◇「社会心理学Ⅰ」も合わせて履修するのが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してくること。

【その他の注意事項】

◇レポート等、提出物は必ず提出すること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

リスク・マネジメント	三好（ミヨシ）　陽介（ヨウスケ）
Risk Management Theory	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネスにおいてさまざまな意思決定を行うためには、メリットとデメリットを適切に比較することが必要になります。その際、意思決定に必要な情報が揃っていることはほとんどなく、多くの場合は不十分な情報をもとに判断することになります。

この授業では「リスク」について、1)不確実な将来を、現時点で評価するための方法と、2)起きてしまっては困る事態に対して、どのように備えるか、の２つの観点から考えます。各回の授業では講義のほか演習を行い「リスク」について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)リスクの種類と重要度についての理解	講義内容を理解し、リスクの種類と重要度についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2)「現在価値」についての理解	講義内容を理解し、「現在価値」という概念についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3)リスクの予防や対策についての理解	講義内容を理解し、リスクの予防や対策についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4)リスクマネジメントを踏まえた意思決定についての理解と実践	上記、学習・教育目標の1)2)および3)をふまえ基本的な意思決定手法について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%

評価の方法　・授業への出席：最低でも75%（12回）以上出席すること。
・評価配分は、期末試験およびレポートを50%、受講態度および授業への貢献を50%とします。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	
2	模擬交渉(1)準備	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
3	模擬交渉(2)交渉	
4	リスクの見きわめ	たくさんある「リスク」のうち、どれを重視して対応するべきかを考える
5	確率についての基礎	確率と確率分布の基礎について
6	将来価値と現在価値	将来価値とリスク、現在価値についての基礎
7	演習：現在価値の算定	ベンチャー企業を、いくらで買収するか考える
8	リスクの予防とダメージコントロール	リスクへの対策として1)予防と2)ダメージコントロールの２つの視点から考える
9	メリットとデメリット	メリットとデメリットをどうみつけるか
10	メリット・デメリットと意思決定	メリットとデメリットを比較して意思決定する方法
11	リスクを低減して未来を切り拓く	リスクに適切に対策し、デメリットを低減して成功確率を上げるための考え方
12	模擬交渉(3)準備	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
13	模擬交渉(4)交渉	
14	まとめ	これまでの授業で学んだ内容を各自総括し、学習目標の達成度について自己評価し、理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに教科書は指定せず、随時参考資料を紹介します。また、オリエンテーションにて参考図書を紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業において、資料やウェブサイト等を指定し、予習課題を提示する場合があります。詳細は授業中の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

◇成績評価の前提である、最低出席率（75%）を満たすこと。

◇授業中の私語は厳禁。これを守れない者には退席を命じ、履修停止とします。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント企画・演出	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Designing & Producing Events	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

前半はイベント企画。イベントの企画には創造性が最も重要です。人々へサプライズを与えるアイデア、マンネリを打破する発想が求められます。イベント企画の基本である「６Ｗ２Ｈ」と企画の発想法について学習します。

後半はイベント演出。コンサートやファッションショー等のエンターテイメントイベント、企業や団体におけるＰＲおよびキャンペーンイベントや展示会、式典などさまざまなイベントには全て「演出」が必要です。

舞台美術、音響、照明、映像、キャスト、特殊効果、環境演出にいたるまでイベントに関わるすべてのパートを理解し、具体的な演出プランの組み立て方についてそれぞれのイベント形態ごとに検証していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントの種類とそれぞれにおける基本的な考え方を理解すること	設問に対する回答によって評価。イベントの形態ごとにその表現方法の違いを理解し、それぞれの形態ごとに適切な演出方法について答えられること。	20%
イベント企画の構成要素について理解できる	設問に対する回答によって評価。イベントの基本的な企画要素とその構造について理解し、イベント企画を立てられる	20%
イベント演出に関わるパートの役割を理解すること	設問に対する回答によって評価。イベントによって演出の構成要素が変わることを理解し、それぞれのパートの役割と効果について答えられること	30%
演出プランの作成および台本による指示方法を理解すること	設問に対する回答によって評価。具体的な演出プランの構築およびその演出要素を台本として表現できること。	30%
評価の方法　授業態度30%、成果物（台本制作など）30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	イベントの企画と演出とは
2	イベント企画①発想力	イベントアイデア発想法
3	イベント企画②骨格力	イベントの構造６Ｗ２Ｈ
4	イベント企画③分析力	イベント企画のマーケティング
5	イベント企画④目的力	イベント企画のゴール
6	イベント企画⑤構成力	イベント企画書作成
7	演出の構成要素①	美術プランと舞台美術、ブース施工
8	演出の構成要素②	音響・照明の効果と機材
9	演出の構成要素③	映像機材と映像ソフト
10	演出の構成要素④	特殊効果と各種のギミック
11	演出の構成要素⑤	環境演出、空間演出
12	演出の構成要素⑥	演出・進行スタッフとその役割
13	演出プラン	ステージイベントにおける演出プラン作成
14	台本制作	台本制作の実作業
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布します。

ＶＴＲなど。

【履修条件等】

◇「イベント学Ⅰ」、「イベント学Ⅱ」、「イベントプロデュース論Ⅰ」、「イベントプロデュース論Ⅱ」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースなど、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実施運営	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Practical Event Operation	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

イベント学は現実的な学問です。イベントの基本的な構成要素は６Ｗ２Ｈで表すことができますが、その６Ｗ２Ｈに沿っていざ実現しようとすると理想と現実のギャップに直面し、さまざまな課題が生まれなかなか難しいものです。企画通りにすべてがスムーズにいくことの方が少ないと言っても過言ではありません。

しかし、“驚きと感動”を創るには、不可能を可能にする知恵と行動力が求められます。イベント実施運営を学んで実社会で直面する課題に対応する力をつけ、プロジェクトを実現できる人材を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント関連の専門用語を正しく理解し開設できる	設問に対する回答によって評価。 イベント実施運営に関する専門用語を答えられる。	20%
イベントと社会の関係性、役割を理解し説明できる	設問に対する回答によって評価。 主催者、制作者、参加者の３者の視点からイベントの実施運営について答えられる。	20%
イベント実施運営の構成要素について答えられる	設問に対する回答によって評価。 イベント実施運営の基本的な構成要素と、その構造について答えられる。	30%
イベント実施運営の目標と目的について理解している	設問に対する回答によって評価。 運営マニュアルについて理解し、イベント実施運営が成功するためのポイントが答えられる。	30%
評価の方法　授業態度30%、レポート30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	イベントにおける実施運営の大切さ
2	６Ｗ２Ｈの考え方①	イベントの基本構造
3	６Ｗ２Ｈの考え方②	イベントの基本構造
4	企画を実現するために①	不可能を可能にするために
5	企画を実現するために②	不可能を可能にするために
6	イベント会場の選定	イベント会場の種類と考え方
7	受付の考え方	スムーズに受付業務とは
8	客席の考え方	スクール、シアター、着席、ブッフェの違いと目的
9	イベントスタッフ	イベントに関わるスタッフの種類と違い
10	キャスティング	イベントゲストの選定と交渉
11	運営計画①	運営計画の考え方
12	運営計画②	運営計画の考え方
13	運営マニュアル①	運営マニュアル制作
14	運営マニュアル②	運営マニュアル制作
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。必要に応じて資料配布する。。

【履修条件等】

◇「イベント学Ⅰ」、「イベント学Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベントキャリア	北原（キタハラ）　隆（ユタカ）
Events & Career Advancement	発展科目／半期／２単位

【授業概要】

イベントキャリア教育の基本は、学生がイベントの世界に進むための基礎固めです。

望ましい職業観を持ち、そのための知識や技術とは何かを理解できるようにします。

どのように日常生活を送ることが、将来のキャリア形成につながるか理解を求めます。

イベントには多種多様な業種の人達が、さまざまなアプローチで関わります。その基本にあるのは人間関係であり、信頼関係です。イベントの世界でキャリアを築いていくために必要なルールや常識の基本を理解するプログラムです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントを仕事にすることを理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントの仕事の内容と流れを知り、そこに関わる多くの人達の存在を知り、説明できる。	15%
イベント業界を説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベント業のカテゴリー別の職種について知り、基本的な機能と役割を答えられる。	15%
イベントプランニングに必要な発想手法を身につける	15分間プランニングに対する回答によって評価。 発想へのアプローチの多種多様さを知り、画一的な発想から脱却する。またその喜びを知る。 そしてその発想を提案できる。	40%
イベントキャリアの大切さを表現できる	レポートよって評価。 イベントキャリアを通して身につくこと、学べる価値を自分の言葉で表現できる。	30%
評価の方法　日々の課題70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	遊びが仕事で仕事が遊び	横すべりのススメ
2	ナンバーワンになる	カニをむくのが上手いやつ
3	イベント時間、現場時間	ライブの現場の話　スピード感とライブ感
4	さまざまな現場スタイル	プロデューサーとディレクターの違い
5	専門用語	プロっぽく話す
6	ボツはバツじゃない	落ちるためのプレゼンテーション
7	ライブイベントを創る	南の島でライブの現場
8	イベントのプロとは	初めて出くわす事態
9	差し入れ&お弁当	現場での食生活　受付に花・楽屋に酒
10	会社の辞め方	採る側の気持ちを考える
11	よく見る失敗	くす玉事件　ワンチャンス
12	世界観	鍵の開かない鞄を売る
13	人脈ネットワーク	仲間のものは自分のもの
14	情報の拾い方	迷子のススメ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する。

◇巻尺。

【履修条件等】

◇幅広くイベントに興味を持ち、知識を深めたいと考えていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと。

◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅰ	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Event Practice Ⅰ	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。

イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。

「イベント実習Ⅰ」は、イベントスタッフの基本的な態度、行動のあり方等を学び、「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅰ」は、「イベント実習Ⅱ」へ進む必須条件です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則２年次に４ステップの実習を行う。(「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」それぞれ２ステップ)

(2)期間全体を４区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて（「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱ）

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)「 イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇なし。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは厳禁です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅰ	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Event Practice Ⅰ	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅰ」は、イベントスタッフの基本的な態度、行動のあり方等を学び、「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅰ」は、「イベント実習Ⅱ」へ進む必須条件です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則２年次に４ステップの実習を行う。(「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」それぞれ２ステップ)

(2)期間全体を４区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて（「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱ）

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・夏季休暇・冬期休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によってはビジネススーツの着用、交通費、食費など諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅰ	志塚（シヅカ）　昌紀（マサノリ）
Event Practice Ⅰ	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは､開催規模の大小にかかわらず､「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅰ」は､イベントスタッフの基本的な態度、行動のあり方等を学び､「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅰ」は、「イベント実習Ⅱ」へ進む必須条件です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など)、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則２年次に４ステップの実習を行う。(「イベント実習Ⅰ」、「イベントⅡ」それぞれ２ステップ)

(2)期間全体を４区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて（「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱ）

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によってはビジネススーツの着用、交通費、食費など諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅱ	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Event Practice II	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは､開催規模の大小にかかわらず､「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。

イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。

「イベント実習Ⅱ」は､イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅱ」は、「イベント実習Ⅰ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など)、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則３年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照)。

(2)原則３年次の期間全体を２区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)４ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇なし。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

「イベント実習Ⅰ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅱ	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Event Practice II	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」、「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅱ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅱ」は、「イベント実習Ⅰ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則３年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照)。

(2)原則３年次の期間全体を２区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)４ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅱ	志塚（シヅカ）　昌紀（マサノリ）
Event Practice II	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは､開催規模の大小にかかわらず､「決められた時」､「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅱ」は､イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び､「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅱ」は、「イベント実習Ⅰ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など)、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則３年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照)。

(2)原則３年次の期間全体を２区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)４ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅲ	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Event Practice III	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅲ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅲ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則３年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照)。

(2)原則３年次の期間全体を２区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)４ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅲ	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Event Practice III	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅲ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅲ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則３年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照)。

(2)原則３年次の期間全体を２区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)４ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅲ	志塚（シヅカ）　昌紀（マサノリ）
Event Practice III	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。

「イベント実習Ⅲ」は､「イベント実習Ⅰ」､「イベント実習Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など)、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則２年次に４ステップの実習を行う。(「イベント実習Ⅰ」、「イベントⅡ」それぞれ２ステップ)

(2)期間全体を４区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて（「イベント実習Ⅲ」ではステップⅠ、Ⅱ）

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によってはビジネススーツの着用、交通費、食費など諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅳ	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Event Practice IV	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅳ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅳ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則３年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照)。

(2)原則３年次の期間全体を２区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)４ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅳ	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Event Practice IV	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅳ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅳ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則３年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照)。

(2)原則３年次の期間全体を２区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)４ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベント実習Ⅳ	志塚（シヅカ）　昌紀（マサノリ）
Event Practice IV	発展科目／集中／１単位

【授業概要】

イベントは､開催規模の大小にかかわらず､「決められた時」､「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅱ」は､イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び､「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅳ」は、「イベント実習Ⅰ」､「イベント実習Ⅱ」､「イベント実習Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法　実習態度（授業参加度・積極性など)、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則３年次に、前期ステップⅢ、後期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照)。

(2)原則３年次の期間全体を２区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)４ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅲ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

専門演習Ⅰ	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

専門演習での主な研究テーマは、企業が行うさまざまなプロモーションイベント、ＰＲイベントを中心としたイベントプロデュースです。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびＰＢＬ（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。

専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ(気づいたことと反省・決意)	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇適宜用意します。

【履修条件等】

◇イベント実習を履修していること。

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

専門演習Ⅰ	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：舞台イベントやテレビなどの番組を通じて映像制作を学ぶ

映像は、イベントやテレビ番組、ユーチューブ等に使われていてスタッフ体験することにより、どのようにして映像や番組がつくれるか「わかりやすく」「楽しく」することにより映像制作を理解してもらう。

演習では、映像制作の成り立ちやテレビ・ユーチューブ等の番組を通じて映像制作を学ぶ。それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と他者にとっても知恵や知識として活用できます。学んだことをもとにゼミとして１つの作品を演者として演じたり、映像制作のスタッフとして体験する。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベントとしてチームワークを発揮し、お互いに力を出しながら、イベントを成功の道に導く表現力を身につけます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他のゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さ）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	大学祭テーマ制作
7	イベント課題解決ワークショップ	22	大学祭テーマ制作
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会の準備
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会の準備
11	イベント企画リハーサル	26	ゼミ発表大会の準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	ゼミ発表大会のリハーサル
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベントでの映像企画・制作が大変重要となるため、遅刻・欠席などは、禁止です。創造性・チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人として自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

専門演習Ⅰ	志塚（シヅカ）　昌紀（マサノリ）
Specialized Seminar I	演習科目／通年／４単位

【授業概要】

研究テーマ：地域活性やまちづくりをテーマに、地域の新しいブランドや価値創造を若者向けのライブコンサート、アーティストイベントなどを通じて考察、検討していきます。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびＰＢＬ（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。

専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%

評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	後期ゼミテーマ発表
2	研究テーマガイダンス	17	イベント企画ディスカッション①
3	前期ゼミテーマ発表	18	イベント企画ディスカッション②
4	研究テーマディスカッション①	19	イベント企画ディスカッション③
5	研究テーマディスカッション②	20	イベント企画ディスカッション④
6	研究テーマディスカッション③	21	ゼミ発表大会の準備①
7	イベント制作ワークショップ①	22	ゼミ発表大会の準備②
8	イベント制作ワークショップ②	23	ゼミ発表大会の準備③
9	イベント制作ワークショップ③	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント制作ワークショップ④	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	地域イベント実践リハーサル①	26	研究成果発表準備①
12	地域イベント実践リハーサル②	27	研究成果発表準備②
13	地域イベント実践リハーサル③	28	研究成果発表
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇教科書：使用しない。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Professional Seminar Ⅰ	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

主な研究テーマは、企業が行うさまざまなプロモーションイベント、ＰＲイベントを中心としたイベントプロデュースです。

２年次より現場実習もスタートし、座学で学んだことが実体験として大切な学びの場として機能し、専門演習への入り口と位置づけられます。

プロフェッショナルセミナーでは、アクティブ・ラーニングおよび PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。

プロフェッショナル・セミナーで育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気付く。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法　演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

「プロフェッショナル・セミナーⅠ」では、研究テーマを設定した後、課題を抽出し、ワークショップを通じて課題の解決を図り、イベント企画書として成立させ、プレゼンテーションまでを行います。

主な流れは以下の通り

●研究テーマガイダンス

●研究テーマ発表

●イベント課題ディスカッション

●イベント課題解決ワークショップ

●イベント企画発表リハーサル

●イベント企画プレゼンテーション

【使用教材】

◇教科書は使用せず。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的にプロフェッショナルセミナーに取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Professional Seminar Ⅰ	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：テレビ番組制作を通じて映像の成り立ち・作り方を学ぶ。

iPad や Microsoft　Office 等のＩＣＴスキル、レポートの書き方、プレゼンの仕方を学んでもらう。映像は、イベントやテレビ番組、ユーチューブ等に使われていてスタッフ体験することにより、どのようにして映像や番組がつくれるか「わかりやすく」「楽しく」することにより映像制作を理解してもらう。

演習では、映像制作の成り立ちやテレビ・ユーチューブ等の番組を通じて映像制作を学ぶ。それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と他者にとっても知恵や知識として活用できます。学んだことをもとにゼミとして１つの作品を演者として演じたり、映像制作のスタッフとして体験する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他のゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力をみにつける。	30%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さ）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ゼミ運営ガイダンス	
2	iPad や Microsoft　Office を含むＩＣＴスキル	ＩＣＴスキル
3	iPad や Microsoft　Office を含むＩＣＴスキル	ＩＣＴスキル
4	イベント課題	ディスカッション
5	イベント課題	ディスカッション
6	イベント課題	解決ワークショップ
7	イベント課題	解決ワークショップ
8	イベント課題	解決ワークショップ
9	イベント課題	解決ワークショップ
10	イベント課題	解決ワークショップ
11	イベント企画	プレゼンテーション
12	イベント企画	プレゼンテーション
13	イベント企画	プレゼンテーション
14	イベント企画	プレゼンテーション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベントでの映像企画・制作が大変重要となるため、遅刻・欠席などは、禁止です。創造性・チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人として自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅠ	シヅカ　マサノリ 志塚　昌紀
Professional Seminar Ⅰ	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

地域活性やまちづくりをテーマに、地域の新しいブランドや価値創造を若者向けのライブコンサート、アーティストイベントなどを通じて考察、検討していきます。

２年時より現場実習もスタートし、座学で学んだことが実体験として大切な学びの場として機能し、専門演習への入り口と位置づけられます。

プロフェッショナルセミナーでは、アクティブ・ラーニングおよびＰＢＬ（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。

プロフェッショナルセミナーで育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く１人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気付く。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

「プロフェッショナルセミナーⅠ」では、研究テーマを設定した後、課題を抽出し、ワークショップを通じて課題の解決を図り、イベント企画書として成立させ、プレゼンテーションまでを行います。

主な流れは以下の通り

●研究テーマガイダンス

●研究テーマ発表

●イベント課題ディスカッション

●イベント課題解決ワークショップ

●イベント企画発表リハーサル

●イベント企画プレゼンテーション

【使用教材】

◇教科書は使用せず。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的にプロフェッショナルセミナーに取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

主な研究テーマは、企業が行うさまざまなプロモーションイベント、ＰＲイベントを中心としたイベントプロデュースです。

２年次より現場実習もスタートし、座学で学んだことが実体験として大切な学びの場として機能し、専門演習への入り口と位置づけられます。

プロフェッショナル・セミナーでは、アクティブ・ラーニングおよび PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。

プロフェッショナル・セミナーで育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気付く。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法　演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

「プロフェッショナル・セミナーⅡ」では、具体的な研究テーマを設定し、プロフェッショナルセミナーⅠで学んだ課題解決力を生かし、実際にクライアントを想定し企画立案します。

主な流れは以下の通り

●研究テーマガイダンス

●研究テーマ発表

●イベント課題ディスカッション

●イベント課題解決ワークショップ

●イベント企画発表リハーサル

●イベント企画プレゼンテーション

【使用教材】

◇教科書は使用せず。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的にプロフェッショナル・セミナーに取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

研究テーマ：テレビ番組制作を通じて映像の成り立ち・作り方を学ぶ。

映像は、イベントやテレビ番組、ユーチューブ等に使われていてスタッフ体験することにより、どのようにして映像や番組がつくれるか「わかりやすく」「楽しく」することにより映像制作を理解してもらう。

演習では、映像制作の成り立ちやテレビ・ユーチューブ等の番組を通じて映像制作を学ぶ。それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と他者にとっても知恵や知識として活用できます。学んだことをもとにゼミとして１つの作品を演者として演じたり、映像制作のスタッフとして体験する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他のゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力をみにつける。	30%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さ）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	大学祭	テーマディスカッション
2	大学祭	テーマディスカッション
3	大学祭	テーマ制作
4	大学祭	テーマ制作
5	大学祭	テーマ制作
6	大学祭	テーマ制作
7	大学祭	テーマ制作
8	大学祭	ゼミ発表大会の準備
9	大学祭	ゼミ発表大会の準備
10	大学祭	ゼミ発表大会の準備
11	大学祭	ゼミ発表大会の準備
12	秋学期イベント	ゼミ発表大会のリハーサル
13	秋学期イベント	実習レポート
14	秋学期イベント	実習レポート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベントでの映像企画・制作が大変重要となるため、遅刻・欠席などは、禁止です。創造性・チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人として自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２年生

プロフェッショナル・セミナーⅡ	シヅカ　マサノリ 志塚　昌紀
Professional Seminar II	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

地域活性やまちづくりをテーマに、地域の新しいブランドや価値創造を若者向けのライブコンサート、アーティストイベントなどを通じて考察、検討していきます。

２年時より現場実習もスタートし、座学で学んだことが実体験として大切な学びの場として機能し、専門演習への入り口と位置づけられます。

プロフェッショナルセミナーでは、アクティブ・ラーニングおよびＰＢＬ（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。

プロフェッショナルセミナーで育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気付く。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法　演習態度（出席・積極性・勤勉さなど)、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

「プロフェッショナルセミナーⅡ」では、具体的な研究テーマを設定し、プロフェッショナルセミナーⅠで学んだ課題解決力を生かし、実際にクライアントを想定し企画立案します。

主な流れは以下の通り

●研究テーマガイダンス

●研究テーマ発表

●イベント課題ディスカッション

●イベント課題解決ワークショップ

●イベント企画発表リハーサル

●イベント企画プレゼンテーション

【使用教材】

◇教科書は使用せず。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的にプロフェッショナルセミナーに取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ 地域マネージメント	石渡（イシワタ）　正人（マサト）
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

地方創生、観光立国などの政策に見られるよう、これから地域マネージメントが重要視されます。地域マネージメントは行政だけが行うものではありません。企業にとっても地域ブランド商品やサービスの開発、観光やイベントなど沢山のビジネスチャンスに溢れています。またＣＳＲが重要視される今日、企業市民として地域にどうかかわるかは大事な課題であり、地域ブランドの創出では企業のもつノウハウも含め大いに期待されています。

本講義では、事例検証を交え、地域ブランドビジネスの特性やビジネスモデルなどを学びます。さらに、後半の講義は実務 IQ の観点から、高田馬場を題材に地域デザイン（ここでいうデザインは目的をもって具体的に立案・設計することの意）についてフィールドワークを交え学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
地域社会の問題点や解決のための施策について理解できる	講義中に解説する地域社会の問題点や必要とされる施策について理解しようと努め、積極的に興味を持てるか。講義中の質疑や討論で客観的に評価。	20%
地域社会での問題点からビジネスを構築するための手法を理解する	地域ブランドビジネスの特性や、商品（サービス）の開発方法、問題点などを理解しているかを、授業中の質疑応答やテストで評価。	40%
地域社会での問題点を解決するために自分なりのビジネスプランをまとめる	地域を対象にしたビジネスプランを指定フォーマットの企画書にまとめる。地域の問題点への考察と課題解決に向けたプランを戦略的に組み立てられているかを評価ポイントとする。 実現性は問わない。	40%
評価の方法　70%以上の出席を条件に、出席評価（受講態度も含む）20%、 中間テスト40%、本試験（指定フォーマット企画書）40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	地方を取り巻く状況	人口減少社会、高齢化、産業空洞化、地域コミュニティの分断など現状の問題点を解説
2	地域活性化について 社会学的アプローチ	地域コミュニティとソーシャルキャピタル、地域の個性、差別化など
3	地域活性化について 経済学的アプローチ	地域ブランドの考え方、手法などの解説 地域商業（商店街）活性化など
4	地域ブランド開発①	地域ブランド商品、食文化、B級グランプリなど
5	地域ブランド開発②	文化・環境ブランド＝テーマ型集客施設、道の駅など
6	地域ブランド開発③	観光ブランド＝コンテンツツーリズム、インバウンド
7	地域ブランド開発④	キャラクター住民、ゆるきゃら、ご当地ヒーローなど
8	中間試験	１～７回までの学習達成度確認のための試験
9	高田馬場の地域デザインを考える①	地域デザイン（目的をもって具体的に立案・設計すること）のためのフィールドワークの手法を学ぶ
10	高田馬場の地域デザインを考える②	地域の問題点の洗い出しと文献調査
11	高田馬場の地域デザインを考える③	フィールドワーク～調査対象：高田馬場周辺の商店街や企業施設、自治体など
12	高田馬場の地域デザインを考える④	手塚キャラクター発想支援カードを使い、フィールドワークで学んだことを活かしたブレーンストーミング
13	高田馬場の地域デザインを考える⑤事例紹介	高田馬場発祥、日本で一番発行額の多い地域通貨「アトム通貨」に見るソーシャルキャピタルの醸成
14	高田馬場の地域デザインを考える⑥事例紹介	江戸伝統野菜「内藤とうがらし」再興プロジェクトとまちバルイベント「バル辛フェスタ」に見る地域ネットワーク
15	学習達成度の確認	学習達成度確認のための地域デザインをテーマにした、指定フォーマットによる企画書の作成

【使用教材】

◇教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

【履修条件等】

◇みなさんの身の回りにあることが題材になります。
そのため講義中に質問や議論を行うことがあり、能動的な出席態度で望んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業終了時に次回の授業内容を予告します。その観点から自分の住んでいる街や、大学のある高田馬場の街を眺めておくと授業の理解度が増すでしょう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ 【電通寄付講座】イベント先端戦略	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

2019ラグビーW杯、東京2020オリンピック・パラリンピック大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西など、全世界が注目するスポーツイベントが日本国内で開催されます。日本が全世界から注目され、訪日外国人も増加するなか、イベントは日本のあらゆるチカラを全世界にアピールする最高の機会になります。

スマホやネットが前提の社会になるなか、「Moment of Truth」＝イベントが本来持つ力に、注目が集まっており、その最前線で多様なイベントを企画プロデュースしている電通グループのメンバーが「イベントとは何か」「どんなイベントがあるのか」「どうつくるのか」という基礎的内容から、テクノロジーで進化している最先端事例まで、実体験に基づいたイベントの現在と未来を講義します。

講師は電通、電通ライブより、孫生京、武田淳一郎ほか５～６名がオムニバスで努めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントの本質・目的と企画戦略	設問に対する回答によって評価。イベントの本質や目的、戦略的なきかくについて理解し、それぞれの形態ごとについて答えられること。	20%
イベント実施、演出、運営とテクノロジー融合の理解	設問に対する回答によって評価。イベントの実施・運営や演出などに加え、それらを取り巻くテクノロジーについて理解すること。	20%
国、グローバル、スポーツなど大型プロジェクト型イベントの実態	設問に対する回答によって評価。国家が行う大規模プロジェクトやグローバルに行われるスポーツイベントなどの大型イベントについて理解し、その特徴について答えられること。	30%
イベント企画の実際：ワークショップ	実際にイベントの企画をワークショップ形式で立案し、その企画が目的を達成するものであるか、実際に実施が可能であるかなどを検証し有効的なプランを提案できること。	30%
評価の方法　授業態度30%、成果物（企画書作成など）30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション&イントロダクション	電通にとってのイベントとは。 「Moment of Truth」＝イベントが本来持つ力に注目が集まっている
2	イベント概論	イベントの種類と概要、時代毎の役割変遷、進化するイベント、各種法令とコンプライアンス
3	マーケティングにおけるイベント	目的・期待効果／ KPI 設定・効果測定、統合ソリューションにおけるイベントの役割と単体機能
4	イベントのつくり方	イベントを構成する要素の詳細説明 （企画、運営、演出、造作、施工、etc.）
5	イベントのトレンド	社会・経済・技術の変化に伴い生じている最新のトレンド（事例とともに紹介）
6	イベント×テクノロジー	体験装置としてのテクノロジーとマーケティング活用のための IT（事前～本番中～事後のデータ取得・分析まで）
7	ワークショップ①	TBD ／イベントを企画する、進行台本を書く、演出プランを考える
8	代表的なイベント具体事例①	TBD ／大型コンテンツ・文化イベント （国際的スポーツイベント、音楽ライブ等）
9	代表的なイベント具体事例②	TBD ／博覧会・展示会 （万博、モーターショー等）
10	代表的なイベント具体事例③	TBD ／販促イベント・ＰＲイベント （新商品発表会、商品体験型イベント等）
11	代表的なイベント具体事例④	TBD ／エリアイベント・全国横断イベント （六魂祭、シティマラソン、サンプリング等）
12	代表的なイベント具体事例⑤	TBD ／セミナーイベント・インナーイベント （事業フォーラム、周年、事業方針説明会等）
13	代表的なイベント具体事例⑥	TBD ／商業施設イベント・期間限定イベント （オープニング、ポップアップストア等）
14	ワークショップ②	TBD ／想定クライアントの競合プレゼン演習 事前オリエンを行った上で、複数チームによる競合プレゼンを行い、勝利チーム選定および講評
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】
◇各テーマごとに必要に応じて用意します。

【履修条件等】
◇2020東京大会に興味を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】
◇イベントに関する情報やニュースなど、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】
◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ IoT･AI の経営戦略への活用	オカザキ　ショウイチ 岡崎　正一
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

経営戦略を考える上で、AI を含む IoT の活用は必須事項となっている。本講義では、IoT システムを構成する技術と導入事例を基に、AI を含む IoT 技術がどのように経営に活用できるのかについて理解する。

講義は、システム事例をもとにビジネスモデルを分析、利用されている技術の理解、最新技術のトレンドなど、演習を通して経営戦略への AI および IoT の活用について理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
IoT 用語の理解	IoT システムの基礎的な仕組みと特徴を説明できるレベル。	30%
IoT システムの構成要素の理解	IoT システム全体が俯瞰でき、システムへの AI 活用の検討ができるレベル。	30%
IoT･AI のビジネスへの展開	IoT･AI をビジネス分野へ展開できるかどうかの検討ができるレベル。	40%
評価の方法　(1)毎回の出席状況およびレポートによる評価30% (2)演習問題30% (3)試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	IoT 概論	IoT･AI 等の動向、産業界の IoT･AI への取り組み状況
2	IoT の仕組み	技術トレンド、システム事例
3	IoT システム構成	標準的な IoT システム構成、データ駆動型モデル、第４次産業革命、Society5. 0
4	IoT デバイス	センサの種類と活用方法、ロボット・ドローンの現状 プロトタイピング
5	模擬試験(1)	１回～４回の模擬試験および問題の解説
6	インターネットの仕組み	インターネットの概要、サービスプロバイダーの役割
7	IoT 通信方式	IoT 通信方式の概要、無線 LAN
8	モバイル環境	モバイル通信、位置情報、ウェアラブルデバイス
9	IoT データ活用	データの活用方法と事例、代表的なデータ分析手法
10	AI でできること	機械学習／深層学習、AI 適用システム事例
11	模擬試験(2)	６回から10回の模擬試験および問題の解説
12	情報セキュリティ	IoT セキュリティ対策、システムの安全運用
13	ビジネスモデル	IoT プラットフォーム、イノベーション
14	IoT エコシステム	IoT サービスプラットフォーム、IoT システム事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：とくになし。

◇参考書：授業時に指示する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度指示する。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ 囲碁	原（ハラ）　晶子（アキコ）
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

《自己実現のためのコミュニケーション能力向上と人間力アップ講座》

この授業では、囲碁の簡単なルールを用いて、コミュニケーション能力を高めていくスキルを学びます。

囲碁は、世界中の人々が楽しんでいるゲームです。

囲碁を通してさまざまな人と関わり、互いに学び合い、視野を広げ、自己実現に向けてディスカッションをしていきます。

グループワークを中心とした、体験型授業です。

さまざまな立場のゲスト、プロの囲碁棋士を招き、受講生と共に授業に参加していただきます。

囲碁で楽しく、コミュニケーション能力向上、人間力アップを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「囲碁」を通した対人関係の構築	・受講生全員との対戦 ・受講生以外の人に、囲碁でコミュニケーションを取る実践	30%
ディスカッション・発表のスキルアップ	・テーマに即した発言や発表 ・内容 ・聞き手に伝わる話し方	30%
話を聞く姿勢	・講義・ディスカッションでの人の話を聞き理解する力	20%
レポート	・自身の感じたこと意見を記述する	20%

評価の方法　正解、不正解はありません。
一人ひとりの考えや意見を尊重しながら進めていきます。
グループワーク、ディスカッション、発表、レポート全てにおいて、積極的な参加度を重視します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	囲碁とコミュニケーション	受講生同士で囲碁対局 日本、海外での囲碁事情
2	なぜコミュニケーション囲碁なのか	講義 ディスカッション
3	ふるさと自慢	自分のふるさと自慢を発表
4	自分史	自分の過去を振り返る
5	自分マップ	自分を知る
6	夢大会　１回目	夢を語り合う
7	違いを認め合う	体験型グループワーク
8	チームビルディング	ジャンボ碁盤を作成・団体戦体験
9	囲碁大会準備	受講生が囲碁大会をプロデュース
10	囲碁大会	囲碁大会
11	ゲスト自分史	ゲストの人生体験を聞く
12	未来予想図	自分の未来を考える
13	夢大会　２回目	夢を語り合う
14	発表	テーマ発表
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：囲碁セットとテキスト　1,000円

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇必要な場合、その都度伝える。

【その他の注意事項】

◇グループワークが基本で段階を追って構成しているプログラムです。
グループメンバーに迷惑をかけないためにも、遅刻や欠席は極力しないようにお願いします。止むを得ず欠席の場合は事前連絡をしてください。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

プロフェッショナル・セミナーⅢ 合理的意思決定とヒューリスティクス	三好（ミヨシ）　陽介（ヨウスケ）
Professional Seminar III	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

ビジネスを進める際には、さまざまな場面で適切な意思決定が求められます。この授業は、企業経営の現場において適切な意思決定を行うための基礎知識の習得と理解を目的としています。

具体的には、意思決定の根幹である「判断」について、論理の側面から1)情報の収集と選別 2)リスクと現在価値 3)推定を、また心理の側面から1)合理的決定と感情 2)期待とバイアス 3)信頼、等のテーマを取り上げます。講義のほか実際のビジネスシーンをもとにしたゲーム形式の簡単な演習を行い、意思決定の実践方法を学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)合理的判断のための情報処理と推定についての理解	講義内容を理解し、合理的判断のための手法についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2)判断に対する感情の影響についての理解	講義内容を理解し、合理的判断のための手法についての基本的知識を習得したかどうか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3)評価についての実践的な理解	上記、学習・教育目標の1)および2)をふまえ、市場や社会の評価について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4)基本的な意思決定手法の取得	上記、学習・教育目標の1)2)および3)をふまえ基本的な意思決定手法について、自らの状況と関連付けて考えることができたか、講義中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
評価の方法　・授業への出席：最低でも75%（12回）以上出席すること。 ・評価配分は、期末試験およびレポートを50%、受講態度および授業への貢献を50%とします。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	
2	情報の収集と選択(1)	情報の収集とその方法
3	模擬交渉(1)：準備	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
4	模擬交渉（2)：交渉	
5	情報の収集と選択(2)	不確実な状況での情報収集
6	リスクのもとでの判断	メリットとデメリット、リスクとダメージの違い
7	演習	実ビジネスで起きがちなコンフリクトのケースについて考え自身の思考の傾向を把握する
8	合理的決定と感情(1)	先入観による認知のバイアス
9	合理的決定と感情(2)	アンカリングとフレーミング
10	価値共有と信頼(1)	価値共有とそれによる信頼の醸成
11	価値共有と信頼(2)	信頼醸成のためのコミュニケーション
12	模擬交渉(3)	役割シートをもとに受講生間で模擬交渉を行い、自らが交渉中にどのように判断したかを振り返る
13	模擬交渉(4)	
14	まとめ	これまでの授業で学んだ内容を各自総括し、学習目標の達成度について自己評価し、理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇とくに教科書は指定せず、随時参考資料を紹介します。また、オリエンテーションにて参考図書を紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業において、資料やウェブサイト等を指定し、予習課題を提示する場合があります。詳細は授業中の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

◇成績評価の前提である、最低出席率(75%)を満たすこと。

◇授業中の私語は厳禁。これを守れない者には退席を命じ、履修停止とします。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

プロフェッショナル・セミナーⅣ オリンピック・パラリンピック	大山（オオヤマ）　利栄（トシエイ）
Professional Seminar IV	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

2020年に「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。

イベントの中でも国際的なビッグイベントの一つ、物理的、経済的な規模が大きいオリンピック・パラリンピックについての理解を深めることを目的とします。

開催決定を受け首都圏を中心にインフラ整備を始め、さまざまな事業が計画され始めています。ひとつの大きなイベントが国家、国民を動かすという好事例の歴史や意義を学ぶことで、イベント管理上のメリット、デメリットを理解することを求めます。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結している本学らしく、本年度も本学教員以外にオリンピック・パラリンピックに精通する外部の有識者を特別講師として招聘し展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
オリンピックの歴史と背景について説明できる	設問に対する回答によって評価。 オリンピックの基本的な概念とその歴史について答えられる。	20%
オリンピック憲章と開催意義について説明できる	設問に対する回答によって評価。 近代オリンピックがスタートした背景とオリンピック憲章についての理解を深める。	20%
オリンピック開催のメリット、デメリットについて理解できる	設問に対する回答によって評価。 特に、2020年東京五輪についての経済効果や国としてのイメージ戦略、過去に起きた事件・事故についての事例について説明ができる。	30%
理想的なオリンピックについて自分の意見を述べることができる	レポートによって評価。 過去のオリンピックについて十分な知識を持ち、その知識を踏まえて理想的なオリンピック像についての考えをまとめられる。	30%
評価の方法　授業態度30%、レポート30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業の進め方および注意事項
2	オリ・パラ学の意義	2020年の東京オリ・パラを控え、なぜオリ・パラについて学ぶのかを解説
3	古代オリンピックの歴史と意義	古代オリンピックとは何なのかを検証する
4	リオオリンピックの実際	リオオリンピックの特性と特徴を検証する
5	リオパラリンピックの実際	リオパラリンピックの特性と特徴を検証する
6	オリンピックと経済	オリンピックの経済効果とは
7	スポーツツーリズム	インバウンドの実態と受け入れ態勢について検証
8	2020東京オリンピックの概要	コンパクト・環境・安全等を配慮した施設群の概要
9	オリ・パラとリスクネジメント	大型イベントにおける警備、保安、運営等のリスクについて
10	オリ・パラ運営の舞台裏	実際にオリ・パラの舞台裏では何が行われているのか
11	オリ・パラとメディア	メディアで変わる、メディアが変えるオリンピック
12	オリ・パラとイノベーション	2020東京大会に求められるイノベーションとは
13	オリ・パラと通信技術	通信技術がオリ・パラを支え、変えてきたことを検証する
14	ロンドンはなぜ成功したのか	2020東京が参考とするロンドン大会につい検証する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※外部講師の調整次第で内容、順番が変更になることがあります

【使用教材】

◇参考書：必要があれば適時紹介
　　授業時に資料配布

【履修条件等】

◇2020東京大会に興味を持っていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇オリンピック関連のニュースについての記事をスクラップする。

【その他の注意事項】

◇公開講座として一般受講者も参加します。
◇企画監修として杉山茂氏（スポーツプロデューサー／元 NHK スポーツ報道センター長）を招聘予定。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

プロフェッショナル・セミナーⅣ	神渡（カミワタリ）　良平（リョウヘイ）
Professional Seminar IV	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

私たちは事業を取り巻く外的環境を俯瞰（ふかん）し、的確に判断して、状況を切り拓いていかなければなりません。開拓者は環境を開拓することができる主体性を持っていてこそ、開拓者たり得ます。

その意味で、自分の主体性を培う学問である「人間学」は、これから人生に立ち向かう者にとって不可欠の学問といえます。この授業では先人がつかみ取った人生の知恵を学び、自分の人生に活用できるようにしていくつもりです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
意見をまとめる	平常点により評価します。 授業に取り組む姿勢や、質問の内容で判断します。	20%
論点を整理する	毎週提出してもらうレポートで評価します。 書くことで自分の思考は深められていきます。 従ってレポートは重大視します。	60%
ディスカッション能力	小試験によって評価します。	20%
評価の方法　授業中の態度、質問内容、レポートなどから行います。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	人間とは何か①	人間の人生に関わってくる“大いなる存在”を私の実生活から検証します。
2	人間とは何か②	人生がうまくいっている人たちに共通したものを探る
3	安岡正篤の宇宙観、人間観	小手先の知恵では生きなかった安岡正篤だったからこそ、多くの人に感化を与えました。
4	心耳を澄ます	私たちに響いてくる宇宙の叡智に聴き入ったとき、人間は“天命に”目覚め、迷わなくなります。
5	中村天風が説く言葉の威力	松下幸之助氏や稲盛和夫氏を奮起させた天風哲学について語ります。
6	中村天風が説く人間観	人間は宇宙の入れ物だ。宇宙のエネルギーを活用する知恵を探ります。
7	佐藤一斎の『言志四録』にみる世界観	ある意味で明治維新を産み出したともいえる、幕末の最高の儒学者がつかんだ世界観について語ります。
8	西郷隆盛を育んだ逆境の人生	西郷隆盛がつかんだ“上位概念”とは何か、とくに沖永良部島に島流しされた時代をふり返ります。
9	森信三の世界	「人生二度なし」の哲理がなぜ学校教師たちを奮起させたかを探ります。
10	マザー・テレサが投げかけたもの	下坐に下りた奉仕の背後にあった「私をあなたの道具としてお使いください」という祈りを探ります。
11	名曲「アメイジング・グレイス」の背後にある思想	この名曲を作詞したニュートン司祭の軌跡をたどりながら、背後の思想を掘り下げます。
12	一燈園の創始者・西田天香が目覚めたもの	日本のフランチェスコと呼ばれる西田天香の思想の軌跡をたどります。日本を再生させるものがあります。
13	詩人坂村真民の世界	毎朝の最初の一閃を深呼吸し、宇宙のメッセージを詩にした坂村真民の哲学を探ります。
14	来るべき世界を開く「心耳を澄ます」という思想	行き詰った現代文明を救う「下坐に生きる」思想とは何かを考察します。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します。

【使用教材】

◇神渡良平著『安岡正篤人間学』同文舘出版、講談社文庫
◇神渡良平著『中村天風人間学』PHP 研究所
◇神渡良平著『宇宙の響き　中村天風の世界』致知出版社
◇神渡良平著『下坐に生きる』致知出版社

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇課題図書を熟読すること。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

プロフェッショナル・セミナーⅣ 将棋	ホリグチ　コウジ 堀口　弘治
Professional Seminar IV	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

将棋のゲームとしての面白さ・奥深さはもちろん、伝統文化としての位置付けとして、世界における日本、日本文化自体を興味深く紹介していきます。

また将棋は次の一手を誰にも頼らず盤面の情報処理をして、自分なりに結論を出していくプロセスの連続です。対局の実技のみならず、授業全般にわたっても「自分の頭で考える」をテーマに展開していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
実技（主に対局）に集中することによりじっくり考える楽しみを知る	受講者同士の対戦を基に評価 受講当初より、どれくらい将棋に対する理解度が高まったか。	30%
課題やレポートに取り組み、自分が納得するまで考える力を養う	将棋関連のテーマに対する受講者のレポートの内容や詰将棋・将棋パズル等の課題への理解がどれだけ行われたか。	20%
各カリキュラムの理解度を問う	最終のテストで確認する	20%
評価の方法　出席100%を前提として授業参加度30%、上記の学習内容70%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	駒遊び	五角形の駒で様々な遊び方が創造できることを知る
2	ゴロゴロ将棋	５×６の小さな将棋盤で将棋の基本ルールを説明する
3	将棋とは?	将棋界の基礎知識を習得する
4	駒・盤作り DVD 鑑賞	職人技を鑑賞し、実際に駒に触れ、伝統文化の理解を深める
5	将棋の歴史(1)日本	平安～江戸時代にかけての将棋の歴史を知る
6	将棋の歴史(2)世界	世界のキングハンティングゲームの歴史を知る
7	青空将棋	歩のない激しい将棋でルール習得を促進する
8	スミワケ将棋	彼我の駒の利きを即時認識する能力を養成する
9	寄せ将棋	ゲームの最終目的である、王様を追い詰める技を習得する
10	プロ棋士の礼儀作法	プロ棋士の礼儀作法を学び、正しい駒の扱い方を習得する
11	プロ棋士の考え方	羽生善治の DVD を鑑賞し、プロ棋士の勝負哲学を知る
12	棋譜を取る	将棋を指しながら、自分で棋譜を書く
13	将棋トーナメント	真剣勝負の雰囲気を味わい、集中力を高める
14	対局の大盤解説	生徒の代表同士の対局を講師が大盤解説する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇将棋の教科書ならびに各種プリント。

【履修条件等】

◇とくにありませんが、敢えて言えば、初心者程本講座に適しています。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇受講期間中、対面やネット、対局ソフトで対戦をしたり、情報を取得したりするように心がけるようにしてください。

【その他の注意事項】

◇遅刻や欠席には気をつけてください。止むを得ず欠席の場合は事前連絡を必ずしてください。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

プロフェッショナル・セミナーV	緒方（オガタ）　義人（ヨシト）
Professional Seminar V	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

テーマ：戦略営業論

企業活動にとって最も重要で本質的な「営業」。

本講座を通じ営業の仕事とはどういったものなのか、その実態と、どのようなスキルが求められているかを理解し、演習を通じ営業に必要な基本的スキルを身につけていきます。授業では実際に営業現場で日々向き合うことになる「問題解決」に取り組みます。そのプロセスを演習を通じて学ぶと同時に、毎回行われるグループワークを通じ、自分の意見をわかりやすく伝えながらメンバーを巻き込み、協働するプロセスも学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎知識を習得する	営業に関する基本的な概念や用語、企業研究を行うためのフレームを理解しているか。	20%
他者と協力しながら、主体的に取り組む	グループで決めた役割を意識しながら、目標達成に向け主体的に課題に取り組んでいるか。	40%
問題解決のプロセスを理解し、実践する	問題解決のプロセスを理解し、その知識を活用してロールプレイや演習を通じ実践しているか。	40%

評価の方法　この授業は演習が主となるので、知識の習得のみならずセミナーへの積極的な参加を求めます。そして他の受講生と協力しグループで課題に取り組む姿勢を重視します。

評価の配分はテスト20%、授業中の取り組み姿勢40%、アウトプット物（ワークシート、企画書、アンケート）40%です。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	概要（授業内容、評価方法）説明、アンケート
2	営業の仕事を知る①	映像や記事を元に、営業を理解する
3	営業の仕事を知る②	
4	営業視点で企業を研究する①	営業視点で企業研究を行い、調べた内容をポスターにまとめ、発表する
5	営業視点で企業を研究する②	
6	営業の仕事を体感する①	ロールプレイを通じ「モノを売る」プロセスを体感する
7	営業の仕事を体感する②	
8	営業の仕事を体験する①	企業研究を行うためのフレームを学び、企業の現状と課題を整理し、解決策を考え、プレゼンテーションする
9	営業の仕事を体験する②	
10	営業の仕事を体験する③	
11	営業の仕事を体験する④	
12	営業の仕事を体験する⑤	
13	営業の仕事を体験する⑥	
14	振り返り	授業の振り返りとアンケート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。

◇講義資料は、授業で毎回配布します。

【履修条件等】

◇営業に「あまり良いイメージを持っていない」または「興味・関心はあるが、実態はよくわからない」が、授業を通じ「営業」について学びたいと感じていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の際、予習範囲を指示します。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

プロフェッショナル・セミナーVI 地域づくり実践論	ウラベ　ナオヤ 卜部　直也
Professional Seminar VI	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

「小さな町の大きな実験」と評され、「美の条例」で独自のまちづくりに取り組む真鶴町（神奈川県）の自治体職員による授業です。「美の基準」デザインコードの世界と、地方創生・移住推進・芸術文化・仕事おこし等を住民や民間企業と連携して取り組んできた実践から得られた「地域づくりの実際と現場の論理」を学びます。「持続可能な地域づくり」と今後重要となる「民力を育てる力」「ソーシャルデザイン」に焦点をあて、公務員・民間企業・住民全ての立場において必要な視点、地域づくりの実践力を習得します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「地域づくりにおける実践力」について自分なりの考えを習得している	最終授業におけるテストおよび「事例分析」の授業における意見・回答で評価する。	40%
「地域の持続可能性」や「民力の育成」について自分なりの考えを習得している	最終授業におけるテストおよび授業における回答・出席カードのコメントで評価する。	40%
「地域づくりにおける行政の役割・仕組み」について理解している	最終授業におけるテストおよび授業における回答・出席カードのコメントで評価する。	20%
評価の方法　最終授業でのテスト、各授業における回答・出席カードのコメントで総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業目的、進め方、到達目標（授業で習得できること）、評価基準の説明、「小さな町の大きな実験」真鶴町の紹介
2	これからの自治体１	先進自治体の持続可能性　－美の条例の再生－
3	これからの自治体２	地域づくりにおける自治体の役割・行政の仕組み
4	民力を育てる力	美の基準の世界－コミュニケイティブ・プランニング－
5	民力を育てる力	リーンスタートアップ理論　－修正前提の事業立上げ－
6	民力を育てる力	ＣＳＲ　企業の社会的責任
7	民力を育てる力	地域で稼ぐ力
8	民力育成の実践分析	芸術祭による地域づくり
9	民力育成の実践分析	起業・仕事おこしによる地域づくり
10	民力育成の現場	校外授業：真鶴町視察　若い世代が活躍する現場を見る
11	民力育成の現場	校外授業：真鶴町視察　若い世代が活躍する現場を見る
12	地域づくりとは	ソーシャルデザインの意味と歴史
13	地域づくりとは	ソーシャルデザインの作法・具体例・実践分析
14	地域づくりの実践力	まとめ「地域づくりに必要な実践力」
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※授業10・11は真鶴町（神奈川県）への校外授業（現場視察）となります。正規の講義時間ではなく週末１日に２授業分（３時間）を振り替え、校外授業を実施します。

【使用教材】

◇参考書：『美の条例－いきづく町をつくる－』五十嵐敬喜、他２名、学芸出版
他、授業で適時指示します。

【履修条件等】

◇なし。

◇学ぶ意欲・思いがあればあるほど習得するものがある授業をつくります。
「現場の実際」に取り組める実務能力の習得を目指します。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇上記参考図書を事前に読んでおくと授業への興味関心・理解が深まります。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

プロフェッショナル・セミナーVI 産業と企業戦略	林（ハヤシ）　倬史（タクジ）
Professional Seminar VI	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

大手企業の経営に実際に携わってきた方々による「業界における競争環境の変化」、「企業組織」、「職務内容」、「必要な職務上の能力」等々について具体的に解説し、学生諸君との質疑応答を通してビジネスマンとして要求される諸知識を習得していく。

講義は、総合商社・自動車・小売り・食品・飲料・精密・建設機械・ホテル・航空業界大手企業の業界構造とビジネスについて言及して解説していく。

【学習の到達目標と評価基準】【授業計画】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
講義で概説する主な日本の業界・産業の構造、競争環境を理解していること	主な業界・産業の構成企業、競争状況、収益状況などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
講義で概説する主な日本の業界・産業の構造・競争環境が国際的な競争環境下において、何が求められているかを理解すること	講義で概説する主な日本企業の業界・産業と主要構成企業が国際的におかれている競争上のポジションを、競争優位性の観点からどの程度理解しているかを評価する。	10%
講義で取り扱った産業の主要企業における、歴史・組織・戦略に関する基本的知識を習得すること	それぞれの講義で扱われた企業の特質を、歴史・組織・戦略・技術開発力と国際的競争優位性等に関する基本的知識を習得しているかを評価する。	20%
それぞれの講義で説明した産業・企業の特質を競争環境・産業組織・主要企業の組織・戦略に関する専門知識を習得し、それら産業や企業で要求される職務能力を理解すること	それぞれの講義で説明された業界・企業の特質を、内外における競争上のポジションの視点からどの程度理解しているか、そしてそれら業界・企業で必要となる職務上の能力はどのようなものかを試験（客観テストの予定）により評価する。	60%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験(客観テストを予定)60%､小テスト20%､出席と授業への参加の程度20%の配分予定。
試験は客観テスト、小テストは論述により基礎的な学習成果を評価する。

回	テーマ	内　容
1	各講義の概要説明	それぞれの講義内容の概説および各担当者の紹介
2	総合商社	総合商社の事業概要と主要企業の特質
3	自動車産業	自動車産業の課題と、主要企業の戦略
4	小売り産業	小売り産業の特質と国際的競争環境
5	イオン社	イオン社の戦略と競争優位性
6	建設機械産業	建設機械産業の事業構造と国際的ポジション
7	コマツ社	コマツ社の事業概要と国際的競争優位性の源泉
8	食品産業	食品産業の事業内容と構成企業の多様性
9	企業とマーケティング戦略	食品事業でとくに必要なマーケティング戦略
10	精密機械産業	精密機械産業の事業概要・構成企業・競争環境
11	キヤノン社	キヤノン社の事業概要と戦略
12	飲料産業	飲料産業の構成企業群と事業の特殊性
13	コカ・コーラ社	コカ・コーラ社の世界戦略と日本コカ・コーラ社
14	航空会社・企業	業界構造と世界的競争環境下における航空会社
15	ホテル産業・企業	観光業界とホテル産業の事業内容

【使用教材】

◇教科書：とくになし。

◇参考書：配布資料。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に各講義で説明する業界・企業を紹介するので、授業中の質疑に対応できる知識を事前に学習しておくこと。

【その他の注意事項】

◇この授業はそれぞれの業界の役員経験者による授業となるため、本学学生の業界における評価に直結することになる。したがって、授業態度には十分気をつけ、積極的に討議に参加することは求められる。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

プロフェッショナル・セミナーVI “好き”を見つける教室”	針谷（ハリヤ）　和昌（カズヨシ）
Professional Seminar VI	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

イベント企画を通じて／自分自身を知りイベントプロデュースを学ぶ

人生で起こる出来事、それ自体ほとんどすべてがイベントである。イベントには、自分がワクワクしたり、興奮したり、愛おしいと思ったりするものが隠れている。それらの感情を浮き彫りにすることで、本当に好きなこと、本当にやりたいことが見えてくる。この授業では、イベントを企画する過程において、なぜそれがいいのか、なぜこれはしっくりこないのか、対話と議論の中で自分自身を深掘りしていきながら、自分の奥深いところを発見する。そして、実際に、イベントを企画し、イベントプロデュースの実践を体験的に学習する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自分が好きなことが「言語化」できるか？	講義内容であるポジティブ心理学、幸福学、コーチングについて理解し、自分の方向性を言語化できるかについて、レポートおよび授業中の発言で評価する。	15%
イベント実施の意義（自分がやりたいこと）を理解し、企画立案できるか？	講義内容であるインタビュー、フロー研究、キャプテンシップについて理解し、企画立案を文書化できるかについて、レポートで評価する。	15%
イベント企画に関する手順、方法論を理解し、応用できるか？	講義の中で実施するイベントプロデュースに関するアクティブラーニング、演習に参加し上で、グループワークおよびグループ発表内容で評価する。	15%
イベント企画案を立案し、適切な運用について文書化できるか？	自分自身が企画したイベントプロデュース企画案に関する最終レポートの提出が必要であり、そのレポート内容、および授業における積極的な参加姿勢を加味して総合的に評価する。	55%

評価の方法　授業中に実施する演習への参加、発言などに対する評価が40%、授業中および最終的に提出するレポートの評価が60%とする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	・授業の全体像と自己紹介　・グループ討議（各自長所等）
2	セッション	
3	1)好きなことを探す	（・好きなこと概論　・対話と議論　・web 心理テスト）
4	2)アクティブラーニング	（・ゲームの紹介　・ゲームの実施　・タイプ診断）
5	3)コーチング	（・コーチング概論　・コーチング実践）
6	4)インタビュー	（・インタビュー概論　・インタビュー実践）
7	5)フロー	（・フロー概要　・フローエクササイズ実践）
8	6)キャプテンシップ	（・キャプテンシップ概論　・キャプテンシップ実践）
9	7)イベントの基礎知識	（・イベント全体概論　・イベント企画概論）
10	8)イベントのつくり方	（・イベント企画実践　・イベント）
11	9) レポートに向けた準備	（・対話と議論　・質疑）
12		
13		
14		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ドラマチックロールプレーイングゲーム。

◇教科書は指定しません。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇適宜予習課題を指示します適宜予習課題を指示します。

【その他の注意事項】

◇事業開発として企画中のものを使用するため、そのような資料については、内容を外部に口外しないこと（機密保持）を守ってください。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

プロフェッショナル・セミナーⅦ 就職	野沢（ノザワ）　牧子（マキコ）
Professional Seminar VII	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、就職に当たっては早い段階での主体的行動が求められようになってきました。

本講義では、自立を目的として「話す・聴く・書く」というコミュニケーション力と対人関係構築力を、グループワークやプレゼンテーションを通じ体感的に学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	60%
社会人基礎力に基づいて、自己理解・自己分析を深め進路選択の方向性を決める	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
評価の方法　職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	就職活動の現状理解、全体スケジュールと準備事項
2 ～ 5	社会人基礎力に基づく グループワーク	グループワーク
6 7	グループワークのまとめ	社会人基礎力から強みを考える 自己ＰＲの作成
8 ～ 12	課題解決型 グループワークおよび プレゼンテーション	グループワークおよびプレゼンテーション
13	プレゼンテーションの まとめ	プレゼンテーションの振り返り
14	履歴書の完成	履歴書の作成
15	活動計画策定・発表	夏のインターンシップ、秋学期の活動計画策定

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇３年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、１度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

プロフェッショナル・セミナーⅦ 就職	宮地（ミヤジ）　由夏（ユカ）
Professional Seminar VII	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

長期化する厳選採用と働き方の多様化に伴い、就職に当たっては早い段階での主体的行動が求められようになってきました。

本講義では、自立を目的として「話す・聴く・書く」というコミュニケーション力と対人関係構築力を、グループワークやプレゼンテーションを通じ体感的に学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	60%
社会人基礎力に基づいて、自己理解・自己分析を深め進路選択の方向性を決める	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
評価の方法　職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	就職活動の現状理解、全体スケジュールと準備事項
2 ～ 5	社会人基礎力に基づく グループワーク	グループワーク
6 7	グループワークのまとめ	社会人基礎力から強みを考える 自己ＰＲの作成
8 ～ 12	課題解決型 グループワークおよび プレゼンテーション	グループワークおよびプレゼンテーション
13	プレゼンテーションの まとめ	プレゼンテーションの振り返り
14	履歴書の完成	履歴書の作成
15	活動計画策定・発表	夏のインターンシップ、秋学期の活動計画策定

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇３年生で民間企業への就職を考えている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。

◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、１度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：３年生

プロフェッショナル・セミナーⅧ	宇田川（ウダガワ）　素子（モトコ）
Professional Seminar VIII	演習科目／半期／２単位

【授業概要】

テーマ：キャリアインタビュー

この授業では、社会人がどのような意識で仕事に取り組んでいるかを映像、記事、インタビューを通して理解し、その姿を参考にしながら自己理解を深め、今後のキャリアについて考えます。また、社会人へのキャリアインタビューを実践することで、マナーの理解、コミュニケーションに必要な傾聴力の向上を目指します。授業では毎回グループワークを行いますので、自分の意見をわかりやすく伝えながらメンバーを巻き込み、協働するプロセスも学べます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
他者と協力しながら、主体的に取り組む	グループで決めた役割を意識しながら、主体的に課題に取り組んでいるか。	40%
自己理解を深め、将来の見通しを持つ	自分に向き合い、自分を理解し、将来の見通しを考えているか。	40%
キャリアインタビューを実践し、傾聴力を向上する	傾聴手法を理解し、キャリアインタビューの実践を通して傾聴力が向上しているか。	20%

評価の方法

評価の配分：提出物（ワークシート、キャリアインタビューシート、アンケート）の内容が60%、授業中の取り組み姿勢が40%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	概要（授業内容、評価方法）説明、アンケート
2	キャリアの理解①	映像・記事を通して社会人のキャリアを考え、理解する
3	キャリアの理解②	
4	キャリアの理解③	
5	インタビュー体験①	インタビューの体験を通して傾聴手法を理解する
6	インタビュー体験②	
7	キャリアインタビュー準備①	質問項目を検討し、計画を立てる
8	自己理解①	ワークを通して自分の価値観を知る
9	共有と振り返り①	各自が実践してきたキャリアインタビュー内容を共有し、振り返る
10	キャリアインタビュー準備②	対象者の勤務先・仕事内容など必要な情報を調べる、インタビューの練習をする
11	キャリアインタビュー実践	ＯＢＯＧにキャリアインタビューを実践する
12	共有と振り返り②	前回のキャリアインタビュー内容を共有し、振り返る
13	自己理解②	ワークを通して仕事のやりがいについて考える
14	キャリアプランニング	目標を設定し、達成に向けた計画を考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず。

◇講義資料は授業で毎回配布。

【履修条件等】

◇自己理解を深め、今後のキャリアを考えたいと思っていること。

◇就職活動を控えた学生におすすめしたい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の際、予習範囲を指示。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

流通論Ⅰ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Channel Management I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、流通に関する基礎的な知識の習得を目指すとともに、上記環境下における小売・流通企業の戦略について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会における流通と商業に関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通と商業の社会における役割に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態について説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態の特徴に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態が起こしたイノベーションについて説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態がこれまで起こしてきたイノベーションに関する設問に答えられること。	25%
流通理論に関して正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。流通や商業者の行動原理としての流通理論（売買集中の原理、延期と投機の理論など）に関する設問に答えられること。	25%

評価の方法　全15回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通とは	現代社会における流通の様相
3	各種小売業態の特徴(1)	食品スーパーとＣＶＳについて
4	各種小売業態の特徴(2)	ディスカウント・ストアとＳＰＡについて
5	各種小売業態の特徴(3)	商店街とショッピングセンターについて
6	変化する流通構造	流通構造の分析
7	小売業態とは何か	業態理論について
8	日本型取引慣行	日本型取引の特徴（流通系列化、建値、リベート）
9	ロジスティクス	現代流通を支える３ＰＬ
10	売買集中の原理と品揃え形成	商業の存在意義について
11	商業の外部性と商業集積	商業集積における競争と協調メカニズム
12	投機的流通から延期的流通へ	延期投機理論について
13	生産と流通の分業関係の変化	流通系列化から製販連携へ
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石原武政・竹村正明編『１からの流通論』碩学舎、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

流通論Ⅱ	フカザワ　タクヤ 深澤　琢也
Channel Management II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、「流通論Ⅰ」で学習した内容をベースに、より専門度の高い流通理論のみならず、制度・実態・政策について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
流通と商業の社会的役割および流通機能の分類と機能について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通機能の分類と機能に関する設問に答えられること。	25%
現代流通業の実態について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。オペレーションコスト、取引コスト、パワー関係、延期と投機ＳＣＭなどの理論に関する設問に答えられること。	25%
ＩＣＴ化、国際化などの流通業を取り巻く今日的課題について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。流通におけるＩＣＴ機能の役割、インターネット販売、流通業が国境を越える際に生じる課題に関する設問に答えられること。	25%
流通と公共政策との関連性について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。今日までになされてきた具体的な公共政策内容、およびそれが流通にいかなる影響を及ぼしてきたのかについての設問に答えられること。	25%
評価の方法　全15回の授業のうち３分の２にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通を読み解く視点(1)	流通と商業
3	流通を読み解く視点(2)	流通機能の分類と機能
4	流通における機能分担(1)	垂直的分化と統合
5	流通における機能分担(2)	オペレーションコスト、取引コスト
6	流通における組織間関係(1)	チャネルの組織化とパワー関係
7	流通における組織間関係(2)	製販提携と延期型流通、ＳＣＭの進展
8	小売業の行動とダイナミクス(1)	小売業態の開発と競争
9	小売業の行動とダイナミクス(2)	小売業の製品開発とブランド・マネジメント
10	卸売業の現状と課題	卸売業界の再編成と“機能強化”競争
11	流通におけるＩＣＴ活用の展開	ＩＣＴの導入、流通ＩＣＴ化の進展と意義
12	インターネット販売の可能性	インターネット販売の特徴
13	流通と公共政策	まちづくり・公正競争
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

消費者行動論Ⅰ	中嶋（ナカジマ） 励子（レイコ）
Consumer Behavior I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

消費者は、どのようなことを考え、どのように購買行動を行っているのでしょうか。消費者行動は、経営学をはじめとして、心理学、社会学、行動経済学等、広い分野と関わっています。この授業では、消費者行動の基本的な理論を学びながら、事例をもとに理解を深めていきます。

また、企業が国内外でマーケティング活動を行うためには、その国・地域の文化や消費者行動を理解する必要があります。最近の事例を通して、マーケティングについても学んでいきます。

事例や課題への取り組み等の参加型の授業を通して、自分達で考えながら理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と、主な研究方法について、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動に対する基本的な考え方、消費者行動研究の主要なアプローチ方法を理解し、答えられること。	30%
消費者行動に影響を与える内的・外的要因について理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の知覚、記憶、態度形成等について理解し、答えられること。 消費者行動が周囲の人々や社会から受ける影響要因について理解し、答えられること。	30%
企業の経営企画・マーケティング活動と消費者行動の関連を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動を理解することが、企業のマーケティング活動にどのように関わるのか、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価)、課題20%、試験60%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、内容について、消費者行動とは何か
2	研究の主要アプローチ方法	消費者行動研究の主な理論とモデル
3	消費者の知覚	消費者の知覚のプロセス等
4	消費者の記憶	消費者の記憶のプロセス
5	消費者の知識と記憶	消費者の知識・記憶
6	消費者の個人特性	消費者の個人特性
7	意思決定プロセス	消費者の意思決定プロセス
8	問題認識・情報探索	問題認識段階と情報探索段階
9	選択評価	選択・代替品の評価
10	購買意思決定	購買意思決定と状況要因
11	購買後の評価	購買後の評価とその影響
12	消費者行動と文化(1)	文化による影響
13	消費者行動と文化(2)	文化に適合させた製品開発事例について
14	消費者調査	マーケティング・リサーチの主な手法と事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）

◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」など）を受講していることが望ましい。

◇授業内課題および授業外課題は、必ず提出すること（提出期限厳守）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。

◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

消費者行動論Ⅰ	花尾（ハナオ）　由香里（ユカリ）
Consumer Behavior I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な考え方について学んだあと、購買行動に影響を及ぼす心理的要因ついて解説を行う。具体的には、商品を購入する際の意思決定プロセスや欲求との関わり、商品への関与度や態度形成が購買行動に与える影響などについて説明をする。自身の購買行動について理論的に理解できるようになるとともに、消費者行動と企業のマーケティング戦略との関わりについても理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者の認知を理解し、購買行動に与える影響について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の知覚が商品選択や情報理解に与える影響、商品知識の構造と購買行動へ与える影響などについての理論を理解し、答えられること。	25%
消費者の心理的要因について理解し、購買行動との関わりについて説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の欲求と動機づけが購買行動に与える影響、商品に対する関与や態度の概念を正確に理解し、情報探索行動や購買行動に与える影響について答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	消費者行動の定義と基本的な考え方について
2	問題解決としての購買行動	購買行動の考え方と消費者行動のアプローチ方法
3	購買意思決定プロセス	消費者の購買意思決定プロセスについての解説
4	消費者の欲求と動機づけ	欲求が購買行動に与える影響と動機づけの形成
5	知覚のプロセスと特徴	知覚のメカニズムと知覚が消費者行動に与える影響
6	記憶の種類と役割	消費者の記憶の種類と記憶が消費者行動に与える影響
7	知識の種類と役割	消費者の知識の種類と知識が消費者行動に与える影響
8	知識の高低による違い	消費者の商品知識の高低が購買行動に与える影響
9	製品関与と購買への影響	製品関与が商品購入に与える影響
10	購買関与と広告関与	購買関与と広告関与が消費者に与える影響
11	消費者の態度形成	態度概念と購買行動との関わり
12	態度変容と説得	多属性態度モデル、態度変容とコミュニケーション
13	価格の心理	心理的財布、価格判断の状況依存性
14	購買後の心理	購買後の心理と次購買へ与える影響
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて、資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

消費者行動論Ⅱ	中嶋（ナカジマ）　励子（レイコ）
Consumer Behavior II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な理論の理解を踏まえ、消費者行動に関する社会的、文化的、個人内要因の理解を深めていきます。

また、データ分析をもとにした消費者行動分析について学び、データ分析や観察を通して、理解を深めていきます。さらに、消費者行動の分析が企業のマーケティングに活用されている事例から、マーケティング活動との関連についての理解も深めていきます。

最近の動向や事例を通して、考えながら、消費者行動を理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動のプロセスを説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動のプロセスについて、研究事例および自分自身の行動と関連させて理解し、説明できること。	20%
消費者行動の影響要因を理解し、自分の行動に関連して説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者を取り巻く外的および個人内要因が消費行動に与える影響について、自分の行動と関連させて理解し、説明できること。	40%
企業のマーケティング活動との関連を説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動と企業のマーケティング活動の関連を、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、授業内容について
2	消費者行動の影響要因	意思決定の主要モデルとさまざまな要因について
3	外的要因	消費者を取り巻く外的要因と影響
4	内的要因	消費者の個人属性、ライフスタイルと消費行動
5	消費者行動とリサーチ(1)	質的調査の主な手法について
6	購買前行動・状況要因	計画購買と非計画購買
7	非計画購買	非計画購買の行動観察
8	購買後評価とその影響	購買後の評価、購買後の評価の影響
9	無店舗販売と消費者行動	無店舗販売における影響要因と購買後評価
10	消費者行動とリサーチ(2)	量的調査の主な手法について
11	マーケティング活動の影響	マーケティング活動が消費者行動に与える影響
12	マーケティング事例（1）	広告の役割・効果、ブランド・イメージ等
13	マーケティング事例（2）	消費者行動を考慮したマーケティング戦略の事例
14	最新の消費者行動研究の動向	観察法、ビッグデータ分析などの最近の事例を学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）

◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

◇マーケティング関連の科目（「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」、「消費者行動論Ⅰ」など）を受講していることが望ましい。

◇授業内課題および授業外課題は、必ず提出すること（提出期限厳守）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。

◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

消費者行動論Ⅱ	花尾（ハナオ）　由香里（ユカリ）
Consumer Behavior II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この授業では、購買行動に影響を及ぼす心理的な要因を学ぶとともに、消費者を取り囲む環境要因や状況要因など、消費者行動に影響を与える要因について多面的な視点から解説を行う。また、消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて考察できるようになるとともに、自身の購買行動について理論的に理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者行動に影響を与える環境要因について理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者を取り囲む環境要因である他者や社会が購買行動に与える影響、店舗内環境要因などの影響について理解し、答えられること	25%
消費者行動にみられる近年の変化や消費者問題について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。インターネットの普及による消費者行動の変化、消費者問題の現状等を消費者心理とともに理解し、答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法　70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	消費者の個人特性	個人特性による類型論と購買行動への影響
3	消費者のライフスタイル	新製品の普及過程理論とライフスタイルの変化
4	環境要因の影響	環境要因の考え方と環境が消費者行動に与える影響
5	店舗内消費者行動	計画購買と非計画購買、店舗内要因の影響
6	対人的影響(1)	口コミによる購買行動への影響
7	対人的影響(2)	オピニオンリーダー、口コミを利用した企業戦略
8	集団と社会の影響	社会的規範と準拠集団の影響
9	ネット上の購買行動(1)	インターネットの普及による購買行動の変化
10	ネット上の購買行動(2)	インターネットを利用したアプローチと広告戦略
11	カラーの心理と影響(1)	色やデザインが消費者行動に与える影響
12	カラーの心理と影響(2)	色やデザインの戦略的応用について
13	消費者問題(1)	近年の傾向と消費者が巻き込まれやすいトラブル
14	消費者問題(2)	近年の消費者問題対策とトラブル対応
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

中小企業論Ⅰ	青山（アオヤマ）　和正（カズマサ）
Theory of Small Business I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

中小企業は、大企業とともに一国の経済社会の発展の原動力の大きな柱の１つであり、かつ地域経済や経営革新の担い手として大きな役割を果たしている。その歴史的な発展や中小企業の構造変化、日本経済におけるその存立条件と中小企業固有の問題点を解明する。さらにアジア諸国の中小企業についても、その構造や政策について日本と比較しながら解明していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中小企業に関する基礎的な知識と位置づけを理解していること	小テストを行い、中小企業に関する基礎的な用語と経済・産業との関わりを習得しているかを評価する。	15%
中小企業に関する分野ごとの基礎的な知識と課題を理解していること	小テストを行い、中小企業に関する分野別の基礎的な用語と知識を習得しているかを評価する。	15%
中小企業に関する分野ごとの問題を深く理解し、自分で課題を理解していること	中小企業に関して、特定分野の内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。論旨の体系化、内容、課題などが理解しているかを回答しているかを評価する。	30%
中小企業問題の全体像と各分野の関連を理解し、中小企業問題の基礎から応用まで理解していること	中小企業に関して、基礎から応用までの内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。中小企業問題は経済社会問題として幅広いので、どの程度深く理解できたかを評価する。	40%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験75%、演習15%、出席10%
試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス なぜ中小企業が重要か	本授業のねらいと進め方、評価基準等について説明、中小企業の役割と重要性を見る
2	中小企業の定義	日本、米国などの中小企業の捉え方と実態
3	中小企業政策の変遷	日本の中小企業政策の変遷と内容
4	中小企業の存立形態(Ⅰ)	中小企業の構造変化と存立分野の変革
5	中小企業の存立形態(Ⅱ)	中小企業の業種別の構造変化と特徴
6	創業・開業(Ⅰ)	各国の創業・開業の実態と創業の重要性
7	創業・開業(Ⅱ)	創業促進政策、インキュベーション
8	中小企業と製造業(Ⅰ)	日本の下請構造の歴史的変遷と特徴
9	中小企業と製造業(Ⅱ)	日本の下請構造の変化と課題
10	中小企業と製造業(Ⅲ)	中小製造業の生き残り条件業
11	中小企業の国際化(Ⅰ)	中小企業の国際化の変遷
12	中小企業の国際化(Ⅱ)	中小企業の国際化とアジア分業体制
13	地域経済と中小企業(Ⅰ)	地域経済と中小企業の関わり方
14	地域経済と中小企業(Ⅱ)	地場産業における中小企業の役割
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括・学習達成度の確認

【使用教材】

◇参考書：青山和正著『精解中小企業論』同友館
　　中小企業白書、新事業開業白書、通商白書

【履修条件等】

◇日頃から中小企業にも絶えず関心や疑問をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇レジメをあらかじめ読んでおくこと。

◇中小企業のテーマごとに基礎的な知識を理解しておくこと。

【その他の注意事項】

◇日本経済新聞など、中小企業に関する記事を読むこと。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

中小企業論Ⅰ	ヤマオカ　ジュンイチロウ 山岡　淳一郎
Theory of Small Business I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、私がノンフィクション作家として取材、執筆してきた企業と経営者、社員の方々とのやりとりなどを基に、社会の変化のありよう、ニーズの移り変わり、今後の方向性などを解説。メディアから眺めた中小企業論を展開し、現象の奥の構造を見抜く力を養います。併せて日本語での読み書き、コミュニケーションの力を磨きます。

国の中小企業白書によれば、全国382万社のうち中小企業が99.7%を占めます。身近な企業の活動を手がかりに思考を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に把握して理解できる	講義中に解説する中小企業の問題や人物のエピソードなどを通して、社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
日本語で読み、書き、話すための基礎的な力を身につける	講義に使うテキスト、レジュメなどにそって、読み、書き、話すことに積極的にチャレンジし、自らの能力を高めようとしているか。ワークシート、試験等で客観的に評価。	35%
情報の読解力を高め、ものごとを複眼的にとらえられる力をつける	社会に氾濫する情報をうのみにせず、自分の頭で正確に理解しようと努め、さまざまな視点からの分析ができているか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	25%
経営に欠かせない先見性やリーダーシップが理解できているか	講義で触れる経営者たちの判断、選択について、その根底にある先見性やリーダーシップの基本概念が理解できるか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	20%
評価の方法　評価配分は授業参加の姿勢、態度を50%、期末試験を50%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	導入講義
2	エンターテインメント界の老舗 木下サーカス株式会社のビジネス像 「一場所、二根、三ネタ」とは？
3	木下サーカス、百余年の軌跡
4	ＵＴグループの起業と、製造業派遣の移り変わり。働き方はどうなる？
5	ＵＴグループの成長と変化、将来戦略
6	飲食界の新星、物語コーポレーション
7	物語コーポレーション会長の経営観
8	中小企業の落とし穴－銀行の行動
9	航空機産業を支える中小企業
10	多摩川精機と飯田市の中小企業
11	脱炭素革命と原子力ビジネス
12	エネルギー地産地消－小田原の鈴廣
13	農業の最先端－舞台ファーム
14	元受刑者を雇用-北洋建設
15	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメ、ワークシートなど準備し、教材にします。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の内容を予告し、予習すべき内容を指示します。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、無断で教室の外に出ることは慎んでください。授業では、グループごとのディスカッションやワークシートの記入なども実施します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

中小企業論Ⅰ	ヤマカワ　サトル 山川　　悟
Theory of Small Business I	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、「東京中小企業家同友会」に加盟している会社の役員（主に経営者）を毎回講師に招き、経営内容やご自身の経験談を中心にした講演を通じて中小企業経営の実際を学びます。また、講演後の議論により、対象企業の経営課題を経営者と同じ目線で考えるきっかけを提供します。本学からの新卒採用を考慮に入れている企業もありますので、就職活動前の企業研究としても格好の場です。

今年度は、製造業２社、建設業２社、サービス業４社、商社１社、ソフトウエア会社３社の12社の講演を予定しています。進路をまだ決め切れていない、企業研究がまだできていないという学生は積極的に履修登録し、自らの指針づくりに役立ててください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レポート提出と内容	・レポートが期限までに提出されている。 ・レポートの仕様（ページ数、サイズ、対象企業数など）が順守されている。 ・レポートに講演内容が簡潔にまとめられている。 ・レポートに自分自身の言葉で、感銘を受けたことまたは印象に残ったことが明記されている。 ・講義中にミニレポートを課すことがあります。	50%
講義への参加姿勢	・傾聴姿勢がある。 ・話を聞きながら、きちんとメモがとれている。 ・積極的に質問した（講義中に質問した人には加点評価を行います)。 ・講義後の議論に積極的に参加した。	50%
評価の方法　約70%以上の出席を前提に評価		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	授業概要、評価方法等の説明
2	中小企業を学ぶ	中小企業の定義と意義および今後の展開について
3	製造業	電子磁気工業株式会社　取締役総務部長
4	製造業	株式会社　吉村　代表取締役社長
5	建設業	メトロ設計株式会社　代表取締役
6	建設業	株式会社　タキズミ　代表取締役会長
7	サービス業	大谷清運株式会社　代表取締役
8	サービス業	東京魚類容器株式会社　代表取締役
9	サービス業	株式会社ワイズ・インフィニティ　代表取締役社長
10	サービス業	株式会社　富士国際旅行社　代表取締役
11	商社	株式会社ディレクターズ　アイエスビー　代表取締役
12	ソフトウェア業	株式会社　エム・ソフト取締役会長
13	ソフトウェア業	株式会社　ソアーシステム　代表取締役
14	ソフトウェア業	株式会社 コンピュータネットワーク　代表取締役会長
15	まとめ	これまでのまとめとレポート課題の提示

【使用教材】

◇企業概要や講演レジュメなど、各回資料を配布します。

◇講演者が使用したパワーポイントのスライドは配布しませんので、講義用ノートを作成し、講演者の発言のキーワードをメモしてください。

【履修条件等】

◇社会人としての基本的マナー（遅刻しない、途中退席しないなど）を守り、授業を受けられる人。

◇企業の話を直接聞くことで、進路決定に役立てたいと考える人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇当日の企業・業界に関して事前研究をしておくことを勧めます。

◇質問事項を準備しておいてください。

【その他の注意事項】

◇配布資料は、自身で整理、管理してください。

◇出席管理は自ら行い、自身の出席率を把握しておいてください。

◇黙って聞くだけではなく、積極的に質問を行うことがマナーです。企業経営者と直接対話する絶好のチャンスだと思って参加してください。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

中小企業論Ⅱ	青山（アオヤマ）　和正（カズマサ）
Theory of Small Business II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

中小企業は大企業に比べヒト・モノ・カネの経営資源が乏しく、大企業（強者）とは異なる戦略や知恵と工夫により、新たな市場開拓を見出し、経済社会に貢献している。本講座では、大企業経営とは異なる中小企業の経営的な側面を経営戦略から財務までの基礎から応用まで学ぶ。講義を聴くだけではなく、事前に配布した演習を、自分ならどう解決していくかを考えることで中小企業経営をより深く解明する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業経営に関する基礎的な知識と考え方を理解していること	小テストを行い、企業経営に関する基礎的な用語や知識を習得しているかを評価する。	15%
中小企業経営に関するテーマごとの基礎的な知識と課題を理解していること	中小企業経営に関する基礎的な知識を習得しているかを評価する。中小企業経営の戦略ツールや思考体系の理解がされているかを小演習により評価する。	15%
中小企業経営に関する分野ごとの問題を深く理解し、自分で課題を理解していること	中小企業経営に関して、テーマごとにその内容と課題を把握しているかどうかを演習により評価を行う。論旨の体系化、内容、課題などが理解しているかを回答しているかを評価する。	30%
中小企業問題の全体像と各分野の関連を理解し、中小企業問題の基礎から応用まで理解していること	中小企業経営に関して、基礎から応用までの内容と課題を把握しているかどうかを論述試験により評価を行う。中小企業経営をテーマごとに、どの程度深く理解できたかを評価する。	40%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、出席10%
試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス 中小企業経営とは	本講座の目的と授業の進め方、評価基準等を説明。 中小企業経営の特性と独自性
2	中小企業経営者の条件	中小企業は経営者の条件とは何か
3	中小企業の経営戦略(Ⅰ)	中小企業の経営戦略の基本
4	中小企業の経営戦略(Ⅱ)	中小企業の差別化戦略の進め方
5	中小企業の経営戦略(Ⅲ)	中小企業の NO1戦略とは何か
6	中小企業のマーケティング(Ⅰ)	中小企業のマーケティングの進め方
7	中小企業のマーケティング(Ⅱ)	中小企業のブランドづくりの基本
8	中小企業の組織づくり(Ⅰ)	組織づくりの基本と中小企業の組織形態
9	中小企業の組織・人材(Ⅱ)	中小企業に最適な組織づくり
10	中小企業の財務(Ⅰ)	中小企業の財務データの基本
11	中小企業の財務(Ⅱ)	中小企業の財務データの活用
12	中小企業の財務(Ⅲ)	中小企業の資金調達と中小企業金融制度
13	ファミリービジネス(Ⅰ)	フォミリービジネスの概要
14	ファミリービジネス(Ⅱ)	後継者育成と事業承継
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括・学習達成度の確認

【使用教材】

◇教科書：とくになし。

◇参考書：山田英二著『競争しない競争戦略』日経出版

岩崎邦彦著『小さな会社を強くするブランドづくりの教科書』日経出版社

【履修条件等】

◇モノづくり、小売業、サービス業などの経営に関心をもつこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習（10問）を配布するので、その演習を自分なりに回答し、授業に臨むこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

中小企業論Ⅱ	ヤマオカ　ジュンイチロウ 山岡　淳一郎
Theory of Small Business II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義は、私がノンフィクション作家として取材、執筆してきた企業と経営者、社員の方々とのやりとりなどを基に、社会の変化のありよう、ニーズの移り変わり、今後の方向性などを解説。メディアから眺めた中小企業論を展開し、現象の奥の構造を見抜く力を養います。併せて日本語での読み書き、コミュニケーションの力を磨きます。

国の中小企業白書によれば、全国382万社のうち中小企業が99.7%を占めます。身近な企業の活動を手がかりに思考を深めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会の変化を、論理的に把握して理解できる	講義中に解説する中小企業の問題や人物のエピソードなどを通して、社会の変化を論理的に整理し、理解できているか。講義中の質疑や討論、期末試験で客観的に評価。	20%
日本語で読み、書き、話すための基礎的な力を身につける	講義に使うテキスト、レジュメなどにそって、読み、書き、話すことに積極的にチャレンジし、自らの能力を高めようとしているか。ワークシート、試験等で客観的に評価。	35%
情報の読解力を高め、ものごとを複眼的にとらえられる力をつける	社会に氾濫する情報をうのみにせず、自分の頭で正確に理解しようと努め、さまざまな視点からの分析ができているか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	25%
経営に欠かせない先見性やリーダーシップが理解できているか	講義で触れる経営者たちの判断、選択について、その根底にある先見性やリーダーシップの基本概念が理解できるか。講義中の質疑や期末試験で客観的に評価。	20%
評価の方法　評価配分は授業参加の姿勢、態度を50%、期末試験を50%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	導入講義
2	医療・介護と経営 「地域包括ケア」の実践 仙台の医療法人－清山会
3	精神科医理事長の理論と実践
4	健康とビジネス－健康機器メーカー・タニタの「モノ」から「コト」への転換
5	タニタ「健康をつくる」社内改革
6	チェーン病院－徳洲会の足跡
7	徳洲会創業者の「理念の力」
8	ヤマト運輸－宅急便が生まれた背景
9	産業を支える海運業
10	リーダーの発想－土光敏夫
11	東日本大震災と「みらい造船」
12	沖縄の経済変化－かりゆし、金秀
13	休耕地を生かす－多田自然農場の手法
14	企画コンペ－「こんな本をつくりたい」
15	総括・達成度の確認

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメ、ワークシートなど準備し、教材にします。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業中に次回の内容を予告し、予習すべき内容を指示します。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語、無断で教室の外に出ることは慎んでください。授業では、グループごとのディスカッションやワークシートの記入なども実施します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

ベンチャービジネス論	青山（アオヤマ）　和正（カズマサ）
Venture Business	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

ベンチャー企業の概念、歴史的変遷を理解した上で、ベンチャー企業の起業家の特性と行動、アイデア発想や事業機会の認識、ビジネスモデルのパターンと工夫、マーケティング、組織づくり、ベンチャーファインス、新興株式市場への上場条件、ベンチャー支援策の活用などを学ぶ。

講義に加えて、ベンチャー企業に関わる事例研究や演習を行う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ベンチャー企業、起業家の基礎的な知識や進め方の考えを理解していること	ベンチャー企業の社会経済における重要性、特性、起業家の条件・行動などの基礎的な知識を理解しているかを評価する。	10%
ベンチャー企業のビジネスモデル形成のための基本的な要件やフレームワークを理解していること	ベンチャー企業の事業展開をする上でのビジネスモデルの形成とその要件やフレームワークが理解されているかどうかを演習による評価する。	10%
ベンチャー企業の成長段階での経営のあり方を理解していること	ベンチャー企業の成長段階（アーリー、ミドル、レーター）での、経営戦略、マーケティング、組織、ファイナンスの専門的知識を習得しているかを評価する。	20%
ベンチャー企業の基礎から応用までの成長ステップと各成長段階のベンチャー経営の専門知識を理解していること	起業家精神の涵養とベンチャービジネスの仕組みを十分に習得しているかを試験により評価する。	70%

評価の方法　70%以上の出席を前提として試験70%、演習20%、出席10%
試験は論述により、演習は小テストにより基礎的な学習成果を評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	起業家の特性と行動	起業家の資質、条件、起業行動
3	ビジネスモデルの基本(1)	アイデア発想からビジネスモデルの構築
4	ビジネスモデルの基本(2)	優れたビジネスモデルのパターン （演習１）ビジネスモデルの検討
5	ビジネスモデルの基本(3)	ブルーオーシャン戦略とベンチャー企業
6	マーケティング①	ベンチャー企業のマーケティング活動
7	マーケティング②	サービスマーケティング活動 （演習２）事例分析
8	組織マネジメント①	ベンチャー企業の組織行動とマネジメント
9	組織マネジメント②	ベンチャー企業の人材育成と社員のモチベーション策 （演習３）急成長する組織づくり
10	ファイナンス①	ベンチャー企業の多様な資金調達 （演習４）ベンチャーファンナンス
11	ファイナンス②	ベンチャーキャピタルの仕組みと目利き
12	ファイナンス③	企業価値と株価の決め方 （演習５）企業価値の算定
13	ファイナンス④	株式公開と資本構成
14	ベンチャー支援策	ベンチャー支援政策、制度の活用
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書：随時、講義時間中に資料等を配布する。

◇参考書：金井一頼他著『ベンチャー企業経営論』有斐閣

【履修条件等】

◇「新事業創造論」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に演習問題を配布するので、事前に学習しておくこと

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

ベンチャービジネス論	片山（カタヤマ）　源治郎（ゲンジロウ） 眞山香織・児玉陽平 ・隅田浩司
Venture Business	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

テーマ：事業を授業に！　アイスクリーム事業から創業について学ぶ

この講義では、本学五号館に設置されたアイスクリームラボ（株式会社ジャスビコ）を中心とするアイスクリーム事業の創業からその事業展開の進行に合わせて、起業するとはどのような意味を有するのか、ベンチャービジネスとは何か、そして事業展開を目指す上で経営学はどのように活用されているのかを実践的に学びます。したがって、この授業では、講義と演習が組み合わさる形の授業です。この講義を受講することによって、ベンチャービジネスに自分が参加する形で実践的に経営学のあらゆる要素について学ぶことができます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
１．経営学に関する基礎知識を応用できる	経営学で学んだそして学んでいる知識を実践の中でどのように応用できているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
２．ベンチャービジネスの特徴を理解する	ベンチャービジネスとは何か、そしてそのビジネス上の特徴、課題そして困難な問題について、経営戦略、マーケティング、ファイナンスなどが有機的に連携していることを理解しているか否かを講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%
３．創業のための創造性を身につける	ベンチャービジネスは、ゼロからの創業を含みます、最初のアイデアをどう実践し、事業創造につなげるための方法論を理解しているか否かについて、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の20%
４．協働性を身につける	この講義は演習型の講義であり、他の受業生とのグループ学習を行います。他の受業生および講師と一体となってプロジェクトに取り組むという協働性を身につけているかどうかを、講義および演習そして期末試験によって評価します。	評価の30%

評価の方法　毎回の講義での受講態度、プレゼンテーション・レポート評価および期末試験の成績によって評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	開講に際して注意点および導入講義を実施
2	ベンチャーとは？	ベンチャービジネスに関する解説講義
3	事業計画とは？	事業計画の立案に関する講義
4	事業計画演習１	アイスクリーム市場に関する演習
5	事業計画演習２	事業アイデアに関する演習
6	事業計画演習３	顧客・ポジショニングに関する演習
7	事業価値	事業価値に関する講義
8	食品と健康	オーガニック、ヴィーガンの概念について解説
9	資金・コスト	事業計画における資金・コストに関する講義
10	資金・コスト演習１	利益モデルに関する演習
11	資金・コスト演習２	調達、コスト管理に関する演習
12	資金・コスト演習３	キャッシュフローモデルに関する演習
13	事業計画立案演習	学生による事業計画立案
14	事業計画プレゼン	学生による事業計画のプレゼンテーション、評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教材はとくに使用しません、講義中に参考文献を指示します。

【履修条件等】

◇原則として秋学期の「新事業創造論（片山源治郎)」(他学科科目）の履修が条件です。

◇この授業は単なる講義ではありません、遅刻、欠席はもとより授業途中で居眠りや講義と関係ない作業を行った学生は即時履修停止になります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中に課題が提示されますので、期日までに課題を実施してください。

◇課外学習を行う場合があります､詳細は講義で説明します。

【その他の注意事項】

◇この講義を履修すれば、ビジネスそのものに触れることができます。
皆さんにとって大きなチャンスです。
しかし、単位取得だけを目的に履修する学生はこの講義は適していません。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

ベンチャービジネス論	キン ヒロムネ 金　弘宗
Venture Business	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

企業は日々直面する課題に対して解決策を見出し社会に価値を提供する存在です。企業活動を通じて得られた経験や大学の研究成果等を統合させた有益な技術を社会に普及させることで、より賢慮に満ちた未来社会が創り出せると考えます。

本授業はその担い手として期待されるベンチャー企業を創業したい、また企業に就職してリーダーシップを発揮したいという夢を持つ学生を対象とします。授業では時にゲスト講師を迎えつつ、プレゼンテーションを繰り返すスタイルで技術や必要な知識を理解しながらビジネスを考えます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1)ベンチャービジネス論の方法論	ベンチャービジネス論の講義・演習中に登場する概念の意義および研究手法の理解度を講義中の質疑、レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
2) ベンチャービジネス論の最新論点の理解	ベンチャービジネス論で紹介する最新論点を理解し、課題などを正確に理解しているか、講義・演習中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
3)分析力	学習・到達目標(1)、(2)を前提として、ベンチャービジネス論で習得した知識を活用し、企業の経営課題を発見できるか、講義・演習中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
4) ベンチャービジネス論を生かした事業創造の方法論の理解	学習・到達目標(1)、(2)および(3)を前提として、経営情報を生かした事業の方法論を理解しているかについて、講義・演習中の質疑レポートおよび期末試験によって、客観的に評価する。	25%
評価の方法　評価配分は、演習での発表内容、期末試験・レポートを60%、演習参加姿勢、演習参加態度を40%として評価します。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	導入講義	開講に際して注意点および導入講義を実施
2	ベンチャー企業の意義	ベンチャー企業、ビジネスの概要について解説
3	事業計画総論	事業計画とは何かについて解説
4	市場調査	事業計画の前提となる市場調査の解説
5	市場分析	市場データに基づく市場分析の解説
6	事業アイデア総論	事業アイデア創造に関する解説
7	事業価値	事業価値に関する講義
8	事業価値評価	事業価値の定量評価に関する解説
9	資金・コスト	事業計画における資金・コストに関する講義
10	資金計画	資金計画に関する講義
11	コスト管理	事業に関するコスト計算の講義
12	キャッシュフロー	キャッシュフローに関する解説
13	売上予想	事業計画における売上げ予想について解説
14	事業評価	事業計画の評価方法について解説
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇演習で取り扱う情報技術、事例は最新のものが多いので、テキストの内容がすぐに陳腐化するため教科書を指定しない。その代わり、関係資料、講義資料などを配付する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇演習において指示された資料やウェブサイトを必ず事前に調べ、その内容について簡単にまとめておくこと。なお、予習課題を提示する場合もあるので、授業中の指示に従うこと。

【その他の注意事項】

◇授業中の私語、無断退席、私用でのスマートフォンなどの携帯端末の使用、内職は厳禁、これを守れない社会常識のない学生は履修停止とする。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

人的資源管理論Ⅰ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Human Resource Management Ⅰ	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、ＤＶＤなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人的資源管理の「目的・歴史・制度」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「人的資源管理の目的・歴史・制度」に関連する用語とその意味を答えられること。	25%
「終身雇用・年功序列・企業別労使」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「終身雇用・年功序列・企業別労使」に関連する用語とその意味を答えられること。	25%
「多様な働き方・ワークライフバランス」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「多様な働き方・ワークライフバランス」に関連する用語とその意味を答えられること。	25%
「バブル経済後の人的資源管理の状況」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「バブル経済後の人的資源管理の状況」に関連する用語とその意味答えられること。	25%
評価の方法　期末試験55点、レポート・小テストなど30点、出席15点 ※レポート試験を１回行う予定。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の目的	人的資源管理の役割と目的とは何か
3	人的資源管理の歴史①	人的資源管理はどのように生まれてきたか
4	人的資源管理の歴史②	人的資源管理はどのように発達してきたか
5	人的資源管理の制度	人的資源管理の制度
6	日本の人的資源管理①	日本の人的資源管理はどのように発展してきたか
7	日本の人的資源管理②	終身雇用慣行とは何か
8	日本の人的資源管理③	年功序列慣行とは何か
9	日本の人的資源管理④	企業別労使関係とは何か
10	多様な働き方	パート・アルバイト・限定正社員
11	多様な職業人生	ワークライフバランス
12	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
13	現代の人的資源管理①	バブル経済後の人的資源管理
14	現代の人的資源管理②	経営戦略と人的資源管理
15	試験	試験および解説

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版)』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメには教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅱ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

人的資源管理論Ⅱ	高橋（タカハシ）　哲也（テツヤ）
Human Resource Management II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

働く人間というのは生産のための手段であると同時に感情を持つ存在でもあります。人間を「資源」として捉えると、モノ扱いしてしまうように聞こえてしまいます。やはり感情を持つ存在という点を無視してはいけません。感情を持つ資源という認識のもとでいかに管理するのか、この点について講義していきます。講義はレジュメに沿って進めていきます。また、ＤＶＤなどの映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「従業員の採用・雇用調整」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員の採用・雇用調整」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の配置と育成」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員の配置と育成」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員能力の発揮と活用」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員能力の発揮と活用」に関連する用語とその意味を答えられること	25%
「従業員の評価と処遇」について理解し、説明ができるようにする	空欄補充形式の設問に対しての回答により評価。「従業員の評価と処遇」に関連する用語とその意味答えられること	25%

評価の方法　期末試験55点、レポート・小テストなど30点、出席15点
※レポート試験を１回行う予定。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法など
2	人的資源管理の機能	経営における人的資源管理の機能
3	従業員の採用①	新卒採用の手続き
4	従業員の採用②	新卒者の早期離職と雇用のミスマッチ
5	雇用調整	従業員の離職・退職と雇用調整
6	従業員の配置と育成①	人事異動制度の内容
7	従業員の配置と育成②	教育訓練・能力開発
8	従業員能力の発揮と活用①	従業員業績の向上の公式とメカニズム
9	従業員能力の発揮と活用②	職場管理者のリーダーシップ
10	従業員能力の発揮と活用③	労働環境の快適化と新たな勤務形態
11	現代日本の人的資源管理	【レポート課題】
12	従業員の働きぶりの評価と処遇①	人事評価制度の手続き
13	従業員の働きぶりの評価と処遇②	処遇評価の成果主義化
14	従業員の働きぶりの評価と処遇③	今日の福利厚生
15	試験	試験および解説

【使用教材】

◇教科書：岩出博著『新・これからの人事労務（改訂版)』泉文堂

※レジュメを配布します。

レジュメでは教科書にない情報も追加していきます。

【履修条件等】

◇必ず「人的資源管理論Ⅰ」と併せて履修するように。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所を事前に目を通してくること。

◇配布資料に記載したキーワードを調べること。

【その他の注意事項】

◇基本的にはレジュメの再配布はしませんので注意してください。

◇レポートの提出を求めます。詳細は初回授業時に連絡します。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

知的財産法	タカマル　リョウタ 髙丸　涼太
Intellectual Property Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

本講義は、知的財産法の概要と個別法の基礎的知識を理解・習得するとともに、それらを応用し、現実に生起する問題を発見・解決する能力を涵養することを目的とします。本講義では、知的財産法と総称される法律群のうち、特許法、著作権法、商標法、不正競争防止法を主な対象としますが、本学のカリキュラムの特性等に鑑み、それらのなかでもとくに著作権法に重点を置くこととします。もっとも、「知的財産法」の講義である以上、個別法単独の知識等の解説にとどまらず、各個別法相互の関連性をも重視して講義を行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
①知的財産法の概要と各個別法の基本的知識の理解・習得	知的財産法の概要を理解するとともに、各個別法の基本的知識を習得できているかについて、学期末試験によって評価します。	40%
②各個別法の特徴と相互関係の理解	各個別法の保護領域等の特徴と相互関係を理解できているかについて、学期末試験によって評価します。	30%
③上記①、②の各理解等に基づく、具体的な事例における問題発見	本講義で習得した知識等を元に、具体的な事例の下で知的財産法上の問題を正しく捉えることができるかについて、学期末試験によって評価します。	15%
④上記①、②の各理解等に基づく、上記③の問題の検討と解決	本講義で習得した知識等を元に、具体的な事例における知的財産法上の問題に対して適切な解決策を示すことができるかについて、学期末試験によって評価します。	15%

評価の方法　原則として学期末試験によって評価しますが、積極的な講義への参加等があった場合には、相応の加点をする場合があります。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の内容、評価方法等の説明
2	知的財産法総論	知的財産法の全体像
3	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(1)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
4	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(2)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
5	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(3)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
6	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(4)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
7	コンテンツビジネス・エンターテインメントと知的財産法(5)	著作権法、パブリシティ権等の基礎
8	技術開発と知的財産法(1)	特許法、不正競争防止法等の基礎
9	技術開発と知的財産法(2)	特許法、不正競争防止法等の基礎
10	ブランド・デザインと知的財産法(1)	商標法、不正競争防止法、意匠法等の基礎
11	ブランド・デザインと知的財産法(2)	商標法、不正競争防止法、意匠法等の基礎
12	知的財産法の現代的課題(1)	実務的な事例等に見る知的財産法の現代的課題
13	知的財産法の現代的課題(2)	実務的な事例等に見る知的財産法の現代的課題
14	知的財産法の現代的課題(3)	実務的な事例等に見る知的財産法の現代的課題
15	総括・達成度の確認	今までの講義内容の総括と学習達成度の確認テストの実施

【使用教材】

◇教科書は指定しませんが、特許法、著作権法、商標法、不正競争防止法の４法については、手元で条文を参照できるようにしておいてください。

【履修条件等】

◇法学系科目の知識（特に民法の知識）があることが望ましいです。また、知的財産法は独占禁止法・競争法とも密接に関連しているので、「経済法」の履修も本講義の内容の理解に資すると思います。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要がある場合は、その都度指示をします。

【その他の注意事項】

◇受講者の関心や要望等に応じて、授業計画を変更することがあります。

◇私語や正当な理由のない入退室等、講義に支障を来す行為があった場合は、受講をお断りすることがあります。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

労働法	黒岩（クロイワ）　容子（ヨウコ）
Labor Law	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

この講義では、労働法の基本的枠組みや考え方、基礎知識を学びます。現代社会では、人々の多くが雇用されて働き賃金を得て生活し、また、企業は人を雇うことによって営業活動をしています。人を雇うとき、雇われるときの基本的なワーキングルールやその考え方を知っておくことは、自らが尊厳をもって生きていくためにも、公正な社会を築くうえでも必要不可欠なことです。この授業で、是非、生きた労働法の知識を身につけてください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
労働法の理念・基本的枠組み・考え方を理解する	基本的な理解ができているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
労働法の基礎的知識を習得する	基礎的知識を取得できているかを、テストおよび授業中の質疑の中で判定します。	40%
事実に基づいて論理的に思考する姿勢の習得	テストおよび授業中の質疑のなかで判定します。	20%

評価の方法　期末テスト50%の他、授業中に中間小テスト40%を行います。
また授業中の質疑等への貢献度10%も評価します。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	労働法の特徴。労働法の学び方。
2	労働法の歴史と機能	雇用システムと労働法
3	労働法上の当事者。 労働条件の決定	労働者、使用者、労働組合。 労働法・労働契約・就業規則・労働協約
4	労働契約の成立	就職・採用に関する法的ルール
5	賃金	賃金に関する法的ルール
6	労働時間・休日・休暇	労働時間・休日・休暇に関する法的ルール
7	人事異動	配転、出向、移籍に関する法的ルール
8	労働契約の終了	退職、解雇、雇止めに関する法的ルール
9	差別・ハラスメント	職場の差別やハラスメントの撤廃と法
10	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスに関する法的ルール
11	非正規雇用問題	パート・アルバイト・契約社員・派遣社員と法的ルール
12	集団的労使関係	労働組合、団体交渉と労働協約
13	職場の安全衛生	労働災害、過労死問題
14	労働をめぐる紛争	職場のトラブルとその解決手段
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用しません。授業の際にレジュメおよび資料を配付します。

◇参考書として、浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法　第６版補訂版』有斐閣アルマ、2016年。
また、授業のなかで参考文献を紹介します。

【履修条件等】

◇とくに条件はありませんが、「法学Ⅰ」、「法学Ⅱ」等の法律科目をすでに履修ずみ、ないし同時に履修していることが望ましいです。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇現実の社会で、労働に関してどのよう問題が生じているのか、新聞報道などに注意を払い、問題関心を持って授業に臨んでください。また、しっかり復習して、基本的知識を確実に習得してください。

【その他の注意事項】

◇進行状況および受講生の問題関心等によって、スケジュールを変更することがあります。

◇また、授業中は私語厳禁です。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

キャリア発達心理学	伊波（イナミ）　和恵（カズエ）
Career Development	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

一生涯を通じて、私たち人間はつねに発達し続ける存在です。この講義では、生涯発達心理学の観点から、胎生期から死に至るまでを範囲とし、とくに成人期に焦点をあて、人の心理社会的な変化のプロセスに関する知識と考え方を学びます。学習を通じて、人間理解の幅を世代的におし広げ、考察を深められるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生涯発達心理学の理論	試験の設問に対する解答によって評価。生涯にわたる心理社会的発達に関する概念の定義や用語について適切に答えることができ、また説明できる。	10%
各年代の固有の特徴	設問に対する解答によって評価。胎生期～成人期～老年期、死にいたる人生の各段階における心理的危機と社会的適応について理解が十分であること。	25%
成人期の課題と社会性の発達	レポート課題・設問に対する解答によって評価。働き盛りである成人期中期の心理社会的特徴を理解し、社会性に注目して考察を適切に行えること。	35%
キャリア発達	レポート課題ならびに設問に対する解答によって評価。とくに成人期の能力(キャリア)発達に関する基本的な枠組みや、それらの意義について理論や実践を通じて理解し、的確に答えられること。	30%

評価の方法　70%以上の出席を前提として、平常点(ミニレポート・授業参加度等)20%・試験（持込一切不可）60%・レポート（中間試験に代わる課題）20%を勘案して、総合的に評価する。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	生涯発達とは？	生涯発達心理学の考え方、発達段階説
2	胎生期	胎生期の発達
3	乳幼児期(1)	心身の発達、愛着関係、社会性／相互作用性の発達
4	乳幼児期(2)	認知的発達
5	乳幼児期(3)	情緒的発達
6	児童期(1)	認知的発達
7	児童期(2)	社会性の発達
8	青年期(1)	思春期と青年期、マージナルマンとしての青年
9	青年期(2)	アイデンティティと職業選択、モラトリアム、社会的ひきこもり
10	成人期(1)	職業的キャリア
11	成人期(2)	ワークライフバランス／ワークライフコンフリクト
12	成人期(3)	働き盛りとメンタルヘルス
13	老年期(1)	老年期の特徴、健康な老い、ＱＯＬとＡＤＬ
14	老年期(2)	認知症、エンディング
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：藤村宣之 編著『発達心理学―周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本)』ミネルヴァ書房

◇参考書：菅野幸恵・他『エピソードで学ぶ赤ちゃんの発達と子育て―いのちのリレーの心理学』新曜社

岡本依子・他『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学―関係のなかでそだつ子どもたち』新曜社

岡村一成 監修『ゼロから学ぶ経営心理学』学文社、その他、講義中に紹介。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの関連箇所を熟読しておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業中のスマートフォン、携帯電話等の電子機器類の使用は原則として認めない。

◇課題は期日どおりに提出すること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

キャリア発達心理学	松田（マツダ）　美登子（ミトコ）
Career Development	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

「人生とキャリア」をメインテーマに、一生涯の長いスパンからキャリアを考える。「仕事探しは自分探し」として、自己理解を図るための心理テストやワークシートを施行する。さらに、コミュニケーション・スキルを高めるための体験（ワーク）を行う。最後には、それらをまとめて「セルフ・ポートフォリオ」を作成する。「セルフ・ポートフォリオ」は自己ＰＲにも活用して欲しい。自己とキャリアについての理解や関心を深めることでキャリア設計に対して前向きに対処できるようになることを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の一生（生涯発達）とキャリアとの関連性について理解する	試験による評価。人間の発達段階について学習する。発達段階とキャリア観の発達との関連性について理解する。自己とキャリアについての関心を深めることで、キャリア設計に対して前向きに対処できるようになる。	50%
自分を内省し自己理解を図るための課題を実施する	心理テストやワークシート等の課題の提出により評価する。複数の心理テストとワークシートを実施するため、欠席するとかなりの負担となる。心理テストやワークシートの施行を通じて自分と向き合い自己理解を図ることができる。	20%
「セルフ・ポートフォリオ」を作成する	「セルフ・ポートフォリオ」を作成し提出することで評価する。心理テストやワークシートを通じてさまざまな視点で自分を見つめ自己理解を図ることができる。さらに、これらをまとめて「ポートフォリオ」として仕上げる。言わば、「自分の統合」である。これにより、自分を客観的に理解することができる。	20%
コミュニケーション・スキルを高める	小グループによる体験（ワーク）に意欲的に参加することで評価する。アサーション（さわやかな自己表現）について学ぶ。さらに、実際に体験することで、コミュニケーション・スキルを高める。	10%
評価の方法　①平常点（授業後のリアクションペーパーの提出）10% ②レポートおよび宿題提出、ワーク（体験学習）40% ③定期試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	講義の進め方および評価方法についての説明 キャリア発達心理学とは？
2	キャリアとは	キャリアについての定義・分類
3	人生とキャリア	生涯発達の視点からキャリアを考える
4	青年期の発達と危機	アイデンティティ拡散と職業未決定
5	成人期の発達と危機	職業的アイデンティティと職場環境への不適応
6	中年期以降の発達危機	人生後半を生きる　キャリア観の問い直し
7	ﾗｲﾌｻｲｸﾙ･ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	誕生から死までのライフラインを描いてみよう
8	自己とキャリアの探求①	キャリアの３条件　パーソナリティを知る(性格)
9	自己とキャリアの探求②	好きなことを知る（職業興味）得意なことを知る（強み）
10	ストレス・マネジメント①	自分のストレスを測ってみよう！
11	ストレス・マネジメント②	ストレス・コーピング（ストレス対処法）を知る
12	コミュニケーション力を高める①	自分のコミュニケーション・タイプを探る
13	コミュニケーション力を高める②	アサーション（自己表現）のワーク
14	自己ＰＲに活かす	「セルフ・ポートフォリオ」作成
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用しない（適宜、プリントを用意します)。

【履修条件等】

◇自分自身の人生設計、キャリア・マネジメントに興味がある方。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

◇宿題が与えられた際は、提出できるように仕上げておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

商品論	田口（タグチ）　冬樹（フユキ）
Product Management	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

市場には多くの新しい商品が提供されているが、ヒット商品として支持され、ロングセラーにまで発展できる商品は限られている。この講義では、新商品の開発と提供のプロセスを中心に理解を深めることをねらいとしている。一般の消費財だけでなく、企業で必要なビジネス財、飲食やエンターテインメントのようなサービス、アニメや小説などのようなコンテンツ、さらには観光地や水族館のような場所や施設といった商品も対象とし、また商品の安全性確保・資源保全・環境保護の視点からも広く検討を加え、現代に求められる商品論を提案したい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
商品とサービスの役割を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。商品とサービスの関係、商品の構成要件と分類、商品化の仕組み、サービスの商品特性について答えられること。	20%
新製品開発と製品ライフサイクルの両プロセスを関連づけて説明できること	設問に対する解答によって評価。消費者サイドのニーズと企業サイドのシーズの役割、新製品の市場導入による普及のプロセス（キャズムの意味)、コモディティ化について理解し、説明ができること。	20%
現代の商品に求められる社会的条件として、環境・資源・安全性について課題を考察し、理解を深める	設問に対する解答によって評価。現代の商品に求められる品質、エコや安全性、下取りといった問題について、その背景になっている課題を整理し、製品開発や提供の問題点を指摘できること。	30%
商品に対する調査と課題発見および改善提案を行う	設問に対する解答によって評価。身近な商品を取り上げて、企業サイドからはＳＷＯＴ分析、消費者サイドからは購入・利用・処分の問題点の発見を通してその商品の改善提案書が作成できること。	30%
評価の方法　定期試験70%、授業内実施の小テスト20%、授業への貢献10%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義のねらいと進め方
2	商品とは何か	商品の意味と商品化の仕組み、便益の束とは
3	現代の商品概念	商品とイノベーション：顧客が片づけたい仕事とは
4	消費財とビジネス財	使用目的・顧客対象の違いとは：ミシュランガイドのねらい
5	サービス商品	サービスの商品特性とサービス・ドミナント・ロジック
6	製品計画	ニーズとシーズ、マーチャンダイジングとＳＰＡ
7	新製品開発の戦略	ケーススタディ：ユーザー・イノベーション、ＳＮＳの活用
8	製品ライフサイクル	新製品の普及とコモディティ化
9	市場細分化	ＳＴＰとは何か
10	フリーのねらい	商品と価格の関係
11	ブランドと商品	ブランドの役割と戦略のタイプ、ブランドロイヤルティの意味
12	ブランド戦略	ケーススタディ：ＮＢとＰＢ、ＯＥＭ、地域ブランドの展開
13	日本市場とブランド	日本人のブランド観、新興国のケース
14	商品企画＆改善提案	各自が考える商品企画および改善の提案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：田口冬樹著『マーケティング・マインドとイノベーション』白桃書房

◇参考書：田口冬樹著『流通イノベーションへの挑戦』白桃書房
授業開始時ならびに必要に応じて紹介、とくに「リテールマーケティング（販売士)」資格の受験講座の解説書なども授業時に紹介。

【履修条件等】

◇マーケティング関連科目（「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」、「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、など）を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時に予告した問題に関し、教科書をよく読んで関連する事例を調べ関心を高めておくこと。

【その他の注意事項】

◇身近な問題を取り上げるとはいっても、自分で課題を発見し、よく調べて授業に出席すること。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

環境経営学	藤森（フジモリ）　大祐（ダイスケ）
Environmental Management	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

環境問題は現代の企業において積極的に対応すべき必須の課題となっている。近年話題となっている環境問題としては、地球温暖化やエネルギー問題が挙げられるが、本講義ではそれらの現代的な環境問題よりも以前から起きていた問題にも焦点を当てて講義を展開していく。 具体的には、初期の公害問題として知られている足尾銅山問題や四大公害問題などから考察していくことで、環境問題と企業の関係の本質的問題を捉えていく。それらをベースにして、地球環境問題の代表的な問題を考察しながら、現代の企業の課題を考えていきたい。また、後半では廃棄物問題への対応、リサイクルの推進、エネルギー問題などに関する企業の取り組みを見ていく。最後に、環境マネジメントシステムなど、環境経営の代表的なツールについて論じる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
さまざまな環境問題の基礎知識を習得する	試験やレポートよって知識を問う。	30%
環境問題と企業との関係を理解する	試験やレポートによって企業と環境問題がどのような関係にあるかを問う。	30%
環境問題への企業のあり方を理解する	試験やレポートによって、企業が環境問題に対してどのような取り組みをしているか、またどのような取り組みをしていく必要があるかについての理解を問う	40%
評価の方法　70%以上の出席を前提とし、試験60%、レポート30%、平常点10%で評価する。 試験は定期試験によって評価し、平常点は講義内での態度やコメントなどで評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	講義ガイダンス	講義の概要、進め方、評価方法など
2	足尾銅山問題	銅山による鉱毒と煙害、問題の構造
3	水俣病問題	水銀汚染と企業の対応、問題の構造
4	四大公害	四大公害の概略と企業の対応
5	公害対策の進展と後退	四大公害の反省としての対策とその後退
6	公害輸出問題	公害輸出の事例とその概要
7	地球環境問題の概要	地球環境問題の特質、現状の把握、企業の役割
8	オゾンホール問題	オゾンホールの原因と防止策
9	地球温暖化問題	温暖化のメカニズム、温暖化対策
10	エネルギー問題	自然エネルギーと化石燃料、原発
11	廃棄物問題	廃棄物の現状と問題点、適正処理の取り組み
12	リサイクル	リサイクル社会に向けてのさまざまな取り組み
13	環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムの概要、効果と問題点
14	環境コミュニケーション	環境コミュニケーションの概要、実践事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくに指定しない。随時必要な資料を配布する。

【履修条件等】

◇少なくとも「経営学概論」を取得していること。できれば他の経営学の主要科目を取得していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇シラバスに従い、次回の内容について簡単に調べ、予備知識を得ておいてもらいたい。

【その他の注意事項】

◇講義内容を参考にさまざまな問題に関心を持って自発的に学んでもらいたい。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

管理会計論Ⅰ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Management Accounting Ⅰ	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどう経営管理に用いるかについて理解する必要があります。その中で春学期は、管理会計に用いる経営情報の作成方法および、計算手法が開発された背景に焦点を当て学習を行います。

講義は、解説→演習の流れで行い、講義ごとのテーマが講義中に理解できるよう進めていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
総合原価計算と標準原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 とくに、同じ計算手続きに用いるデータの違い・データの違いにより生じる差が、経営管理上でどのように活用されるか理解してください。	30%
直接原価計算と全部原価計算を理解する	設問に対する回答により評価します。 直接原価計算と全部原価計算の計算手続き上の特徴を理解することが重要です。	30%
ＣＶＰ分析とその利活用に関して	設問に対する回答により評価します。 ＣＶＰ分析が必要になる場面、得られた情報をどう解釈するかを理解することと、計算手続きの一連の流れを理解することが必要になります。	30%
経営シミュレーションゲームを通して管理会計上で使われる経営情報の有用性を確認する	講師が作成した経営シミュレーションゲームを受講者全員でプレイしてもらいます。そのゲームを通して生じるデータから管理会計上で生じる経営情報を作成し、その活用を実体験することで、管理会計が経営管理を行う上で必要であることを理解ください。	10%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、課題および小テスト点30%、期末試験60%で評価します。※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。

課題および小テストは、テーマごとに行うので２～３回の実施を予定しております。

貢献点は、経営シミュレーションゲームを行った講義後および、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義に関連する日商簿記検定試験に関しての説明、本講義の進め方、評価方法などに関しての説明
2	ＣＶＰ分析(1)	損益分岐点売上高に関する説明と計算演習
3	ＣＶＰ分析(2)	利益計画で行うＣＶＰ分析の実践
4	ＣＶＰ分析(3)	ＣＶＰ分析総まとめ
5	標準原価計算(1)	標準原価計算が開発された背景に関する説明と標準原価計算の基本的な計算手続きの実践
6	標準原価計算(2)	標準原価計算から得られる情報と実際原価計算から得られる情報を比べることにより算出される情報の活用
7	標準原価計算(3)	予算管理と業績管理に関する説明
8	標準原価計算(4)	標準原価計算総まとめ
9	直接原価計算(1)	直接原価計算が開発された背景に関する説明
10	直接原価計算(2)	直接原価計算による計算手続きの実践
11	意思決定会計(1)	短期的な経営意思決定を支援する情報作成
12	意思決定会計(2)	中・長期的な経営意思決定を支援する情報作成
13	講師が開発した講義の実践	経営シミュレーションゲームを用いた管理会計情報の必要性の認識
14	春学期講義内容まとめ	期末テスト前に春学期で学習した内容を総括して復習を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇「工業簿記Ⅰ」（他学科科目)、「工業簿記Ⅱ」（他学科科目）もしくは、日商簿記２級同等の知識を有することを前提とします。難易度の高い計算演習を行うため、その事を念頭に講義を受講してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇講義中だけでは問題演習をこなすことは出来ないため、必要に応じて講義終了後に課題を出します。必ず課題を行うようにしてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

管理会計論Ⅱ	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Management Accounting II	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

管理会計とは、組織管理・経営企画等に不可欠な経営情報を提供する理論と技術であると言えます。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に数値情報を算出するだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるか、数値情報をどう経営管理に用いるかについて理解する必要があります。秋学期は、管理会計に関する情報や手法をいかに使いマネジメントを行うか理論的に学習し、その後に興味のあるテーマを元にグループワークを行ってもらいます。このグループワークという作業を通して管理会計上のマネジメント手法の理解を深めるとともに、グループワークの難しさを理解し習得してくだされば幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
管理会計がなぜ必要なのかを理解する	管理会計情報でなぜ経営管理を行うことや業績管理を行うことなどが可能になるのかを理解しましょう。	30%
会計情報と業績管理の関連性を理解する	業績管理をするときに、どのような会計情報が求められるのか、会計情報をどの様に使うのかを理解しましょう。	20%
管理会計を行う上での組織の在り方との関係を理解する	企業の組織構成というものはさまざまな形があることは言うまでもないでしょう。さまざまな組織がある中で、管理会計手法に違いはあるのか、それとも共通性があるのか設例を通して学びましょう。	20%
グループワークを通して、管理会計の事例を研究しよう	管理会計の理論を講義で学んだあとに、興味のある管理会計手法に関してグループワークを行うことで理解を深めましょう。その中で、プレゼンの仕方・資料の作り方など指導します。	30%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験30%、グループワーク60%で評価します。※期末試験・グループワークに関しては講義中に補足説明します。
グループワークのグループ決めは講義第２回目に行います。必ず出席するようにしてください。
貢献点は、講義のいずれかの段階で講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	本講義の進め方、評価方法などに関して
2	管理会計総論	なぜ管理会計が必要なのか等を講義
3	管理会計の組織構造と管理者	管理会計上の組織構造やそれに伴う管理者の在り方に関して講義
4	予算管理	原価情報と予算管理に関して
5	原価計算の限界	原価計算を行って管理を行う上での限界に関して
6	事業管理会計	細分化された企業組織を管理する事に関して
7	プロフィットセンター	企業内の組織が利益計算を行う意義に関して
8	アメーバ経営	細分化された企業組織をマネジメントする手法の一つ
9	同じ経営戦略をとる企業の違い	低価格戦略をとる企業でも管理会計の視点から細かく分析すれば違いが見える。事例を通して講義
10	さまざまな管理会計情報作成	既存の管理会計情報の上に成り立つ情報作成手法を説明
11	ＪＩＴ(ジャストインタイム)	ＪＩＴに関して講義
12	Ｊコスト論	Ｊコストに関して講義
13	グループワーク発表(1)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
14	グループワーク発表(2)	グループで調べた内容のプレゼンおよび評価
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇毎回の講義でレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、教科書・問題演習用の教材は、必要な場合開講時に指示をします。

◇本講義では資料は電子媒体での配布を前提としております。紙媒体の資料が必要な場合は講師にご相談ください。

【履修条件等】

◇「工業簿記Ⅰ」（他学科科目)、「工業簿記Ⅱ」（他学科科目）もしくは、日商簿記２級同等の知識を有することを前提とします。また、グループワークを行いますので途中で履修を取りやめる方はご遠慮ください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇グループワークの内容が決まり次第、各グループで報告に向けてリサーチをすること。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。

◇講義内容は講義の進捗や受講生の理解度に応じて変更がある場合があります。

◇講義の妨げになる行為を行った場合、講師から指導が入ります。指導の回数次第で履修停止となる旨、ご了承ください。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

イベントデザイン	北原（キタハラ）　隆（ユタカ）
Designing Events	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

イベントデザインの世界に進むための基礎知識＋その応用を学びます。

イベントには多種多様な形があり、それぞれのケースで求められるものが違います。なるべく多くのケーススタディに触れることでその違いを知り、未知なるものにそれを応用する力を養います。

会場図などを理解し、簡単な図面やスケッチが描けることはイベントの現場ではとても重要なことです。プランニングやデザインのイメージを共有することの大切さを知り、イベントの現場での意思疎通を助ける表現技術を身につけます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントデザインに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントの現場での意思疎通を助ける表現技術についての手法を知り、説明できる。	15%
さまざまなイベントの特徴を理解する	設問に対する回答によって評価。 さまざまなイベントのケーススタディに触れ、その特徴を理解し、説明できる。	15%
イベントデザインに必要な表現力を身につける	日々の課題に対する表現によって評価。 会場図などを理解し、簡単な図面やスケッチが描けることはイベントの現場ではとても重要なことである。その最低限のスキルを身につけ、表現できる。	40%
自らのイベントデザインを組み立てる力を身につける	課題とレポートよって評価。 オリジナル企画のイベントをデザインし表現して、相手に提案し、そのイメージを伝えることができる。	30%
評価の方法　日々の課題70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	さまざまな会場、さまざまなスタイル
2	イベントデザインの基礎	ラフスケッチ　「てきとう」と「ラフ」は違う
3	色と光について	色が同じにならない理由とは
4	ゾーンニングについて	テーマパークの仕組み　その裏側　Qライン
5	導線計画について	お化け屋敷の仕組み　迷わせる仕組み
6	ビジネス DAY と一般 DAY	展示会　ゲームショーやモーターショー
7	限られた人に向けたイベント	制作発表会
8	さまざまな目線を考える	着ぐるみイベント　着ぐるみの使用上の注意
9	舞台とステージの違い	ライブイベント　ライブとはどういうことか
10	真っ暗闇の中でのイベント	ダイアログインザダーク　暗闇のエキスパート
11	二回参加できないイベント	脱出ゲーム　リピーターが生まれる理由
12	限定品と警察と保健所	物販イベント　食品の取り扱い
13	展示手法と額装	展覧会　アニメ原画展
14	主要出演者が全員プロじゃない	コンベンション　企業イベント　同通と中継
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用せず、授業時に資料を配布する。

◇巻尺および三角スケール。

【履修条件等】

◇幅広くイベントに興味を持ち、その仕組みを知りたいと考えていること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報について、常にアンテナを張り興味と関心を持つこと。

◇なるべく多くのイベントに参加し、プロの目を養う訓練をすること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

観光イベント	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Events in Tourism	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

観光イベントは、観光地への誘客イベント、観光地での観光客向けイベント、おもてなしプログラムなど観光地のイベントについても学び観光ツアーなどのイベントの準備・事例をあげながら学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
観光に関する基礎知識を理解する	設問に対する回答による評価。 観光とは、何かについて答えられる。	20%
幅広いジャンルとカテゴリーを説明できる	設問に対する回答による評価。 ジャンルやカテゴリーごとに成立する機能と役割について基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通してプロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイディア、企画のレポートによって評価。イベントプロデュース発想で、課題に対しユニークで斬新なアイディアが提供できる	30%
評価の方法　授業時レポート70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	観光資源とは	観光資源とは何かについて理解する
2	自然観光資源１	国立公園、世界遺産などについて学ぶ
3	〃　　２	温泉、山岳などについて学ぶ
4	文化観光資源１	神社・寺院・教会、城跡・城郭などについて学ぶ
5	〃　　２	建造物などについて学ぶ
6	〃　　３	年中行事などについて学ぶ
7	〃　　４	テーマパーク、食などについて学ぶ
8	〃　　５	芸能・興行などについて学ぶ
9	イベントの構成要素	イベントの基本的な構成要素　６Ｗ２Ｈについて学ぶ
10	イベントの分類	分類分けなどについて学ぶ
11	イベントの効果と役割	効果と役割などについて学ぶ
12	イベントを担当する人々	スタッフの仕事などについて学ぶ
13	イベントの計画	観光イベントのプランニングなどについて学ぶ
14	イベントプロデューサー	権利と義務などについて学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業時に教材を配布。各自ファイルを購入して綴じること。

◇ＰＣ（パワーポイント、エクセル、ワード)。

◇ＤＶＤ

◇参考書　必要があれば適時紹介する。

◇必要があれば観光庁のＨＰよりダウンロードしてもらう。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心をもつこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

スポーツイベント	佐藤（サトウ）　潤（ジュン）
Sporting Events	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

・スポーツイベントを企画・実施するに際し、必要な知識を身につける。
・スポーツの歴史、ビジネス化の歴史を学び、現在のスポーツイベントビジネスの構造を理解する。
・具体的事例として３大スポーツイベントであるオリンピック、サッカーワールドカップ、ラグビーワールドカップについてマーケティング、イベントの視点より学ぶ。
・近年のスポーツの価値の拡がりをＩＴ、ツーリズム・地域活性化などを事例に学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
スポーツイベントの現状とその構造を理解する	設問に対する回答により評価する。 スポーツ全般に加えてとくにオリンピック、ラグビーワールドカップ、ワールドマスターズの３大イベントについて学ぶ。	30%
スポーツイベントのマーケティングを理解する	設問による回答により評価する。 スポーツイベントのマネタイズの仕組みを事例を通して学ぶ。	40%
スポーツを取り巻く新しい動きについて理解する	レポートの提出により評価する。 スポーツ行政、スポーツツーリズム、大学スポーツの活性化などの動向について学ぶ。	30%

評価の方法

評価の方針　毎回のレポート（授業中の最後に記入）60%、テスト40%

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	イントロダクション	これから学ぶスポーツイベントの概略を知る
2	スポーツの歴史	スポーツの歴史を知る
3	スポーツビジネスの歴史	スポーツビジネスの歴史を知る
4	スポーツビジネスの今	スポーツの現状をさまざまな数字から読み解く
5	スポーツビジネスⅠ	スポーツビジネスの構造について学ぶ
6	スポーツイベントⅡ	スポーツイベントの企画・運営とリスクについて学ぶ
7	前半の振り返り	確認中間試験
8	オリンピックビジネス	オリンピックイベントについて学ぶ
9	サッカーイベントビジネス	ワールドカップ他サッカーイベントについて学ぶ
10	ラグビー WC2019	2019年大会について学ぶ
11	スポーツイベントとメディア	テレビ他メディアとスポーツの関係について学ぶ
12	スポーツイベントと観光	スポーツツーリズムとコミッションについて学ぶ
13	スポーツイベントと行政	スポーツによる地域活性化について学ぶ
14	授業の振り返り	後半のテーマについて復習
15	達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は使用しません。

◇参考図書：広瀬一郎著『スポーツビジネス論』講義
西野努著『スポーツマネジメント入門』
スポーツイベント検定公式テキスト『スポーツイベントで』社会を元気にイベント産業振興協会編集
※その他テーマに応じて適宜紹介します。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞や雑誌、テレビなどで日本と世界の社会情勢やスポーツイベントの動きをチェックしてください。
とくに2020東京オリンピック・パラリンピック関連や2019ラグビーワールドカップのニュースは興味を持ってみてください。

【その他の注意事項】

◇毎回授業の最後に小レポートを提出してもらいます。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

ユニバーサルイベント	奥（オク）　正孝（マサタカ）
Universal Event	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

イベントは本来、参加を希望するすべての人が困難なく快適に参加でき、充実したコミュニケーションが実現できる空間であることが望ましく、これまでの施設の設備や導線などへの配慮がされてきました。これからはさらに進めて、内容の企画や計画、会場設計から運営すべてにわたり、誰もが自由に気軽に参加でき、そして楽しめることを前提とした「ユニバーサルイベント」の発想が求められてます。当授業では特に障がい者スポーツのイベントをテーマに、ユニバーサルデザインやノーマライゼーションの考え方とイベントのあり方を考察します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ユニバーサルイベントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 ユニバーサルイベントとは何かについて答えられる。	20%
幅広いジャンルとカテゴリーを説明できる	設問に対する回答によって評価。 ジャンルやカテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通じて、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイディア、企画のレポートによって評価。	30%
評価の方法　受講態度50%、授業時レポート30%、期末試験20%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ユニバーサルイベントを学ぶ前に	なぜユニバーサルイベントが必要か
2	イベントの基礎知識	イベントの概念と分類
3	ユニバーサルイベントの概念	ユニバーサルイベントの4条件
4	ユニバーサルイベントの背景	ユニバーサルイベントを支える3つの大切な意識
5	広報・案内のアクセシビリティ	まず、イベントがあることを知らせる
6	施工のアクセシビリティ	アクセシブルな通路
7	サインのアクセシビリティ	イベント会場のサインの基本
8	動きの障がいがある人を理解	動きの不便さの代表な内容
9	情報の障がいがある人を理解	視覚障がいの種類
10	理解の障がいがある人を理解	理解の障がい
11	ユニバーサルオペレーションの事例	会場到着までのスムーズなご案内
12	ユニバーサルオペレーションの事例	受付から会場内のご案内と留意点
13	パラスポーツ	
14	パラリンピック競技	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業時にテキストや資料を配布。

◇パソコン

【履修条件等】

◇レポート・出席

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

セールスプロモーションイベント	清水（シミズ）　一郎（イチロウ）
Sales Promotion Event	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

入場料を徴収する音楽コンサートのような興行を除けば、イベントの多くは販売促進(セールスプロモーション)を目的に実施されています。流通店舗で行われる商品催事から始まり、その展開形態は多様性に富んでいます。販売促進の目的も、集客動員や使用体験の創出から、イメージ訴求、意識喚起まで幅広く、経済活動の一環として行われているために、社会全般に対する影響力も大きいものです。目的や機能と展開形態で分類し、イベントの社会的な価値を考察します。

全体の流れを百貨店（デパート）の例などを交え、具体的な催事についての理解を深めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
セールスプロモーションの基本を理解する	設問に対する回答によって評価。 セールスプロモーション、販売促進の重要性にについて答えられる。	20%
セールスプロモーションイベントの実施段階での理解を深める	設問に対する回答によって評価。 セールスプロモーションイベントを実施するために必要な項目を説明できる。	20%
セールスプロモーションイベントの管理項目について説明ができる	設問に対する回答によって評価。 セールスプロモーションイベントにおける時間管理、品質管理、予算・経費管理、リスク管理の４つの重要管理項目について理解できる。	30%
セールスプロモーションイベントの戦略を説明できる	レポートおよびテストによって評価。 上位目的に沿った戦略を立案し、その戦略に沿った手法・手段を選定・開拓し、それを明文化できる。	30%
評価の方法　授業への意欲40%、小テスト30%、レポート30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ＳＰとは何か？	セールスプロモーションという概念とその目的
2	ＳＰの分類と特性	ＳＰの種類とそれぞれの特性を理解
3	ＳＰの基本	基本的な「販売促進策」の概要
4	ＳＰ戦略	上位目的を達成するための戦略の構築とは
5	ＳＰイベントの組織	企画、準備、実施段階に置ける組織と役割を理解
6	ＳＰイベントの企画	社会のフィールドを意識したイベント企画について
7	ＳＰの基本	「ＳＰの基本」について中間テスト実施
8	ＳＰイベントの歴史	百貨店の誕生とＳＰイベント
9	ＳＰイベントの告知	イベント告知のための広告、広報について
10	ＳＰイベントの管理	ＳＰイベントの管理業務とは
11	ＳＰイベントの実際①	百貨店催事とイベント
12	ＳＰイベントに実際②	商店街の活性化
13	ＳＰイベントの実際③	異業種交流イベントについて
14	ＳＰイベントの実際④	イベントの企画について
15	ＳＰイベントのまとめ	ＳＰイベントの有用性について

【使用教材】

◇授業時にテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストおよびレポートにより確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントは社会の動きと無関係ではないので、一週間の出来事について興味をもった事柄とその理由を毎授業時に全員に発表してもらう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

コミュニティイベント	シヅカ　マサノリ 志塚　昌紀
Events in Community	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

地方の時代と言われだして久しい。だが、実情はまだ中央依存であり、地方は過疎化に悩んでいるところも少なくない。コミュニティも（地域社会）もまた、商店街のシャッター街化が深刻な問題となっているように、衰えつつある例が多々みられる。こうした現状を背景に、各地で地域再生への足がかりとして多様なイベントが開催されており、地域と人をつなぐ大きな役割を果たしている。コミュニティが真に自立し、他と連帯しながら活性化すること、それがコミュニティにおけるイベントの意義である。

本授業では理論をただ学ぶだけではなく、グループワークやフィールドワークなどを通じ、コミュニティに関するより実践的な学びと理解を重視する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コミュニティの概念やイベント事例を知る	レスポンスシートや試験などにおいて理解度を評価する。	20%
コミュニティにおける課題を把握することができる	上記に同じ。	20%
課題の分析とその解決への提案	試験やプレゼンテーション等で評価する。	60%
評価の方法　授業毎で実施するレスポンスシート40%・課題プレゼンテーション30%、期末試験30%。コミュニティに対する情報の収集力、洞察、分析、改善へのアイディアを問う。		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	オリエンテーション	授業内容、進め方の説明
2	コミュニティとは① ～コミュニティの定義	・コミュニティの語源、概念、定義 ・コミュニティの崩壊と再生
3	コミュニティとは② ～コミュニティと地域社会	・公共の担い手としての市民 ・市民参加と協働
4	コミュニティとは③ ～コミュニティとビジネス	・コミュニティ課題を解決するビジネス手法 ・コミュニティビジネスの効果と課題
5	ゲストスピーカー①	
6	スマートコミュニティ事例① ～コミュニティとイベント	・コミュニティ再生のためのイベントづくり ・コミュニティレガシーとしてのイベントの価値
7	コミュニティイベント事例② ～コミュニティづくりと手法	・コミュニティイベントづくりの手法 ・ワークショップの事例と特徴
8	コミュニティイベント事例③ ～コミュニティとボランティア	・コミュニティイベントにおけるボランティアの意義と意味
9	ゲストスピーカー②	
10	コミュニティを調査する①	コミュニティ調査の手法やスキル～資料文献調査、フィールドワーク調査
11	コミュニティを調査する②	自身の属する、あるいは関心をもつコミュニティの課題を調査する
12	コミュニティを調査する③	コミュニティ課題の解決にむけたイベントづくりを考える
13	コミュニティを調査する④	発表に向けた資料づくり
14	成果発表会	イベント提案プレゼンテーション
15	まとめ	

【使用教材】

◇適宜配付する。

【履修条件等】

◇コミュニティに興味を持ち、学ぶ意欲がある学生なら、とくに条件はない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自分が属するコミュニティ、あるいは興味を抱くコミュニティに関する情報収集、視察などをおこなうこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：２～３年生

アミューズメント	志塚（シヅカ）　昌紀（マサノリ）
Amusement	応用科目／半期／２単位

【授業概要】

アミューズメントの訳語は「娯楽」である。21世紀は、娯楽を含めた「余暇の時代」と言われることもあるように、生活のなかにゆとりや癒しを求める機運が高まっており、その傾向はますます強まると考える。本講義では、余暇という概念と理論を学び、さらに代表的なアミューズメントである遊園地・テーマパークなどの娯楽の世界を探求するなかで、アミューズメントの価値や意義を理解していく。

なお、本授業は講義での学びを生かして、①グループでアミューズメント空間をプロトタイピング（原型）を作る、②研究テーマを設定しフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションする。などの実践的な学びも行っていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
余暇や娯楽の定義や概念、歴史を学ぶ	レスポンスシートや試験などにおいて理解度を評価する。	20%
遊園地・テーマパーク、アミューズメント施設の現状を把握する	上記と同様に、小レポート、あるいは発表等で評価する。確認はプレゼンテーションで行う。	20%
レジャー、アミューズメントの近未来を予想する	試験やプレゼンテーション等で評価する。	60%
評価の方法　授業毎で実施するレスポンスシート40%・課題プレゼンテーション30%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	余暇と余暇学	余暇の概念と余暇学の立場
2	余暇活動の歴史	レジャー・アミューズメントの歴史とレジャー産業の現状、統合型リゾートについて
3	遊園地とテーマパーク	遊園地とテーマパークの定義と現状分析
4	ゲストスピーカー①	
5	アミューズメント事例①	事例：東京ディズニーリゾート ～ディズニーの思想とテーマパークビジネス
6	アミューズメント事例②	事例：ユニバーサルスタジオジャパン ～アミューズメントの考え方とテーマパーク経営
7	アミューズメント事例③	事例：長崎ハウステンボス ～テーマパークから始まる実験観光都市
8	アミューズメントと e スポーツ	e スポーツの展開と今後の課題
9	今後のレジャー・アミューズメント	これからのアミューズメント空間はどのように構築されていくか、想像してみる
10	ゲストスピーカー②	
11	プロトタイピング①	レゴブロックを活用したアミューズメント空間の創作
12	プロトタイピング②	ゲームアプリケーションを活用したアミューズメントの創作
13	プレゼンテーション①	研究テーマのプレゼンテーション実施
14	プレゼンテーション②	研究テーマのプレゼンテーション実施
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇適宜配付する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに予習すべき教材はないが、周囲のレジャー施設、アミューズメント機器類に注意を払い、それらの現状や将来に対して想像力を働かせること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

簿記技能Ⅰ（日商３級）	福山（フクヤマ） 倫基（トモキ）
Bookkeeping Ⅰ	応用科目／集中／２単位

【授業概要】

本講義は、2019年度日商簿記３級、６月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記３級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行いますが、次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問１から問５までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%

評価の方法　３分の２以上の出席を前提に、貢献点10%、期末試験90%で評価します。
※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。
貢献点は、講師が開発した講義を受講し、講義のいずれかの段階で、講師から依頼されるアンケートにまじめに取り組むことで付与されます。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	問１対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問２対策講座	補助簿全般の解き方、Ｔ字勘定を使った解答法
3	問３対策講座	試算表全般の解き方
4	問４対策講座	伝票などの解き方
5	問５対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6	問１問題演習	問１問題の演習徹底的にやります
7	問２問題演習	問２問題の演習徹底的にやります
8	問３問題演習	問３問題の演習徹底的にやります
9	問４問題演習	問４問題の演習徹底的にやります
10	問５問題演習	問５問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習(1)	過去問は最低３年分はする必要があるので内１回を
12	過去問演習(2)	過去問は最低３年分はする必要があるので内１回を
13	予想問題演習	今回の６月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

＊授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ｉ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記３級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、ＰＣや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記３級６月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

専門科目　　イベントプロデュース学科 履修対象：１～３年生

簿記技能Ⅱ（日商２級）	光澤（ミツザワ）　美芽（ミメ）
Bookkeeping II	応用科目／集中／２単位

【授業概要】

本講義は、2019-20年度の日商簿記２級（２月）試験合格を目指す者を対象とし、複式簿記の発展的な内容を整理・確認することを目的とした集中講義である。そのため、「商業簿記Ⅰ」（他学科科目）、「商業簿記Ⅱ」（他学科科目）、「工業簿記Ⅰ」（他学科科目）および「工業簿記Ⅱ」（他学科科目）の履修が終了している、もしくは自身で日商簿記２級受験に向けた学習をすでに行っている必要がある。

簿記検定に合格するためには検定特有の問題の解き方が必要となるため、本講義では検定の解答のテクニックも含め、検定試験の各問の傾向を理解し、検定試験の問題に慣れることを目的としている。受講者の苦手な設問に対し個別指導などを行うが、本講義を受けるだけで検定試験に合格できるわけではないという点には注意が必要である。あくまで、本講義は２級の範囲全般にわたる内容の確認をテーマとしており、検定試験の補助的な役割として活用されるものである。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問１から問５までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答によって評価 試験範囲の仕訳は確実に解けるように、しっかり理解することが必要。	30%
原価計算に関して理解すること	設問に対する回答によって評価 原価計算の仕組みを理解し、計算に慣れる。	30%
精算表等に関して理解すること	設問に対する回答によって評価	30%

評価の方法　全講義回数の３分の２以上の出席を前提として、授業への貢献度20%、期末試験80%にて総合的に判断。
※期末試験に関しては授業中に説明をする。

【授業計画】

回	テーマ	内　容
1	ガイダンス	講義の進め方および評価方法の説明、２級の概要（30分）
2	問１　対策講座(1)	問１のポイント＜商業簿記の仕訳全般＞（120分）
3	問１　対策講座(2)	演習と解説（120分）
4	問２　対策講座(1)	問２のポイント＜特殊仕訳帳、伝票会計など＞（120分）
5	問２　対策講座(2)	演習と解説（120分）
6	問３　対策講座(1)	問３のポイント＜精算表、本支店会計など＞（120分）
7	問３　対策講座(2)	演習と解説（120分）
8	問４　対策講座(1)	問４のポイント＜費目別計算・部門別計算など＞（120分）
9	問４　対策講座(2)	演習と解説（120分）
10	問５　対策講座(1)	問５のポイント＜総合原価計算・標準原価計算など＞（120分）
11	問５　対策講座(2)	演習と解説（120分）
12	まとめと総復習	総合演習（120分）

※状況によっては多少前後する場合もある。

【使用教材】

◇開講時に指示する。

【履修条件等】

◇以下の条件を満たしていること。

①日商簿記検定３級の資格を取得していること。

②「商業簿記Ⅰ」（他学科科目）、「商業簿記Ⅱ」（他学科科目）、「工業簿記Ⅰ」（他学科科目）および「工業簿記Ⅱ」（他学科科目）をすでに履修済み、もしくは日商簿記２級レベルの商業簿記・工業簿記の知識を事前に得ていること（まったく知識のないままの受講はできない）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。毎回の復習に力点を置くことが望ましい。

【その他の注意事項】

◇受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、ＰＣ、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

◇本講義は集中講義につき、開講日程および時間帯については別途掲示する。

東京富士大学

〒169-0075　東京都新宿区高田馬場３－８－１

入　試　広　報　部　TEL ０３－３３６８－０３５１

キャリア支援部　TEL ０３－３３６２－８４７９

学　生　支　援　部

学生支援担当　TEL ０３－３３６２－２２５２

留学生担当　TEL ０３－３３６８－１７６１

学　務　部

学務課　TEL ０３－３３６８－２１５４

図書館　TEL ０３－３３６８－８８２６